

世界物価連動国債ファンド

愛称:

物価の優等生

追加型証券投資信託 / ファンド・オブ・ファンズ

- 1．本文書は、証券取引法第13条の規定に基づく目論見書です。
- 2．この冊子の前半部分は「世界物価連動国債ファンド」の投資信託説明書（交付目論見書）であり、後半部分は「世界物価連動国債ファンド」の投資信託説明書（請求目論見書）です。

世界物価連動国債ファンド

愛称:

物価の優等生

追加型証券投資信託 / ファンド・オブ・ファンズ

1. 本文書は証券取引法第13条の規定に基づく目論見書のうち、同法第15条第2項の規定に基づき投資家がファンドを取得する際に予めまたは同時に交付を行う目論見書です。
2. この投資信託説明書（交付目論見書）により行う「世界物価連動国債ファンド」の受益証券の募集については、委託者は、証券取引法（昭和23年法第25号）第5条の規定により有価証券届出書を平成18年3月10日に関東財務局長に提出しており、平成18年3月11日にその届出の効力が生じております。また、同法第7条の規定により有価証券届出書の訂正届出書を平成18年4月28日、平成18年8月11日、平成18年8月29日、平成18年9月8日および平成18年9月12日に関東財務局長に提出しております。
3. 「世界物価連動国債ファンド」の受益証券の募集にあたり、委託者は証券取引法第13条の規定に基づく目論見書のうち、同法第15条第3項の規定に基づき投資家がファンドを取得する時までに投資家からご請求があった場合に交付を行う投資信託説明書（請求目論見書）を作成しています。投資信託説明書（請求目論見書）は、投資家からご請求された場合に交付されます。また、投資家が投資信託説明書（請求目論見書）の交付をご請求された場合には、請求されたことを記録しておいてくださいますようお願い申し上げます。なお、投資信託説明書（請求目論見書）の記載項目等については、投資信託説明書（交付目論見書）本文の「 . その他3. ファンドの詳細情報の項目」をご参照ください。

発 行 者 名 : T & Dアセットマネジメント株式会社

代表者の役職氏名 : 代表取締役社長 桂 幹洋

本店の所在の場所 : 東京都港区海岸一丁目2番3号

届出の対象とした募集

募集内国投資信託受益証券に係るファンドの名称 : 世界物価連動国債ファンド

募集内国投資信託受益証券の金額 : 継続募集額
5,000億円を上限とします。

有価証券届出書の写しを縦覧に供する場所 : 該当事項はありません。

投資リスク

「世界物価連動国債ファンド」は、主として値動きのある投資信託の受益証券に投資しますので、基準価額は変動します。また、為替の変動により損失を被ることがあります。したがって、投資元本が保証されているものではありません。また、収益や投資利回り等も未確定の商品です。投資信託財産に生じた利益および損失は、全て投資家の皆様に帰属します。

投資信託振替制度への移行について(お知らせ)

投資信託振替制度とは

- ・ファンドの受益権の発生、消滅、移転をコンピュータシステムにて管理します。
- ・ファンドの設定、解約、償還等がコンピュータシステム上の帳簿(「振替口座簿」といいます。)への記載・記録によって行われますので、受益証券は発行されません。

振替制度に移行すると

- ・原則として受益証券を保有することはできなくなります。
- ・受益証券を発行しませんので、盗難や紛失のリスクが削減されます。
- ・ファンドの設定、解約等における決済リスクが削減されます。
- ・振替口座簿に記録されますので、受益権の所在が明確になります。
- ・非課税などの税制優遇措置が平成20年1月以降も継続されます。

当ファンドは、平成19年1月4日より、投資信託振替制度への移行を予定しており、移行後の当ファンドの受益権は「社債等の振替に関する法律」[※]の規定の適用を受けることとします。

政令で定める日以降「社債、株式等の振替に関する法律」となった場合は読み替えるものとし、「社債、株式等の振替に関する法律」を含め、以下「社振法」といいます。

振替受益権について

平成19年1月4日より、当ファンドの受益権は社振法の規定の適用を受けることとし、同日以降に追加信託される受益権の帰属は、T&Dアセットマネジメント株式会社(以下「委託会社」といいます。)があらかじめこのファンドの受益権を取り扱うことに同意した振替機関およびこの振替機関に係る口座管理機関(以下、「振替機関等」という場合があります。)の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります。(以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。)

当ファンドの受益権は、本交付目論見書の「 . ファンドの概要」中の「1 . 基本情報 (6) 振替機関に関する事項」に記載の振替機関の振替業にかかる業務規程等の規則に従って取り扱われるものとします。

当ファンドの分配金、償還金、換金代金は、社振法および「振替機関に関する事項」に記載の振替機関の業務規程その他の規則に従って支払われます。

既に発行された受益証券の振替受益権化について

委託会社は、本交付目論見書の「 . 申込手続等の概要」中の「4 . 管理及び運営の概要 (7) 投資信託約款の変更」に記載の手続きにより、信託約款の変更を行う予定であり、この信託約款の変更が成立した場合、受益者を代理して当ファンドの受益権を振替受入簿に記載または記録を申請することができるものとします。

原則として当ファンドの平成18年12月29日現在の全ての受益権 を受益者を代理して平成19年1月4日に振替受入簿に記載または記録するよう申請します。

ただし、保護預りではない受益証券に係る受益権については、信託期間中において委託会社が受益証券を確認した後、当該申請を行うものとします。

受益権につき、既に投資信託契約の一部解約が行われたもので、当該一部解約にかかる一部解約金の支払開始日が平成19年1月4日以降となるものを含みます。

振替受入簿に記載または記録された受益権にかかる受益証券(当該記載または記録以降に到来する計算期間の末日にかかる収益分配金交付票を含みます。)は無効となり、当該記載または記録により振替受益権となります。

また、委託会社は、受益者を代理してこのファンドの受益権を振替受入簿に記載または記録を申請する場合において、販売会社に当該申請の手続きを委任することができます。

詳しくは後述の「信託約款(平成19年1月4日適用予定)の変更内容について」をご覧ください。

以上

目論見書の概要

本概要は、有価証券届出書本文「第一部 証券情報」、「第二部 ファンド情報」を要約したものです。詳細は、投資信託説明書（交付目論見書）本文の該当箇所をご覧ください。

商品分類	追加型証券投資信託 / ファンド・オブ・ファンズ
ファンドの目的	この投資信託は、安定した収益の確保と投資信託財産の着実な成長をめざして運用を行います。
主な投資制限	株式への投資は行いません。 投資信託証券の投資割合には制限を設けません。 有価証券先物取引等の派生商品取引の指図は行いません。 外貨建資産への直接投資は行いません。
投資リスク	当ファンドは、主に投資信託の受益証券に投資を行い、投資対象とする投資信託の受益証券は主に外貨建て債券など値動きのある有価証券を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、当ファンドは投資元本が保証されているものではありません。また、収益や投資利回り等も未確定の商品です。ファンドの運用資産に生じた利益および損失は、全て投資者に帰属します。
信託期間	原則無期限です。
決算日	原則として3ヵ月に1回（3・6・9・12月の各10日とします。ただし、該当日が休業日の場合は翌営業日とします。）決算を行います。
収益分配	毎決算日に基準価額水準、市場環境等を勘案し、分配を行います。ただし、必ず分配を行うわけではありません。
お申込期間	平成18年3月11日（土）～平成19年3月9日（金） （なお、期間満了前に有価証券届出書を提出することによって更新されます。）
お買付単位	お申込になる販売会社（申込取扱場所）により、お申込単位は異なります。販売会社ないしは委託者までお問い合わせください。
お買付価額	お申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
お申込手数料	お申込になる販売会社（申込取扱場所）により、手数料は異なります。投資信託説明書（交付目論見書）本文または販売会社（申込取扱場所）でご確認下さい。
ご換金手続	解約請求により、販売会社が定める単位で毎営業日（ニューヨーク、ロンドン、メルボルン、ケイマンの各都市における証券取引所および銀行の休業日を除きます。）お申込できます。
ご換金価額	解約請求日の翌営業日の基準価額から、信託財産留保額を差し引いた額（解約価額）とします。なお、1口あたりのお手取り額は、解約価額から源泉徴収税額を差し引いた金額です。
信託財産留保額	解約請求日の翌営業日の基準価額に0.2%の率を乗じて得た額とします。
信託報酬	純資産総額に対し、年率0.945%（税抜0.9%）

投資信託説明書（交付目論見書）本文をよくお読みいただき、商品の内容・リスクをご理解のうえお申込くださいますよう、お願い申し上げます。

ファンドの投資方針・投資リスク

投資方針

以下の投資信託の受益証券を主要投資対象とします。

- ・ケイマン籍 円建て外国投資信託「グローバルインフレ連動国債ファンド」
- ・証券投資信託「T & D マネープールマザーファンド」

グローバルインフレ連動国債ファンドの受益証券の組入比率は、原則として高位を保ちます。

投資リスク

当ファンドが有する主なリスク(当ファンドが投資対象とする投資信託の受益証券の価格変動の原因となるリスクを含みます。)は以下の通りです。

物価変動リスク	当ファンドは投資信託の受益証券への投資を通じて、主として世界主要国の物価連動国債に投資します。各国における物価の下落はその国の物価連動国債の元本および利払い額を減少させ、その結果、投資対象ファンドが保有する物価連動国債の価格が下落した場合には、投資対象ファンドの価格の下落を通じて当ファンドの基準価額が値下がりし、その結果、投資元本に欠損を生じる恐れがあります。
金利変動リスク	当ファンドは投資信託の受益証券への投資を通じて、世界主要国の物価連動国債および国内の公社債に投資します。一般に、金利が上昇すると債券の価格は下落します。この場合には、投資対象ファンドの価格の下落を通じて当ファンドの基準価額が値下がりし、その結果、投資元本に欠損を生じる恐れがあります。なお、金利上昇時でも物価が同時に上昇するケースでは、物価連動国債の元本および利払い額が増加します。その結果、投資対象ファンドが保有する物価連動国債の価格が上昇した場合には、結果的に金利の上昇によるマイナスの影響の一部または全部が相殺される場合があります。
信用リスク	当ファンドは投資信託の受益証券への投資を通じて、海外の債券および国内の公社債に投資します。また、直接公社債等の有価証券および金融商品に投資することがあります。一般に、有価証券の発行者に、または金融商品の運用先に経営不振もしくは債務不履行等が生じた場合、有価証券または金融商品等の価格は下落し、もしくは価値が無くなる場合があります。この場合には、投資対象ファンドの価格の下落を含めて当ファンドの基準価額が値下がりし、その結果、投資元本に欠損を生じる恐れがあります。
流動性リスク	解約による当ファンドの資金流出に対応し、解約資金を手当てするために、通常よりも著しく低い価格での保有証券の売却を余儀なくされる可能性があります。当ファンドの解約による資金流出のみならず、当ファンドが投資対象とする投資信託の受益証券に投資する他のファンドの解約による資金流出に対応し、その解約資金を手当てするために、投資対象ファンドにおいて通常よりも著しく不利な価格での取引を余儀なくされる可能性があります。また、市場の混乱等のために、市場において取引ができなかったり、通常よりも著しく不利な価格での取引を余儀なくされる可能性があります。これらの場合には、投資対象ファンドの価格の下落を含めて当ファンドの基準価額が値下がりし、その結果投資元本に欠損を生じる恐れがあります。
為替変動リスク および カントリーリスク	当ファンドは投資信託の受益証券への投資を通じて、海外の債券に投資します。投資対象ファンドは原則として対円で為替ヘッジを行いませんので、通貨の価格変動によって投資対象ファンドの円建ての評価額は変動します。一般に外貨建資産の価格は、当該外国通貨に対し円安になれば上昇しますが、円高になれば下落します。外貨建資産の価格が下落した場合、投資対象ファンドの価格の下落を通じて当ファンドの基準価額も値下がりし、その結果、投資元本に欠損を生じる恐れがあります。 また、投資対象ファンドにおける投資対象国の政治経済情勢の悪化、通貨規制、資本規制が生じた場合には、投資対象ファンドの価格の下落を通じて当ファンドの基準価額も値下がりし、その結果、投資元本に欠損を生じる恐れがあります。
その他	上記のほか、投資者が当ファンドの取得時に支払う所定の申込手数料、一部解約時に控除される信託財産留保額、当ファンドの投資信託財産から支弁する信託報酬および証券取引に伴う手数料等の管理費用も、投資者が支払った投資元本に欠損を生じる要因となります。

ファンドの特色

ファンドの目的及び基本的性格

1 安定した収益の確保を目的として運用を行います。

投資信託の受益証券への投資を通じて実質的に日本を除く世界の物価連動国債および国内の公社債等への投資を行うことにより、安定的な収益の確保と、投資信託財産の着実な成長をめざして運用を行います。

2 日本を除く世界の物価連動国債に広く投資を行います。

当ファンドは、主として日本を除く世界の物価連動国債に投資を行う外国籍投資信託「グローバルインフレ連動国債ファンド」と、主として国内の公社債に投資を行う「T & D マネープールマザーファンド」を主要投資対象とするファンド・オブ・ファンズです。当ファンドに投資することにより、実質的に日本を除く世界の物価連動国債に広く投資することが可能となります。

3 バンガード社が外国籍投資信託の運用を担当します。

外国籍投資信託「グローバルインフレ連動国債ファンド」の運用は、世界有数の運用会社である、ザ・バンガード・グループの一員バンガード・インベストメンツ・オーストラリア社が行います。なお、外国籍投資信託は円建てとし、原則として為替ヘッジは行いません。このため、為替相場の変動による影響を受けます。

ザ・バンガード・グループとは

1975年に米国にて創立、30年の歴史をもつバンガード・グループ・インクは、総資産120兆円を超える独立系運用会社です。1976年、業界初の公募インデックスファンドの運用を開始。現在のインデックス運用資産は総額45兆円を超えています。同社はインデックス運用のエキスパートとして世界でその実績を認められています。
(2006年3月末現在)

バンガードの5つの本質

ファンドが運用会社を所有する
独特の企業構造
ローコスト・リーダー
長期投資運用の重視
一貫した投資哲学
顧客利益の最優先

4 原則として、毎決算日（3ヵ月毎）に収益の分配を行います。

当ファンドは、原則として毎決算日（3ヵ月毎）に収益の分配を行います。パークレイズ・キャピタル世界インフレ連動国債インデックス（除く日本）に採用されている国が発行する物価連動国債を実質的な投資対象とすることにより、安定した収益分配を目指します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

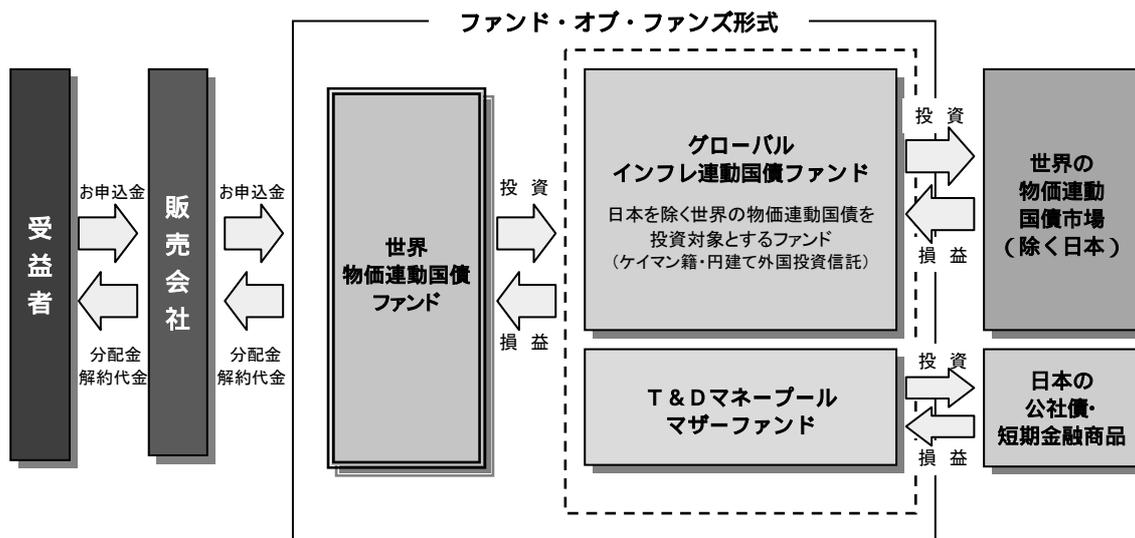


ファンドの仕組み

当ファンドは、以下の投資信託の受益証券に投資を行うファンド・オブ・ファンズです。

ケイマン籍 外国投資信託 「グローバルインフレ連動国債ファンド」
証券投資信託 「T & D マネープールマザーファンド」

「グローバルインフレ連動国債ファンド」の組入比率は、原則として高位を保ちます。
各受益証券の組入比率には制限を設けません。



投資対象とするファンドの概要

グローバルインフレ連動国債ファンド	ファンド名	T&Dマネープールマザーファンド
ケイマン籍 外国投資信託(円建て)	商品分類	証券投資信託
2005年3月1日	設定日	2005年2月28日
パークレイズ・キャピタル世界インフレ連動国債インデックス(除く日本)に採用されている国が発行する物価連動国債を主要投資対象とし、原則として同インデックスに連動する投資成果を目標として運用を行います。	運用基本方針	わが国の公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を図ります。
アメリカ・イギリス・フランス・イタリア・スウェーデン・カナダ・オーストラリア・ドイツ・ギリシャが発行する物価連動国債 ※投資対象国は2006年7月現在のものであり、今後変更の可能性があります。	主な投資対象	わが国の公社債および短期金融商品
毎年11月末日	決算日	毎年6月・12月の各10日 (該当日が休業日の場合は翌営業日とします。)
運用報酬 純資産総額の年0.22%以下 管理報酬 純資産総額の年0.10%程度 信託報酬合計 純資産総額の年0.32%程度 *上記報酬は2006年7月現在のものであり、資産規模により変動します。 *上記管理報酬には保管費用等を含みます。申込手数料はありません。	信託報酬等	ありません
【投資顧問】 バンガード・インベストメンツ・オーストラリア社	運用会社	【委託会社】 T&Dアセットマネジメント株式会社

世界の物価連動国債投資の魅力

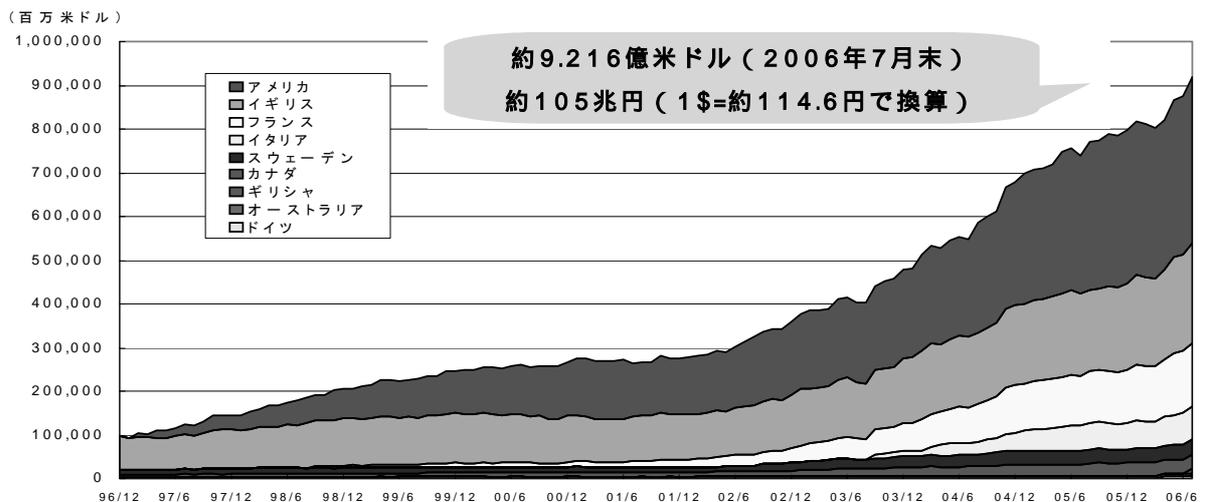
物価連動国債は、株式と比べて一般的に価格変動リスクが低いことに加え、物価の動きにあわせて元本や利息が増減する性質を持ち、インフレに強いとされています。このような魅力を背景に、世界の物価連動国債の発行残高は大きく増加しています。

「世界物価連動国債ファンド」は投資信託の受益証券への投資を通じて、主として日本を除く世界の物価連動国債に広く投資を行います。



- 1 為替リスクをはじめとしたリスクがありますので、元本や利息が増加しても投資額を下回ることがあります。
- 2 過去の傾向であり、将来を保証するものではありません。

(参考) 国別物価連動国債市場の時価総額
~ 先進国を中心に発行額が急増 ~



上表は Bloomberg のデータに基づき、委託会社 (T&D アセットマネジメント) が作成したものです。上表はパークレイズ・キャピタル社が発表している世界インフレ連動国債インデックス(除く日本)に採用されている国が発行する物価連動国債の時価総額の推移を示したものであり(2006年7月末現在)、全ての物価連動国債の時価総額を表示するものではありません。このデータは過去のものであり、将来を予測、保証するものではありません。

魅力 その1 インフレ時には資産価値の維持に効果あり

インフレが起こると、実質的な貨幣価値が下落します。物価連動国債はインフレ時に元本および利息が増加するため、その貨幣価値の下落を補い、資産価値の維持にプラスの効果があります。

インフレとは・・・

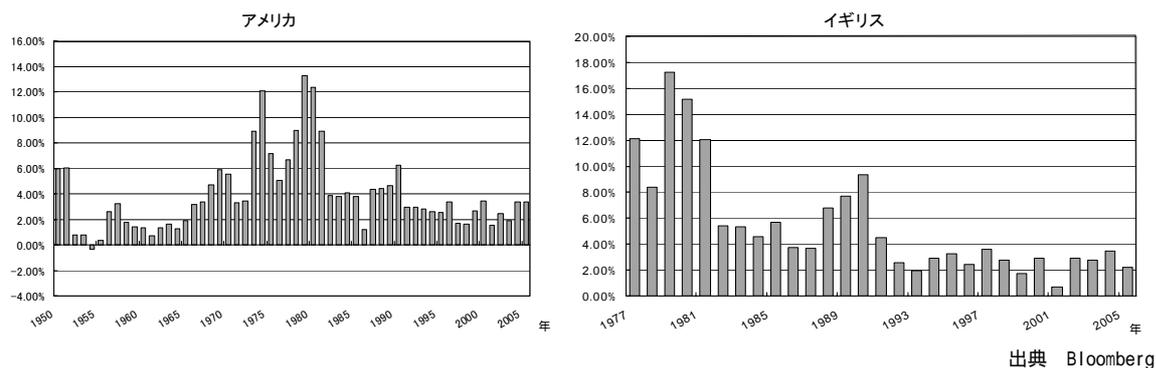
「インフレ」とは、「インフレーション」の略。物価（モノやサービスの値段）が継続して上昇する状態をいいます。インフレが進むに従いモノの値段が上がる為、貨幣価値の下落を招きます。

一般に、インフレが起こると金利上昇に伴い債券の価格は下落する傾向にあり、通常の債券投資はインフレ時に比較的弱いとされています。一方、物価連動国債の元本および利息は、インフレが進んだ分に連動して増加します。そのため、将来のインフレリスクをヘッジ（回避）する手段として有効です。

インフレリスクとは、物価上昇率（インフレ率）が金融商品などの収益率を上回った場合に、実質的な投資損失が発生するリスクのことを指します。

（参考）アメリカおよびイギリスのインフレ率

～インフレは概ねプラス水準で推移～



（参考）実質価値の推移

～タンス預金にしているとお金の価値は...～

	アメリカ(米ドル)	イギリス(ポンド)	フランス(フラン)	日本(円)
1975/1/1	100	100	100	10,000
1985/1/1	49	33	38	6,096
1995/1/1	35	21	28	5,268
2006/1/1	26	16	24	5,306

上表は1975年以降の各国における貨幣の実質価値の推移（概算）を表したものであり、実際の貨幣価値の推移とは必ずしも一致しない場合があります。

上表はBloombergのデータに基づき委託会社が作成したものです。

通貨の実質価値算出にあたっては各国の代表的なインフレ指数を使用しておりますが、個別の物価連動国債が参照する指数とは異なるケースがあります。

フランスフランは実際には1999年1月よりユーロに統合されておりますが、便宜的にフランスフランが存続したとの仮定に基づく計算を行っております。

上表データは過去の実績であり、将来を予測・保証するものではありません。

魅力 その2 インフレ時には発行国の消費者物価指数（CPI）の上昇に連動して元本や利息が増加します

元本や利息はどのように決まるのですか？

物価連動国債は、物価の変動に連動して元本が増減します。その増減した元本額を「想定元本額」といい、想定元本額により毎回の受取利息、償還金の額が決定します。なお、物価の変動を表す「インフレ率」とは、毎月発行国において定期的に発表されている消費者物価指数（CPI）を基準に測定されています。

物 価 (消費者物価指数)	利 息	想 定 元 本 額 (償 還 額)
計 算 方 法	【インフレ率に連動して増減】 (各利払い時点の想定元本額×表面利率)	【インフレ率に連動して増減】
上 昇 した 場 合 (インフレ時)	↑ 増 加	↑ 増 加
下 落 した 場 合 (デフレ時)	↓ 減 少	↓ 減 少

上記は物価連動国債の一般的な値動きをわかりやすく表現したものです。なお、発行する国によってはデフレ時に元本保証がされる債券もあります。

(参考) 物価連動国債の元本および利息額の変動例

物価連動国債で現在、最も多い発行形態の例を示しています。また仕組みを分かり易くするため、発行期間は1年と仮定しています。

物価連動国債
発行時元本(CPI=100)

クーポン2% 100万円 元本

1年後

※これらの図は消費者物価指数(CPI)の変化による元本、受取利息の変動を表したものであり、値動きを示したものではありません。
 ※当資料に使用した数値は物価連動国債の仕組みについてのイメージをわかりやすく説明する目的で用いたものであり、将来の投資成果や利回りを保証するものではありません。
 ※当資料は当ファンドの基準価額の動きを説明したものではありません。物価連動国債の市場価格は物価だけではなく、金利、為替レートなどの要因に影響を受けますので、物価上昇時でも当ファンドの基準価額は下落する場合があります。
 ※受取利息および投資利回りは税引前です。
 ※当ファンドを購入される場合は申込手数料2.1%(税込)がかかります。

ケース1:1年後に物価が1%上昇(CPI=101) 投資利回り 3.02%

受取利息 20.200円	元本 101万円	合計 1,030,200円
-----------------	-------------	------------------

ケース2:1年後の物価が変動せず(CPI=100) 投資利回り 2.00%

受取利息 20.000円	元本 100万円	合計 1,020,000円
-----------------	-------------	------------------

ケース3:1年後の物価が1%下落(CPI=99) 投資利回り 0.98%

受取利息 19.800円	元本 99万円	合計 1,009,800円
-----------------	------------	------------------

※このケースは元本保証がついていない場合ですが、償還時にデフレ時の元本保証制度がある国があります。

<元本および受取利息の計算式>

元 本 = 発行時元本 × $\frac{1\text{年後のCPI}}{\text{発行時のCPI}}$

受取利息 = 発行時元本 × $\frac{1\text{年後のCPI}}{\text{発行時のCPI}} \times \text{クーポン}(2\%)$

魅力 その3 先進国が発行する債券を投資対象としているため、信用力が高い

当ファンドが投資対象とする「グローバルインフレ連動国債ファンド」は、日本を除く世界の主要物価連動国債市場のパフォーマンスを表す指数として、世界で広く利用されている「バークレイズ・キャピタル世界インフレ連動国債インデックス(除く日本)」に採用されている国が発行する物価連動国債を主要投資対象とします。

アメリカ、イギリス等の先進国が発行する物価連動国債は、一般的に信用力が高いとされており、「バークレイズ・キャピタル世界インフレ連動国債インデックス(除く日本)」に採用されている債券の平均格付けはA A A (2006年7月現在)です。

(参考)物価連動国債の主要発行国

～日本でも2004年に初めて発行～

世界で最初の物価連動国債は1981年にイギリスで発行されました。その後、アメリカ、フランス、イタリア、ドイツなどをはじめとした主要国を中心に世界各国で発行され、現在もその発行残高は増加傾向にあります。発行銘柄数、発行規模、償還時における元本保証の有無、償還年限などの発行条件は発行国・銘柄等によって様々です。

イギリス(1981年)	フランス(1998年)
オーストラリア(1985年)	イタリア(2003年)
カナダ(1991年)	ギリシャ(2003年)
スウェーデン(1994年)	日本(2004年)
アメリカ(1997年)	ドイツ(2006年)

()は発行開始年次
バークレイズ・キャピタル社調べ

当ファンドは現在、日本の物価連動国債は投資対象としておりません。

各国の物価連動国債の発行条件については変更となる場合があります。

バークレイズ・キャピタル世界インフレ連動国債インデックス(除く日本)とは

「バークレイズ・キャピタル世界インフレ連動国債インデックス(除く日本)」は、日本を除く世界の主要インフレ連動国債市場の値動きを表す指数として、広く利用されています。

同指数は、バークレイズ・キャピタル社により計算および公表が行われています。

同指数への採用、組入れについては、バークレイズ・キャピタル社により、クーポン、償還年限、発行規模、発行市場等を勘案し決定されます。

同指数に採用されている国は、アメリカ・イギリス・フランス・イタリア・スウェーデン・カナダ・オーストラリア・ドイツ・ギリシャの9カ国ですが(2006年7月現在) 今後は変更される可能性があります。

なお、同指数の公表、採用国およびその基準等については今後予告無く中止、変更される可能性があります。

魅力 その4 物価連動国債への投資は、一般的に株式投資に比べて価格変動リスクが低くインフレヘッジに有効

従来から株式はインフレヘッジ(回避)資産とされてきましたが、通常は債券に比べて値動きが大きいという点に、株式投資における収益とインフレ率との相関関係はあまり高くない傾向があります。一方、債券への投資は株式投資に比べて一般的に価格変動リスクが低いとされており、なかでも物価連動国債は、物価の変動により利息および元本が増減する性質を有するため、通常の国債に比べて値動きが緩やかになる傾向があります。

物価連動国債へ投資することで、インフレへの備えを株式投資に比べて低い価格変動リスクで行うことが可能となります。

お申込の手引き

お買付に関しては

お申込時期	平成18年3月11日(土)～平成19年3月9日(金) 申込期間は期間満了前に有価証券届出書を提出することによって更新されます。 原則として、毎営業日(ニューヨーク、ロンドン、メルボルン、ケイマンにおける証券取引所および銀行の休業日を除きます。)お申込できます。 お申込の受付時間は午後3時(本邦証券取引所の半日立会日は午前11時)までとさせていただきます。受付時間を過ぎてのお申込は、翌営業日の受付となります。
お買付単位	お買付単位および取扱いコースは販売会社により異なります。販売会社ないしは委託者(次頁の照会先)までお問い合わせください。
お買付価額	お申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
お申込手数料	販売会社が個別に定めます。 (有価証券届出書提出日現在の上限は、お申込価額の2.1%(税抜2.0%)です。)

ご換金に関しては

ご換金時期	原則として毎営業日(ニューヨーク、ロンドン、メルボルン、ケイマンにおける証券取引所および銀行の休業日を除きます。)解約請求によりご換金いただけます。買取請求の取り扱いにつきましては、販売会社にお問い合わせください。 解約請求の受付時間は午後3時(本邦証券取引所の半日立会日は午前11時)までとさせていただきます。受付時間を過ぎてのお申込は、翌営業日の受付となります。
ご換金単位	ご換金単位および取扱いコースは販売会社により異なります。詳細は、販売会社ないしは委託者(次頁の照会先)までお問い合わせください。
ご換金価額	解約請求日の翌営業日の基準価額から、信託財産留保額(基準価額の0.2%)を差し引いた額(解約価額)です。 なお、解約価額が個別元本を上回った場合、1口当たりのお手取額は解約価額から源泉徴収税額を差し引いた額となります。
お支払開始	解約代金のお支払は、原則として解約請求日の日から起算して5営業日目以降となります。ただし、大口(概ね1億口以上)の解約請求をされた場合または他の受益者の方の解約請求も含めて同日の解約請求の累計が一定限度を超える場合もしくは海外の休日や解約に伴う外国投資信託の売却状況等によっては、上記の原則による支払い開始日が遅延する場合があります。その場合の支払い開始日等詳しくはお申込の販売会社にお問い合わせ下さい。

分配金に関しては

分配時期	3ヵ月に1回(3・6・9・12月の10日。ただし、該当日が休業日の場合は翌営業日とします。)収益の分配を行います。 収益の分配は、約款に定める「収益分配方針」に基づいて行います。
支払方法	[一般コース(分配金受取)] 分配金は、原則として決算日から起算して5営業日目からお支払いします。 [自動継続投資コース(分配金再投資)] 分配金は税金を差し引き後、自動的に無手数料で再投資されます。 取扱コースは販売会社により異なります。
お手取り額	分配金から税金を差し引いた金額です。 分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いの「特別分配金」(受益者毎の元本の一部払戻しに相当する部分)があります。 「普通分配金」に対して源泉徴収税が課せられます。

償還に関しては

信託期間	信託期間は原則無期限です。 ただし、受益権口数が10億口を下回る等、約款における信託終了に関する定め に該当する場合には、所定の手続きを経て、信託を終了させることがあります。
------	---

基準価額に関しては

基準価額	取扱販売会社またはT&Dアセットマネジメントにお問い合わせいただければ、いつでもお知らせいたします。 また、原則として計算日の翌日付の日本経済新聞朝刊に掲載されます。
------	--

《照会先》

T & Dアセットマネジメント株式会社

マーケティング部 0120-151425 (フリーダイヤル)

(受付時間は営業日の午前9時~午後5時(証券取引所の半日立会日は午前9時~正午))

インターネットホームページ <http://www.tdasset.co.jp/>

費用と税金

直接ご負担いただく費用・税金

時 期	項 目	費 用 ・ 税 金		
お 申 込 時	申 込 手 数 料	お申込価額（注1）に対して 上限2.1%（税抜2.0%）		
ご 換 金 時 （ 解 約 請 求 ）	信託財産留保額	基準価額に対して 0.2%		
	源 泉 徴 収 税	解約価額の 個別元本超過額 （注2）に対して	[平成20年3月31日まで] 10% （所得税7%、地方税3%） 源泉徴収・申告不要制度	[平成20年4月1日から] 20% （所得税15%、地方税5%） 源泉徴収・申告不要制度
収 益 分 配 時	源 泉 徴 収 税	普通分配金に 対して	源泉徴収・申告不要制度	
償 還 時	源 泉 徴 収 税	償還価額の 個別元本超過額 （注2）に対して	（注3）	（注3）

（注1）お申込価額とは「お申込受付日の翌営業日の基準価額（1口当たり）×お申込口数」をいいます。
 （注2）個別元本とは、受益者毎の信託時の受益証券の価額等をいいます。
 （注3）個人の受益者に対する税金を記載しております。

税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になる場合があります。

信託財産で間接的にご負担いただく（信託財産が支払う）費用・税金

時 期	項 目	費 用 ・ 税 金	
毎 日	信託報酬	総 額	純資産総額に対し 0.945% （税抜0.90%）
		（内 訳） 委 託 会 社	0.315% （税抜0.30%）
		販 売 会 社	0.588% （税抜0.56%）
		受 託 銀 行	0.042% （税抜0.04%）

その他投資対象となるグローバルインフレ連動国債ファンドに信託報酬（運用報酬0.22%以下、管理報酬0.10%程度（2006年7月現在のものであり、資産規模等に応じて管理報酬が変動します。））その他費用がかかります。同信託報酬を含めると、実質的に年率1.265%程度（税抜1.22%程度。2006年7月現在のものであり、投資対象ファンドの資産規模等に応じて変動します。）の信託報酬を投資信託財産でご負担いただきます。

当ファンドの財務諸表の監査に要する費用（税込）を投資信託財産でご負担いただきます。

その他証券取引に伴う手数料等を、投資信託財産でご負担いただきます。

税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になる場合があります。

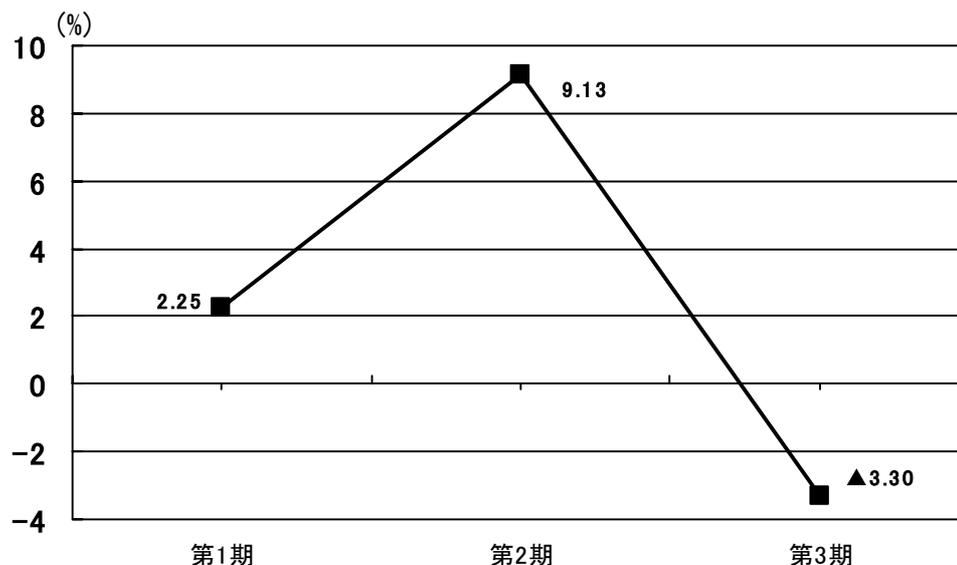
運用実績

■ 当ファンドの各特定期間毎の収益率の推移

- 対象期間（各特定期間） -

第1期特定期間（平成17年2月28日）

～ 第3期特定期間末（平成18年6月12日）まで



注) 収益率とは、特定期間末の基準価額（分配付の額）から当該特定期間の直前の特定期間末の基準価額（分配落の額。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た額に100を乗じて得た数字です。なお、第1期特定期間においては、前期末基準価額（1万口当たり）を1万円として計算しています。（小数点以下第3位を四捨五入して算出しております。）

$$\text{収益率} = \frac{\text{特定期間末基準価額（分配付の額）} - \text{前期末基準価額（分配落の額）}}{\text{前期末基準価額（分配落の額）}} \times 100$$

投資信託説明書（交付目論見書） 目 次

	頁
． ファンドの概要	1
1. 基本情報	1
(1) ファンドの名称	1
(2) 内国投資信託受益証券の形態等	1
(3) 発行価額の総額	1
(4) 発行価格	1
(5) 信託金の限度額	1
(6) 振替機関に関する事項	1
(7) その他	2
2. ファンドの仕組み	3
． 運用の内容	5
1. ファンドの特色等	5
(1) ファンドの目的及び基本的性格	5
(2) ファンドの特色	5
2. 投資方針	6
(1) 投資方針	6
(2) 主な投資対象	6
(3) 主な投資制限	7
(4) 分配方針	8
3. 運用体制	10
4. 投資リスク及びリスク管理体制	11
(1) 当ファンドのもつリスクの特性	11
(2) 投資リスクに対する管理体制	12
． 申込手続等の概要	13
1. お買付時	13
(1) 申込期間	13
(2) 申込取扱場所及び払込取扱場所	13
(3) お申込の方法	13
(4) 申込手数料	14
(5) 申込単位	14
(6) 払込期日	14
2. ご換金時	14
(1) 換金手続等	14
(2) 換金手数料	15
3. その他の手数料及び税金	15
(1) 信託報酬等	15
(2) その他の手数料等	16
(3) 課税上の取扱い	16

4. 管理及び運営の概要	17
(1) 資産の評価	17
(2) 保 管	17
(3) 信託期間	17
(4) 計算期間	17
(5) 運用報告書	18
(6) 信託の終了	18
(7) 投資信託約款の変更	18
. ファンドの運用状況等	20
1. 運 用 状 況	20
(1) 投資状況	20
(2) 投資資産	20
(3) 運用実績	21
2. 財務ハイライト情報	23
(1) 貸借対照表	23
(2) 損益及び剰余金計算書	24
(3) 注 記 表	25
. そ の 他	26
1. 委託会社の概況	26
2. 内国投資信託受益証券事務の概要	26
3. ファンドの詳細情報の項目	28

約款
用語集

．ファンドの概要

1．基本情報

(1) ファンドの名称

世界物価連動国債ファンド

ただし、愛称として「物価の優等生」という名称を用いることがあります。

(以下「当ファンド」といいます。)

(2) 内国投資信託受益証券の形態等

追加型証券投資信託受益証券(以下「受益証券」といいます。)です。

原則として収益分配金交付票付の無記名式受益証券です。ただし、受益者の希望により、無記名式から記名式、または記名式から無記名式への変更をすることができます。

当ファンドは、格付を取得していません。

当ファンドの受益権は、平成19年1月4日より、社債等の振替に関する法律(政令で定める日以降「社債、株式等の振替に関する法律」となった場合は読み替えるものとし、「社債、株式等の振替に関する法律」を含め「社振法」といいます。以下同じ。)の規定の適用を受ける予定であり、受益権の帰属は、後述の「(6)振替機関に関する事項」に記載の振替機関及び当該振替機関の下位の口座管理機関(社振法第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。)の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります(以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。)。委託者であるT&Dアセットマネジメント株式会社は、やむを得ない事情等がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。また、振替受益権には無記名式や記名式の形態はありません。

(3) 発行価額の総額

5,000億円を上限とします。

(4) 発行価格

取得申込日の翌営業日の基準価額*とします。

*「基準価額」とは、ファンドの資産総額から負債総額を控除した金額(純資産総額)をその時の発行済受益権総口数で除した1口当たりの純資産価額をいいます。(ただし、便宜上1万口当たりに換算した価額で表示されます。)

基準価額につきましては、委託者(以下「委託会社」ということがあります。)の指定する証券会社および登録金融機関(以下、委託者も含め「販売会社」ということがあります。)ないしは下記にお問い合わせください。

T&Dアセットマネジメント株式会社

マーケティング部 0120-151425(フリーダイヤル)

(受付時間は営業日の午前9時~午後5時(証券取引所の半日立会日は午前9時~正午))

インターネットホームページ <http://www.tdasset.co.jp/>

(5) 信託金の限度額

信託金の限度額は5,000億円です。ただし、受託者と合意のうえ、当該限度額を変更することができます。

(6) 振替機関に関する事項

該当事項はありません。なお、当ファンドの受益権は、平成19年1月4日より投資信託振替制度

(「振替制度」と称する場合があります。)に移行する予定であり、その場合の振替機関は下記の通りです。

株式会社証券保管振替機構

(7) その他

日本以外の地域における発行はありません。

振替受益権について

当ファンドの受益権は、平成19年1月4日より振替制度に移行する予定であり、社振法の規定の適用を受け、上記「(6)振替機関に関する事項」に記載の振替機関の振替業にかかる業務規程等の規則にしたがって取り扱われるものとします。

当ファンドの分配金、償還金、換金代金は、社振法および上記「(6)振替機関に関する事項」に記載の振替機関の業務規程その他の規則にしたがって支払われます。

(参考)

投資信託振替制度とは、

- ・ファンドの受益権の発生、消滅、移転をコンピュータシステムにて管理します。
- ・ファンドの設定、解約、償還等がコンピュータシステム上の帳簿(「振替口座簿」といいます。)への記載・記録によって行われますので、受益証券は発行されません。

振替制度に移行すると

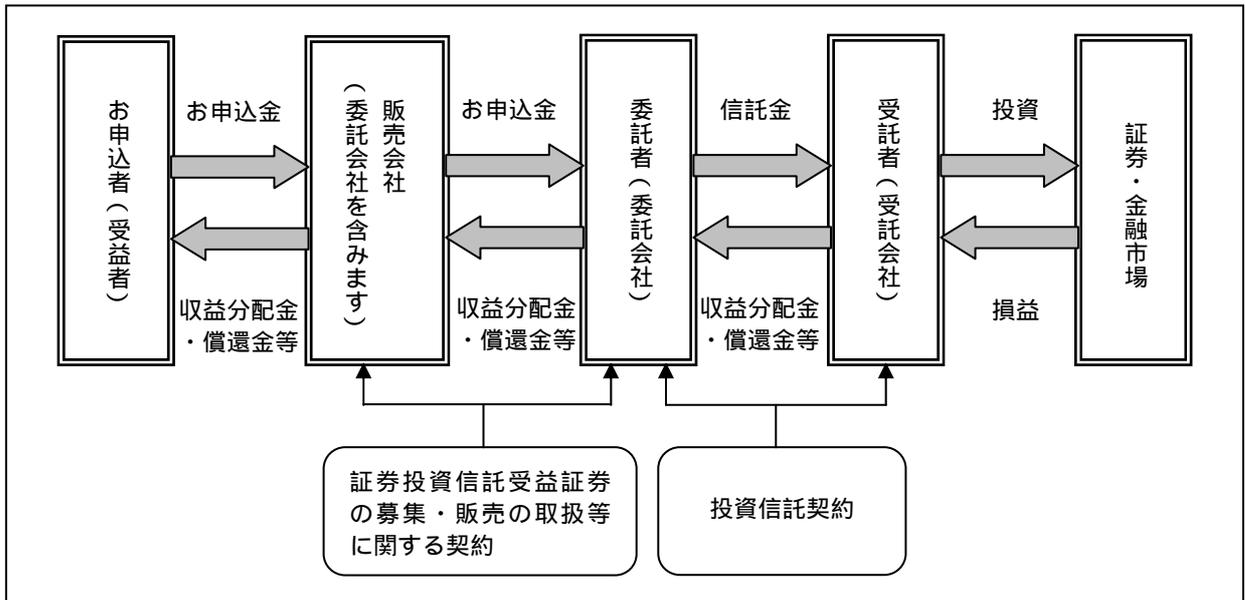
- ・原則として受益証券を保有することはできなくなります。
- ・受益証券を発行しませんので、盗難や紛失のリスクが削減されます。
- ・ファンドの設定、解約等における決済リスクが削減されます。
- ・振替口座簿に記録されますので、受益権の所在が明確になります。
- ・非課税などの税制優遇措置が平成20年1月以降も継続されます。

既発行受益証券の振替受益権化について

委託者は、「 . 申込手続等の概要 4 . 管理及び運営の概要 (7) 投資信託約款の変更」の手続きにより投資信託約款の変更を行う予定であり、この投資信託約款の変更が成立した場合、受益者を代理して当ファンドの受益権を振替受入簿に記載または記録を申請することができるものとし、原則として当ファンドの平成18年12月29日現在の全ての受益権(受益権につき、既に投資信託契約の一部解約が行われたもので、当該一部解約にかかる一部解約金の支払開始日が平成19年1月4日以降となるものを含みます。)を受益者を代理して平成19年1月4日に振替受入簿に記載または記録するよう申請します。ただし、保護預りではない受益証券に係る受益権については、信託期間中において委託者が受益証券を確認した後当該申請を行うものとします。振替受入簿に記載または記録された受益権にかかる受益証券(当該記載または記録以降に到来する計算期間の末日にかかる収益分配金交付票を含みます。)は無効となり、当該記載または記録により振替受益権となります。また、委託者は、受益者を代理してこの信託の受益権を振替受入簿に記載または記録を申請する場合において、販売会社ならびに保護預り会社または委託者の指定する口座管理機関に当該申請の手続きを委任することができます。

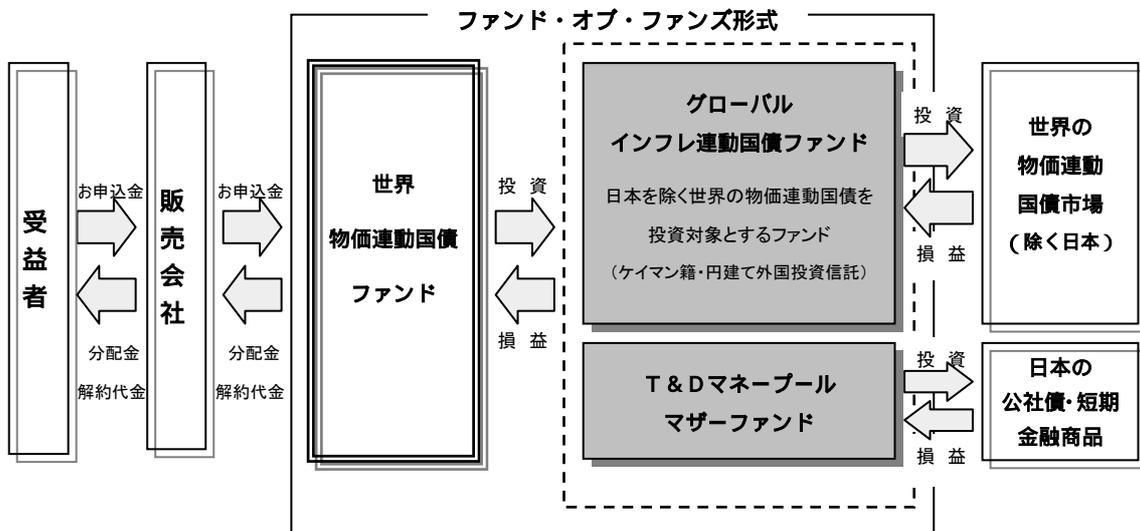
2. ファンドの仕組み

ファンド運営の仕組み



ファンド・オブ・ファンズについて

当ファンドは、主として投資信託の受益証券に投資を行うファンド・オブ・ファンズ形式で運用を行います。



委託会社およびファンドの関係法人の名称およびファンド運営上の役割
(委託会社が関係法人と締結している契約等の概要を含みます。)

a. 委託者 (委託会社)

T & Dアセットマネジメント株式会社

委託者は、投資信託約款 (投資信託契約) の規定等に基づき主に次の業務を行います。

- (1) 投資信託約款の届出
- (2) 投資信託財産の運用指図
- (3) 投資信託財産の計算 (毎日の基準価額の計算)
- (4) 受益証券の発行
- (5) 目論見書および運用報告書の作成等

委託者は、これらの業務に対する報酬として、信託報酬の一部を受取ります。

b. 受託者（受託会社）

三菱UFJ信託銀行株式会社

受託者は、投資信託約款（投資信託契約）の規定等に基づき主に次の業務を行います。

- (1) 投資信託財産の保管・管理・計算
- (2) 委託者の指図に基づく投資信託財産の処分
- (3) 受益証券の認証等

なお、信託事務の一部につき日本マスタートラスト信託銀行株式会社に委託することができます。

（再信託受託会社：日本マスタートラスト信託銀行株式会社）

当ファンドの受託者として投資信託財産の保管・管理業務等を行います。

受託者は、これらの業務に対する報酬として、信託報酬の一部を受取ります。

c. 販売会社

販売会社は、委託者との間に締結した「証券投資信託受益証券の募集・販売の取扱等に関する契約」（別の名称で同様の権利義務関係を規定する契約を含みます。）等に基づき、主に次の業務を行います。

- (1) 受益証券の募集・販売の取扱い
- (2) 受益証券の一部解約請求の取扱い
- (3) 一部解約金、収益分配金および償還金の支払いの取扱い
- (4) 受益証券の保護預り
- (5) 目論見書、運用報告書の交付等

販売会社は、これらの業務に対する報酬として、委託者が受け取る信託報酬の一部を受取ります。

．運用の内容

1．ファンドの特色等

(1) ファンドの目的及び基本的性格

当ファンドは、ファンド・オブ・ファンズであり、投資信託財産の安定した収益の確保と投資信託財産の着実な成長をめざして運用を行います。

ファンド・オブ・ファンズとは、社団法人投資信託協会が定める分類方法において、「主として投資信託証券に投資するもの」として分類されるファンドです。

(2) ファンドの特色

< 安定した収益の確保を目的として運用を行います。 >

投資信託の受益証券への投資を通じて実質的に日本を除く世界の物価連動国債および国内の公社債等への投資を行うことにより、安定的な収益の確保と、投資信託財産の着実な成長をめざして運用を行います。

< 投資信託の受益証券への投資を通じて、日本を除く世界の物価連動国債に広く投資を行います。 >

当ファンドは、主として日本を除く世界の物価連動国債に投資を行う外国籍投資信託「グローバルインフレ連動国債ファンド」と、主として国内の公社債に投資を行う「T & D マネープールマザーファンド」を主要投資対象とするファンド・オブ・ファンズです。当ファンドに投資することにより、実質的に日本を除く世界の物価連動国債に広く投資することが可能となります。

< バンガード社が外国籍投資信託の運用を担当します。 >

外国籍投資信託「グローバルインフレ連動国債ファンド」の運用は、世界有数の運用会社である、ザ・バンガード・グループの一員バンガード・インベストメンツ・オーストラリア社が行います。なお、外国籍投資信託は円建てとし、原則として為替ヘッジは行いません。このため、為替相場の変動による影響を受けます。

ザ・バンガード・グループとは

1975年に米国にて創立、30年の歴史をもつバンガード・グループ・インクは、総資産120兆円を超える独立系運用会社です。1976年、業界初の公募インデックスファンドの運用を開始。現在のインデックス運用資産は総額45兆円を超えています。同社はインデックス運用のエキスパートとして世界でその実績を認められています。(2006年3月末現在)

バンガードの5つの本質

ファンドが運用会社を所有する
独特の企業構造

ローコスト・リーダー

長期投資運用の重視

一貫した投資哲学

顧客利益の最優先

<原則として、毎決算日（3ヵ月毎）に収益の分配を行います。>

当ファンドは、原則として毎決算日（3ヵ月毎）に収益の分配を行います。パークレイズ・キャピタル世界インフレ連動国債インデックス（除く日本）に採用されている国が発行する物価連動国債を実質的な投資対象とすることにより、安定した収益分配を目指します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。



<世界の物価連動国債の魅力>

本書冒頭の「世界の物価連動国債投資の魅力」における記載内容をご参照下さい。

2. 投資方針

(1) 投資方針

基本方針

当ファンドは、安定した収益の確保と投資信託財産の着実な成長をめざして運用を行います。

投資態度

- a. 主として、ケイマン籍の円建ての外国投資信託であるグローバルインフレ連動国債ファンドおよび国内の証券投資信託であるT & Dマネープールマザーファンドの受益証券に投資を行います。
- b. グローバルインフレ連動国債ファンドの受益証券の組入比率は、原則として高位を保ちます。なお、投資対象とする各受益証券の組入比率には制限を設けません。
- c. 資金動向や市況動向等によっては、上記のような運用が行われない場合があります。

(2) 主な投資対象

主として以下の2つの投資信託の受益証券に投資を行います。

ケイマン籍 外国投資信託

「グローバルインフレ連動国債ファンド」

(ファンド・オブ・ファンズにのみ取得される外国投資信託)

国内の証券投資信託

「T & Dマネープールマザーファンド」

他に、短期社債等、コマーシャルペーパーまたは短期金融商品等により運用を行う場合があります。詳しくは当ファンドの投資信託約款第21条および第22条をご参照ください。

(参考) 投資する投資信託証券およびその概要

ファンド名	グローバルインフレ連動国債ファンド
商品分類	ケイマン籍 / 外国投資信託 (円建て)
設定日	2005年3月1日
運用基本方針	パークレイズ・キャピタル世界インフレ連動国債インデックス (除く日本) に採用されている国が発行する物価連動国債を主要投資対象とし、原則として同インデックスに連動する投資成果を目標として運用を行います。
主な投資対象	アメリカ・イギリス・フランス・イタリア・スウェーデン・カナダ・オーストラリア・ドイツ・ギリシャが発行する物価連動国債 投資対象国は2006年7月現在のものであり、今後変更の可能性があります。
主な投資制限	投資信託証券への投資割合は純資産総額の5%以内とします。 原則として為替ヘッジは行いません。
分配方針	原則として、3ヵ月毎に利子・配当等収益および売却益を原資として配当を行います。
決算日	毎年11月末日
信託報酬等	運用報酬 純資産総額の年0.22%以下 管理報酬 純資産総額の年0.10%程度 (資産規模等に応じて管理報酬が変動します。) 信託報酬合計 純資産総額の年0.32%程度 * 上記報酬は2006年7月現在のものであり、資産規模により変動します。 * 上記管理報酬には保管費用等を含みます。申込手数料はありません。
投資顧問会社	バンガード・インベストメンツ・オーストラリア社

ファンド名	T & D マネープールマザーファンド
商品分類	証券投資信託
設定日	2005年2月28日
運用基本方針	わが国の公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を図ります。
主な投資対象	わが国の公社債および短期金融商品を主要投資対象とします
主な投資制限	株式への投資は行いません。 外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	分配は行いません。
決算日	毎年6月・12月の各10日 (該当日が休業日の場合は翌営業日とします。)
信託報酬等	信託報酬、申込手数料、信託財産留保額はありませぬ。
委託会社	T & D アセットマネジメント株式会社

(3) 主な投資制限

当ファンドの投資信託約款に基づく投資制限

- a. 株式への投資は行いません。(運用の基本方針)
- b. 投資信託証券への投資割合には制限を設けません。(運用の基本方針)
- c. 有価証券先物取引等の派生商品取引の指図は行いません。(運用の基本方針)

d．外貨建資産への直接投資は行いません。（運用の基本方針）

e．資金の借入れを行うことができます。当該借入金をもって有価証券等の運用は行いません。
（約款第30条）

詳しくは当ファンドの投資信託約款をご参照ください。

「投資信託及び投資法人に関する法律」（以下「投信法」といいます。）および関係法令に基づく投資制限

a．委託会社は、一の投資信託財産の純資産総額に100分の50を乗じて得られる額が当該投資信託財産に係る次のイおよびロに掲げる額（これに係る取引のうち当該取引が評価損を生じたのと同じ事由により評価益を生じた取引がある場合には当該評価益の合計額を控除した額とします。）ならびにハおよびニに掲げる額の合計額を下回ることとなるにもかかわらず、当該投資信託財産に係る有価証券先物取引等（投信法施行規則第27条第4項において定義されている「有価証券先物取引等」を意味します。）を行うことまたは継続することを受託会社に指図してはなりません。

イ．当該投資信託財産に係る先物取引等評価損（有価証券オプション取引等および有価証券店頭オプション取引等の売付約定に係るものを除きます。）

ロ．当該投資信託財産に係る有価証券オプション取引等および有価証券店頭オプション取引等のうち売付約定に係るものにおける原証券等の時価とその行使価格との差額であって当該オプションの行使に伴い発生すると見込まれる損失の額から当該オプションに係る帳簿価額を控除した金額であって評価損となるもの

ハ．当該投資信託財産をもって取得し現在保有している新株予約権証券に係る時価とその帳簿価額の差額であって評価損となるもの

ニ．当該投資信託財産をもって取得し現在保有しているオプションを表示する証券または証書に係る時価とその帳簿価額との差額であって評価損となるもの

b．委託会社は、同一の法人の発行する株式について、委託会社が運用の指図を行う全ての委託者指図型投資信託につき投資信託財産として有する当該株式に係る議決権の総数が、当該株式に係る議決権の総数に100分の50を乗じて得た数を超えることとなる場合において、当該株式を投資信託財産をもって取得することを受託会社に指図してはなりません。

（4）分配方針

3ヵ月に1回（3、6、9、12月の10日とします。ただし、10日が休業日の場合は翌営業日とします。）決算を行い、原則として以下の方針により分配を行います。

分配対象額は、経費控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。

収益分配金額は、分配対象額の範囲内で、委託者が基準価額水準、市場環境等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないことがあります。

収益分配に充てず、投資信託財産に留保した利益については、運用の基本方針にしたがって運用を行います。

配当等収益とは、配当金、利子、貸付有価証券にかかる品貸料およびこれらに類する収益から支払利息を控除した額で、諸経費、投資信託財産にかかる会計監査費用（税込）、信託報酬（税込）を控除した後、その残金を受益者に分配することができます。ただし、次期以降の分配にあてるため、その一部を分配準備積立金として積み立てることができます。

売買益とは、売買損益に評価損益を加減した利益金額で、諸経費、投資信託財産にかかる会計監査費用（税込）、信託報酬（税込）を控除し、繰越欠損金のあるときは、その全額を売

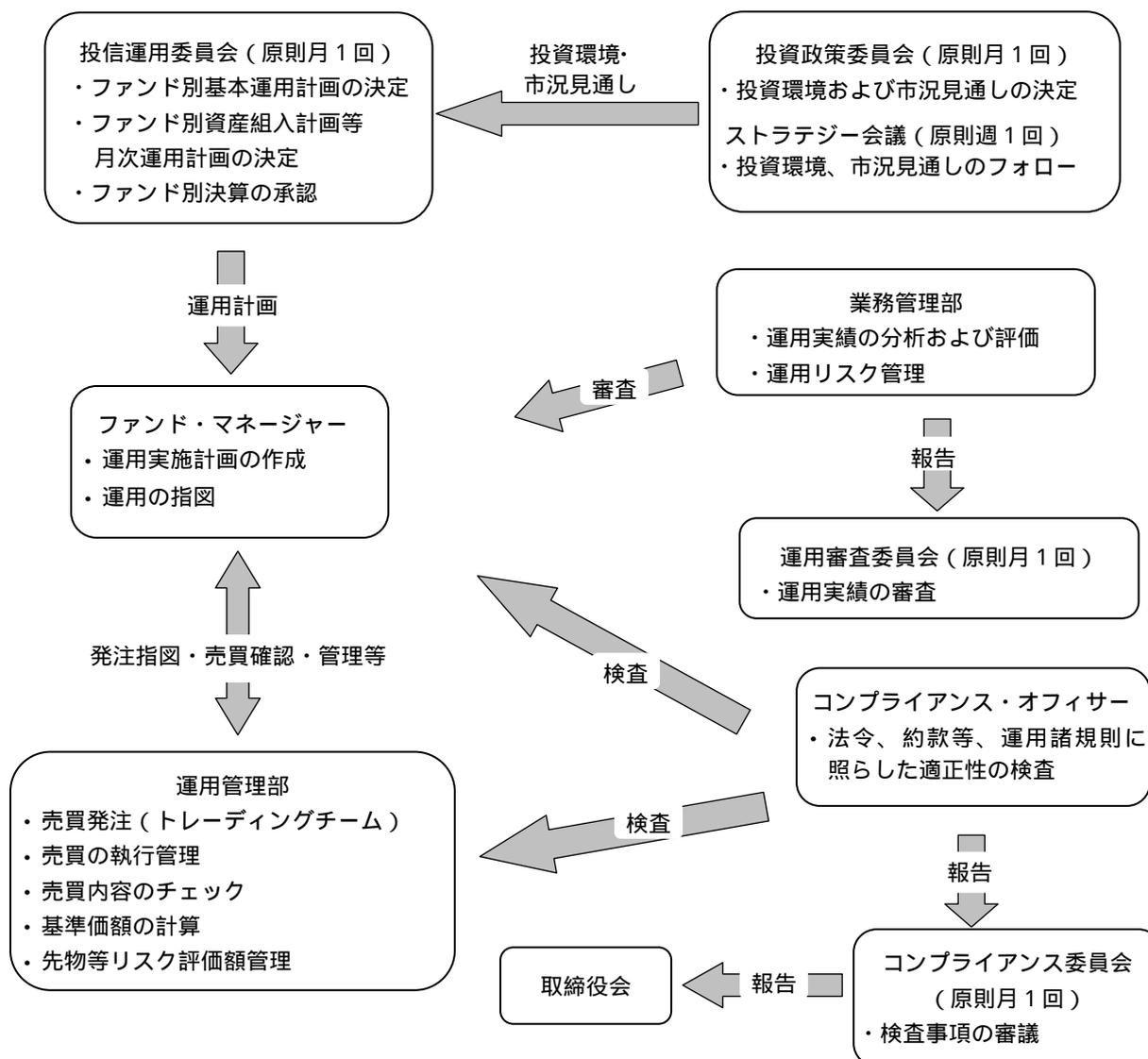
買益をもって補てんした後、受益者に分配することができます。ただし、次期以降の分配にあてるため、分配準備積立金として積み立てることができます。

毎計算期末において、投資信託財産につき生じた損失は、次期に繰り越します。

(注) 当ファンドの受益権は、平成19年1月4日より振替制度に移行する予定であり、その場合の分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし、)に、原則として決算日から起算して5営業日目(予定)からお支払いします。なお、平成19年1月4日以降においても、時効前の収益分配金にかかる収益分配金交付票は、なおその効力を有するものとし、その収益分配金交付票と引き換えに受益者にお支払いします。「自動継続投資コース」をお申込みの場合は、分配金は税引き後無手数料で再投資されますが、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

3. 運用体制

当ファンドの運用体制は以下のとおりです。



個別ファンドの運用計画については、ファンド・マネージャーが組入比率等の計画を立案し、投信運用委員会（チーフ・インベストメント・オフィサー（運用部門長）を委員長とし、コンプライアンス・オフィサー、運用企画部長、運用管理部長、業務管理部長、投信運用担当部長および委員長が指名する者を委員として、原則として毎月1回および必要に応じて臨時に開催）での審議・決定および投信運用担当部長の承認を経て実施されます。

ファンドの運用体制等は平成18年7月末日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

4. 投資リスク及びリスク管理体制

(1) 当ファンドのもつリスクの特性

当ファンドは、主として投資信託の受益証券に投資を行い、投資対象とする投資信託受益証券は主に海外の債券および国内の公社債などの値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、当ファンドは投資元本（申込金額に所定の申込手数料（税込）を加えた額で、投資者が当ファンドの取得時に支払う受渡金額の総額をいいます。）が保証されているものではありません。また、収益や投資利回り等も未確定の商品です。当ファンドは預貯金や保険契約とは異なります。また、当ファンドは預金保険および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社以外で当ファンドを購入した場合は、投資者保護基金による支払対象ではありません。当ファンドの運用資産（以下「投資信託財産」といいます。）に生じた利益および損失は全て投資者に帰属します。当ファンドの基準価額の変動要因となる主なリスク（当ファンドが投資対象とする投資信託の受益証券の価格変動の原因となるリスクを含みます。）は次の通りです。

物価変動リスク

当ファンドは投資信託の受益証券への投資を通じて、主として世界主要国の物価連動国債に投資します。各国における物価の下落はその国の物価連動国債の元本および利払い額を減少させ、その結果、投資対象ファンドが保有する物価連動国債の価格が下落した場合には、投資対象ファンドの価格の下落を通じて当ファンドの基準価額が値下がりし、その結果、投資元本に欠損を生じる恐れがあります。

金利変動リスク

当ファンドは投資信託の受益証券への投資を通じて、世界主要国の物価連動国債および国内の公社債に投資します。一般に、金利が上昇すると債券の価格は下落します。この場合には、投資対象ファンドの価格の下落を通じて当ファンドの基準価額が値下がりし、その結果、投資元本に欠損を生じる恐れがあります。

なお、金利上昇時でも物価が同時に上昇するケースでは、物価連動国債の元本および利払い額が増加します。その結果、投資対象ファンドが保有する物価連動国債の価格が上昇した場合には、結果的に金利の上昇によるマイナスの影響の一部または全部が相殺される場合があります。

信用リスク

当ファンドは投資信託の受益証券への投資を通じて、海外の債券および国内の公社債に投資します。また、直接公社債等の有価証券および金融商品に投資することがあります。一般に、有価証券の発行者に、または金融商品の運用先に経営不振もしくは債務不履行等が生じた場合、有価証券または金融商品等の価格は下落し、もしくは価値が無くなる場合があります。この場合には、投資対象ファンドの価格の下落を含めて当ファンドの基準価額が値下がりし、その結果、投資元本に欠損を生じる恐れがあります。

流動性リスク

解約による当ファンドの資金流出に対応し、解約資金を手当てするために、通常よりも著しく低い価格での保有証券の売却を余儀なくされる可能性があります。当ファンドの解約による資金流出のみならず、当ファンドが投資対象とする投資信託の受益証券に投資する他のファンドの解約による資金流出に対応し、その解約資金を手当てするために、投資対象ファンドにおいて通常よりも著しく不利な価格での取引を余儀なくされる可能性があります。また、市場の混乱等のために、市場において取引ができなかったり、通常よりも著しく不利な価格での取引を余儀なくされる可能性があります。これらの場合には、投資対象ファンドの価格の下落を含めて当ファンドの基準価額が値下がりし、その結果、投資元本に欠損を生じる恐れがあります。

為替変動リスクおよびカントリーリスク

当ファンドは投資信託の受益証券への投資を通じて、海外の債券に投資します。投資対象ファンドは原則として対円での為替ヘッジを行いませんので、通貨の価格変動によって投資対象フ

ファンドの円建ての評価額は変動します。一般に外貨建資産の価格は、当該外国通貨に対し円安になれば上昇しますが、円高になれば下落します。外貨建資産の価格が下落した場合、投資対象ファンドの価格の下落を通じて当ファンドの基準価額も値下がりし、その結果、投資元本に欠損を生じる恐れがあります。

また、投資対象ファンドにおける投資対象国の政治経済情勢の悪化、通貨規制、資本規制が生じた場合には、投資対象ファンドの価格の下落を通じて当ファンドの基準価額も値下がりし、その結果、投資元本に欠損を生じる恐れがあります。

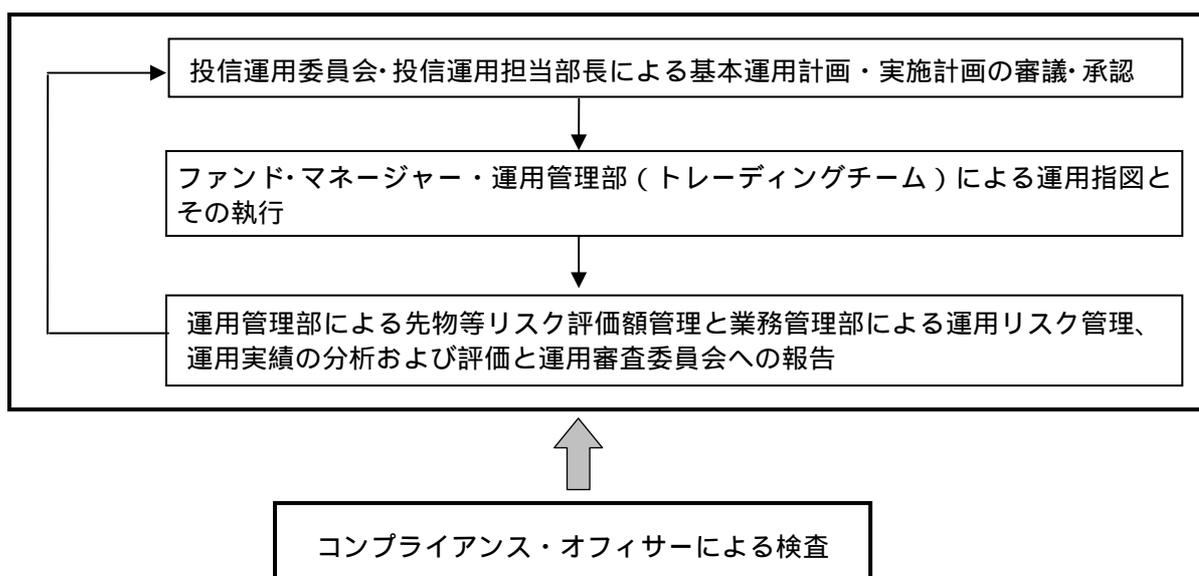
上記のほか、投資者が当ファンドの取得時に支払う所定の申込手数料、一部解約時に控除される信託財産留保額、当ファンドの投資信託財産から支弁する信託報酬および証券取引に伴う手数料等の管理費用も、投資者が支払った投資元本に欠損を生じる要因となります。

(2) 投資リスクに対する管理体制

当社の投資リスクに対する管理体制は以下のとおりです。

前述の「3. 運用体制」を定めた社内規定において、市場関連リスク（金利変動リスク等）、信用リスク、流動性リスク等の投資リスクに関する取扱い基準およびその管理体制についても併せ定めており、下記の運用体制のサイクル自体が、投資リスクの管理体制を兼ねたものとなっています。

- ・ファンド・マネージャーは定期的に、投資環境および市況見通し、ポートフォリオの状況および運用成果等をモニタリングして運用リスクの管理を行いつつ、原則として月次にて（投資環境および市況の著しい変化等に対応する場合には随時）運用計画の見直しを行い、投信運用委員会および投信運用担当部長による審議・承認を踏まえて、実際の運用指図を行い、運用管理部（トレーディングチーム）がその執行を行っています。
- ・運用管理部は、ファンドの基準価額の計算を行うとともに、先物・オプション取引等のリスク評価額の管理を行い、必要な部署等へ定期的な報告を行っています。
- ・業務管理部は、運用リスク管理を所管するとともに、ファンドのパフォーマンス評価・分析等ファンドの運用に関する審査を月次にて行い、運用審査委員会に報告を行うことにより、運用成績の改善のサポートを行っています。
- ・コンプライアンス・オフィサーは、法令、約款等、運用諸規則に照らした適正性の検査を行い、コンプライアンス委員会で審議し、取締役会に報告を行っています。



投資リスクに対する管理体制は平成18年7月末日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

．申込手続等の概要

1．お買付時

(1) 申込期間

平成18年3月11日(土曜日)から平成19年3月9日(金曜日)まで。

なお、申込期間は、上記期間満了前に有価証券届出書を提出することによって更新されます。

(2) 申込取扱場所及び払込取扱場所

申込取扱場所及び払込取扱場所(販売会社)につきましては、下記にお問い合わせください。

T & Dアセットマネジメント株式会社

マーケティング部 0120-151425(フリーダイヤル)

(受付時間は営業日の午前9時～午後5時(証券取引所の半日立会日は午前9時～正午))

インターネットホームページ <http://www.tdasset.co.jp/>

(3) お申込の方法

当ファンドの受益証券の取得申込者は、販売会社において取得の申込を行うものとします。取得の申込は、申込期間におけるニューヨーク、ロンドン、メルボルンもしくはケイマンの銀行または証券取引所の休業日を除く毎営業日に販売会社にて受付けます。受付のできない日につきましては、販売会社ないしは上記の「(2) 申込取扱場所及び払込取扱場所」の照会先までお問い合わせください。

申込の受付は、原則として営業日の午後3時(本邦証券取引所が半休日の場合は午前11時)までとし、当該受付時間を過ぎた場合は翌営業日の受付となります。ただし、受付時間は販売会社によって異なることもあります。また、証券取引所における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、受付時間が変更になることもありますのでご注意ください。詳しくは販売会社までお問い合わせください。

申込方法には、収益の分配時に収益分配金を受け取るコース(以下「一般コース」といいます。)と、収益分配金が税引き後無手数料で再投資されるコース(以下「自動継続投資コース」といいます。)があります。申込取扱場所(販売会社)によっては、どちらか一方のみの取扱となる場合がありますのでご注意ください。

「自動継続投資コース」を選択された場合には、販売会社との間で「自動継続投資契約」を締結していただきます。

*これと異なる名称で同一の権利義務関係を規定した契約を含むものとします。

受益証券のお買付価額(発行価格)は取得申込日の翌営業日の基準価額とします。お買付価額に申込口数を乗じて得た金額が申込金額となります。

証券取引所における取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、受益証券の取得申込の受付を中止することおよび既に受付けた取得申込を取消すことがあります。

当ファンドの受益権は、平成19年1月4日より振替制度に移行する予定であり、取得申込者は販売会社に、取得申込と同時にまたは予め、自己のために開設された当ファンドの受益権の振替を行うための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録が行われます。なお、販売会社(委託者の指定する口座管理機関を含みます。)は、当該取得申込の代金の支払いと引き換えに、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録を行うことができます。委託者は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行うものとします。振替機関等は、委託者から振替機関への通知があつ

た場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。受託者は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権に係る信託を設定した旨の通知を行います。

(4) 申込手数料

申込手数料(1口当たり)は、申込金額(取得申込日の翌営業日の基準価額に申込口数を乗じて得た金額をいいます。以下同じ。)もしくは申込口数に応じ、販売会社が個別に定める率(有価証券届出書提出日現在の上限は2.1%(税抜2.0%)です。)を、取得申込日の基準価額に乗じて得た額とします。なお、後述の「(5) 申込単位」において、自動継続投資コースを選択された際における収益分配金を再投資する場合の手料は無手数料とします。

申込手数料につきましては、販売会社ないしは前述の「(2) 申込取扱場所及び払込取扱場所」の照会先までお問い合わせください。

(5) 申込単位

収益分配金の受取方法により、申込には、収益の分配時に収益分配金を受取るコース(「一般コース」と、収益分配金が税引き後無手数料で再投資されるコース(「自動継続投資コース」)があります。申込単位および取扱いコースは販売会社により異なりますので、販売会社ないしは前述の「(2) 申込取扱場所及び払込取扱場所」の照会先までお問い合わせください。

(6) 払込期日

当ファンドの受益証券の取得申込者は申込代金をお申しいただきます販売会社に支払うものとします。払込期日は販売会社により異なりますので、販売会社までお問い合わせください。

各取得申込日の発行価額の総額は、追加信託を行う日に、販売会社より委託者の口座を經由して、受託者の指定する当ファンド口座に振込まれます。なお、当ファンドの受益権は、平成19年1月4日より振替制度に移行する予定であり、振替受益権に係る各取得申込日の発行価額の総額は、追加信託が行われる日に委託者の指定する口座を經由して、受託会社の指定するファンド口座に払い込まれます。

2. ご換金時

(1) 換金手続等

受益者は、委託者に販売会社が定める単位(販売会社ないしは前述の「(2) 申込取扱場所及び払込取扱場所」の照会先までお問い合わせください。)をもって一部解約の実行を請求することができます。一部解約の実行の請求の受付は、営業日の午後3時(本邦証券取引所が半休日の場合は午前11時)までとし、当該受付時間を過ぎた場合は翌営業日の受付となります。ただし、受付時間は販売会社によって異なることもあります。また、証券取引所における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、受付時間に変更になることもありますのでご注意ください。なお、ニューヨーク、ロンドン、メルボルンもしくはケイマンの銀行または証券取引所の休業日においては、一部解約の実行の請求を受け付けないものとします。受付のできない日につきましては、販売会社ないしは上記の「(2) 申込取扱場所及び払込取扱場所」の照会先までお問い合わせください。

一部解約の価額は、一部解約の実行の請求日の翌営業日の基準価額から当該基準価額に0.2%の率を乗じて得た額を信託財産留保額*として控除した価額(解約価額)とします。

*「信託財産留保額」とは、償還時まで投資を続ける投資家との公平性の確保やファンド残高の安定的な推移を図るため、クローズド期間の有無に関係なく、信託期間満了前の解約に対し解約者から徴収する一定の金額をいし、投資信託財産に繰り入れられます。

一部解約の1口当たりの受取金額は、解約価額から源泉徴収税額を差し引いた金額となります。

証券取引所における取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、一部解約の実行の請求の受付を中止することおよびすでに受付けた請求の受付を取り消すことがあります。

一部解約金は、受益者の請求を受付けた日から起算して、原則として、5営業日目から販売会社に支払います。ただし、大口（概ね1億口以上）の解約請求をされた場合または他の受益者の方の解約請求も含めて同日の解約請求の累計が一定限度を超える場合もしくは海外の休日や解約に伴う外国投資信託の売却状況等によっては、上記の原則による支払い開始日が遅延する場合があります。その場合の支払い開始日等詳しくはお申込の販売会社にお問い合わせ下さい。

解約価額につきましては、委託者または販売会社にお問い合わせください。

販売会社により、買取請求の取扱いを行う場合がありますが、詳しくは販売会社にお問い合わせください。

当ファンドの受益権は、平成19年1月4日より振替制度に移行する予定であり、換金の請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求に係るこの投資信託契約の一部解約を委託者が行うのと引き換えに、当該一部解約に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

平成19年1月4日以降の換金に係る換金の請求を受益者がするときは、振替受益権をもって行うものとし、ただし、平成19年1月4日以降に換金代金が受益者に支払われることとなる換金の請求で、平成19年1月4日前に行われる当該請求については、振替受益権となることが確実な受益証券をもって行うものとし、

平成18年12月29日時点での保護預りをご利用の方の受益証券は、原則として一括して全て振替受益権へ移行します。受益証券をお手許で保有されている方で、平成19年1月4日以降も引き続き保有された場合は、換金のお申し込みの際に、個別に振替受益権とするための所要の手続きが必要であり、この手続きには時間を要しますので、ご注意ください。

(2) 換金手数料

換金手数料はありません。

3. その他手数料等及び税金

(1) 信託報酬等

委託者および受託者の信託報酬の総額は、約款第33条に規定する計算期間を通じて毎日、投資信託財産の純資産総額に年0.945%（税抜0.90%）を乗じて得た額とします。

信託報酬の分配については純資産総額に応じて以下の通りとします。

委託者 0.315%（税抜0.30%）

受託者 0.042%（税抜0.04%）

販売会社 0.588%（税抜0.56%）

上記の信託報酬の総額（税込）は、毎計算期間末または信託終了のとき投資信託財産中から支弁します。

その他、投資対象ファンドであるグローバルインフレ連動国債ファンドの信託報酬として、合計純資産総額の年0.32%程度（運用報酬0.22%以下、管理報酬0.10%程度（2006年7月現在のものであり、資産規模等に応じて管理報酬が変動します。))を投資信託財産中から支弁します。信託報酬には保管費用等を含みます。

したがって、当ファンドの実質的な信託報酬の水準は、投資信託財産の純資産総額の年1.265%（税抜1.22%）程度（2006年7月現在のものであり、投資対象ファンドの資産規模等に応じて変動します。）となります。

（2）その他の手数料等

投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託者の立替えた立替金の利息（以下「諸経費」といいます。）は、受益者の負担とし、投資信託財産中から支弁します。

投資信託財産の財務諸表にかかる監査報酬（税込）は、約款第33条に規定する計算期間を通じて毎日、投資信託財産の純資産総額に年0.0084%（税抜0.008%）を乗じて得た額とし、毎計算期間末または信託終了のとき投資信託財産中から支弁します。

証券取引に伴う手数料、当ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料（税込）は、投資信託財産が負担します。

（3）課税上の取扱い

個人、法人別の課税の取扱いについて

個人の受益者に対する課税

個人の受益者が支払いを受ける収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに一部解約時及び償還時の個別元本超過額については、10%（所得税7%および地方税3%）の税率による源泉徴収が行われ、申告不要制度が適用されます。確定申告の必要はありませんので、10%の源泉分離課税と実質的に同じこととなります。なお、確定申告を行い、総合課税を選択することもできます。

一部解約時および償還時の損失については、確定申告により、株式の売却益との通算（3年間の繰越控除対象）が可能となります。

なお、上記の10%（所得税7%および地方税3%）の税率は、平成20年4月1日から、20%（所得税15%および地方税5%）となります。

買取請求による換金の場合、買取差益については、譲渡所得として申告分離課税の対象となり、買取差損益については、株式等の譲渡による所得との通算（3年間の繰越控除対象）が可能となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

法人の受益者に対する課税

法人の受益者が支払いを受ける収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに一部解約時および償還時の個別元本超過額については、所得税7%の税率で源泉徴収され法人の受取額となります（地方税の源泉徴収はありません）。

なお、上記の所得税7%の税率は、平成20年4月1日から、所得税15%となります。

個別元本について

受益者毎の信託時の受益証券の価額等（申込手数料（税込）は含まれません。）が当該受益者の元本（個別元本）にあたります。

受益者が同一ファンドの受益証券を複数回取得した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。

ただし、保護預りではない受益証券および記名式受益証券については各受益者毎に、同一ファンドを複数の販売会社で取得する場合には各販売会社毎に、個別元本の算出が行われます。また、同一販売会社であっても複数支店等で同一ファンドを取得する場合は当該支店毎に、「一般コース」と「自動継続投資コース」の両コースで取得する場合はコース別に、個別元本の算出が行われる場合があります。

受益者が特別分配金を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該特別分配金を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

収益分配金の課税について

追加型株式投資信託の収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「特別分配金（受益者毎の元本の一部払戻しに相当する部分）」の区分があります。

受益者が収益分配金を受け取る際、a．当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となり、b．当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が特別分配金となり、当該収益分配金から当該特別分配金を控除した額が普通分配金となります。

なお、税法が改正された場合には、上記の内容が変更になることがあります。

4．管理及び運営の概要

（1）資産の評価

基準価額とは投資信託財産に属する資産を法令および社団法人投資信託協会規則にしたがって時価評価して得た投資信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（以下「純資産総額」といいます。以下同じ。）を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。

当ファンドの主な投資対象の評価方法は以下のとおりです。

外国投資信託受益証券：原則として以下のいずれかから入手した価額で評価します。

- ・日本証券業協会発表の店頭売買参考統計値（平均値）
- ・証券会社、銀行等の提示する価額（売気配相場を除く。）
- ・価格情報会社の提供する価額

マザーファンド受益証券：原則として当ファンドの基準価額計算日の基準価額で評価します。

基準価額は委託者の営業日において日々算出され、委託者または販売会社にお問い合わせいただければ、お知らせいたします。また、基準価額（1万口当たり）は原則として翌日の日本経済新聞朝刊に〔T&Dアセット〕の「世界物価」の略号にて掲載されます。

（2）保管

取得申込者は、販売会社との間で保護預りに関する契約を締結したうえで、受益証券を保護預りとすることができます。保護預りの場合、受益証券は混蔵保管されます。なお、「自動継続投資コース」をご利用の場合、受益証券は保護預りとさせていただきます。

当ファンドの受益権は、平成19年1月4日より、振替制度に移行する予定であり、受益権の帰属は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まり、受益証券を発行しませんので、受益証券の保管に関する該当事項はなくなります。

（3）信託期間

当ファンドの信託期間は、原則として無期限ですが、後述の「（6）信託の終了」の規定により信託を終了させる場合があります。

（4）計算期間

当ファンドは、毎年3・6・9・12月の各10日に決算を行います。各計算期間終了日に該当する日（以下「該当日」といいます。）が休業日のとき、各計算期間終了日は、該当日の翌以降の最初の営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。

(5) 運用報告書

特定期間終了毎（毎年6月および12月の計算期間終了毎）に運用報告書を作成し、かつ知られたる受益者に交付します。

(6) 信託の終了

ファンドの繰上償還

- a. 委託者は、信託期間中において、この投資信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めたととき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この投資信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託者は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。
- b. 委託者は、投資信託契約の一部を解約することにより、受益権の総口数が10億口を下回るようになった場合には、受託者と合意のうえ、この投資信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託者は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。
- c. 委託者は、この信託が投資対象とする投資信託証券に係る外国投資信託がその信託を終了することとなる場合は、受託者と合意のうえ、この投資信託契約を解約し、信託を終了させるものとします。この場合において、委託者は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。
- d. 委託者は、a.、b.、c.の事項について、あらかじめ、解約しようとする旨を公告（日本経済新聞に掲載します。以下同じ。）し、かつ、その旨を記載した書面をこの投資信託契約に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この投資信託契約に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として公告を行いません。
- e. d.の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託者に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。
- f. e.の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、a.、b.の投資信託契約の解約をしません。
- g. 委託者は、この投資信託契約の解約をしないこととしたときは、解約しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
- h. e.からg.までの規定は、c.の規定に基づいてこの投資信託契約を解約する場合には適用しません。また、投資信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、e.の一定の期間が一月を下らずにその公告および書面の交付を行うことが困難な場合も同じとします。

委託者は、次のいずれかの場合には投資信託契約を解約し、信託を終了させます。

- a. 監督官庁より投資信託契約の解約の命令を受けたとき。
- b. 委託者が、監督官庁より認可の取消しを受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したとき（監督官庁が委託者の業務を他の投資信託委託業者に引き継ぐことを命じ、その投資信託約款の変更が有効に成立した場合を除きます。）。
- c. 受託者が辞任する場合で、委託者が新受託者を選任できないとき。

(7) 投資信託約款の変更

委託者は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この投資信託約款を変更することができるものとし、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。

委託者は、前項の変更事項のうち、その内容が重大なものについて、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの投資信託約款に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この投資信託約款に係るすべての受益者

に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託者に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。

の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、の投資信託約款の変更をしません。

委託者は、当該投資信託約款の変更をしないこととしたときは、変更しない旨およびその理由を公告かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

委託者は、監督官庁の命令に基づいてこの投資信託約款を変更しようとするときは、前述の規定にしたがいます。

委託者は、委託者が受益者を代理してこの信託の受益権を振替受入簿に記載または記録を申請することができる旨の投資信託約款変更をしようとする場合は、その変更の内容が重大なものとして前述の規定にしたがいます。ただし、この場合において、振替受入簿の記載または記録を申請することについて委託者に代理権を付与することについて同意をしている受益者へは、上記の書面の交付を原則として行いません。

．ファンドの運用状況等

1．運用状況

(1) 投資状況

資産の種類別、地域別の投資状況

(平成18年7月31日現在)

資産の種類	国名	時価合計(百万円)	投資比率(%)
投資信託受益証券	日本	5,283	94.85
親投資信託受益証券	日本	120	2.16
コール・ローン、その他の資産 (負債差引後)	日本	166	2.99
合計(純資産総額)	-	5,569	100.00

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

(小数点以下第3位を四捨五入して算出しております。)

(2) 投資資産

投資有価証券の主要銘柄

a．評価額上位銘柄(全銘柄)

(平成18年7月31日現在)

	国名	種類	銘柄名	券面総額	簿価単価(円) 簿価金額(円)	時価単価(円) 時価金額(円)	投資比率 (%)
1	日本	投資信託 受益証券	グローバルインフレ 連動国債ファンド	476,504.04	10,776.67 5,135,127,269	11,086.05 5,282,545,706	94.85
2	日本	親投資信託 受益証券	T&Dマネーブル マザーファンド	120,000,000	1.0001 120,012,000	1.0002 120,024,000	2.16

(注) 1．投資比率は、ファンドの純資産総額に対する各銘柄の評価額比率です。

2．投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

b．投資有価証券の種類別比率

(平成18年7月31日現在)

種類	投資比率(%)
投資信託受益証券	94.85
親投資信託受益証券	2.16
合計	97.01

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する各種類の評価額比率です。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

(3) 運用実績

純資産の推移

平成18年7月末日及び同日前1年以内における各月末及び各特定期間末日の純資産の推移は次のとおりです。

	純資産総額 (分配落) (単位:百万円)	純資産総額 (分配付) (単位:百万円)	1口当たりの 純資産額 (分配落) (単位:円)	1口当たりの 純資産額 (分配付) (単位:円)
第1期 特定期間末 (平成17年6月10日)	1,806	1,824	1.0125	1.0225
第2期 特定期間末 (平成17年12月12日)	3,682	3,802	1.0649	1.1049
第3期 特定期間末 (平成18年6月12日)	5,422	5,542	1.0058	1.0298
平成17年7月末日	2,029	-	1.0323	-
平成17年8月末日	2,258	-	1.0460	-
平成17年9月末日	2,435	-	1.0431	-
平成17年10月末日	2,650	-	1.0554	-
平成17年11月末日	3,034	-	1.0757	-
平成17年12月末日	4,221	-	1.0519	-
平成18年1月末日	4,722	-	1.0610	-
平成18年2月末日	4,788	-	1.0354	-
平成18年3月末日	5,181	-	1.0215	-
平成18年4月末日	5,205	-	1.0004	-
平成18年5月末日	5,412	-	1.0094	-
平成18年6月末日	5,520	-	1.0124	-
平成18年7月末日	5,569	-	1.0316	-

分配の推移

各特定期間の分配の推移は次のとおりです。

	1口当たりの分配金(円)
第1期 特定期間 (平成17年6月10日)	0.0100
第2期 特定期間 (平成17年12月12日)	0.0400
第3期 特定期間 (平成18年6月12日)	0.0240

収益率の推移

各特定期間の収益率の推移は次のとおりです。

	収益率(%)
第1期 特定期間 (平成17年2月28日～平成17年6月10日)	2.25
第2期 特定期間 (平成17年6月11日～平成17年12月12日)	9.13
第3期 特定期間 (平成17年12月13日～平成18年6月12日)	3.30

(注) 収益率とは、特定期間末の基準価額(分配付の額)から当該特定期間の直前の特定期間末の基準価額(分配落の額。以下「前期末基準価額」といいます。)を控除した額を前期末基準価額で除して得た額に100を乗じて得た数字です。なお、第1期特定期間においては、前期末基準価額(1万口当たり)を1万円として計算しています。(小数点以下第3位を四捨五入して算出しております。)

(参考) T & D マネープールマザーファンド

(1) 投資状況

親投資信託資産の種類別、地域別の投資状況

(平成18年7月31日現在)

資産の種類	国名	時価合計(百万円)	投資比率(%)
国債証券	日本	90	74.96
コール・ローン、その他の資産 (負債差引後)	日本	30	25.04
合計(純資産総額)	-	120	100.00

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。(小数点以下第3位を四捨五入して算出しております。)

(2) 投資有価証券の主要銘柄

投資有価証券の主要銘柄

a. 評価額上位銘柄(全銘柄)

(平成18年7月31日現在)

	国名	種類	銘柄名	券面総額 (円)	簿価単価(円) 簿価金額(円)	時価単価(円) 時価金額(円)	投資比率 (%)	クーポン (%)	償還日
1	日本	国債証券	394 政府 短期証券	60,000,000	99.96 59,973,276.00	99.95 59,973,276.00	49.97	0.34	H18.9.19
2	日本	国債証券	390 政府 短期証券	30,000,000	99.98 29,993,670.00	99.97 29,993,670.00	24.99	0.24	H18.8.28

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する各銘柄の評価額比率です。

b. 投資有価証券の種類別比率

(平成18年7月31日現在)

種類	投資比率(%)
国債証券	74.96
合計	74.96

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する各種類の評価額比率です。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

2. 財務ハイライト情報

以下の情報は、有価証券届出書「第三部ファンドの詳細情報、第4ファンドの経理状況」に記載されている「財務諸表」（当該「財務諸表」については、新日本監査法人による監査を受けており、監査報告書は、有価証券届出書の「第三部ファンドの詳細情報、第4ファンドの経理状況」に記載されている「財務諸表」に添付されています。）から抜粋して記載したものです。

(1) 貸借対照表

(単位：円)

科 目	期 別	第2期 特定期間 (平成17年12月12日現在)	第3期 特定期間 (平成18年6月12日現在)
		金 額	金 額
資産の部			
流動資産			
コール・ローン		490,143,243	241,114,798
投資信託受益証券		3,397,395,897	5,135,127,269
親投資信託受益証券		40,000,000	120,012,000
流動資産合計		3,927,539,140	5,496,254,067
資産合計		3,927,539,140	5,496,254,067
負債の部			
流動負債			
未払金		149,999,992	-
未払収益分配金		86,436,668	53,904,501
未払解約金		2,842,431	7,809,198
未払受託者報酬		283,707	565,723
未払委託者報酬		6,100,110	12,163,538
その他未払費用		56,654	113,052
流動負債合計		245,719,562	74,556,012
負債合計		245,719,562	74,556,012
純資産の部			
元本等			
元本			
元本		3,457,466,749	5,390,450,170
剰余金			
期末剰余金		224,352,829	31,247,885
(分配準備積立金)		(101,019,186)	(-)
純資産合計		3,681,819,578	5,421,698,055
負債・純資産合計		3,927,539,140	5,496,254,067

(2) 損益及び剰余金計算書

(単位 : 円)

科 目	期 別	第 2 期 特定期間 (自 平成 1 7 年 6 月 1 1 日 至 平成 1 7 年 1 2 月 1 2 日)	第 3 期 特定期間 (自 平成 1 7 年 1 2 月 1 3 日 至 平成 1 8 年 6 月 1 2 日)
		金 額	金 額
営業収益			
受取配当金		25,348,650	22,642,607
受取利息		710	3,701
有価証券売買等損益		205,932,634	152,255,528
営業収益合計		231,281,994	129,609,220
営業費用			
受託者報酬		502,856	1,020,058
委託者報酬		10,812,312	21,932,044
その他費用		100,389	203,835
営業費用合計		11,415,557	23,155,937
営業利益 (損失) 金額		219,866,437	152,765,157
経常利益 (損失) 金額		219,866,437	152,765,157
当期純利益 (純損失) 金額		219,866,437	152,765,157
一部解約に伴う当期純利益 (純損失) 金額分配額		5,074,883	2,622,997
期首剰余金		22,302,645	224,352,829
剰余金増加額 (当期追加信託に伴う剰余金 増加額)		119,302,339	85,866,071
剰余金減少額 (当期一部解約に伴う剰余金 減少額)		(119,302,339)	(85,866,071)
剰余金減少額		12,330,189	8,902,770
剰余金減少額 (当期一部解約に伴う剰余金 減少額)		(12,330,189)	(8,902,770)
分配金		119,713,520	119,926,085
期末剰余金		224,352,829	31,247,885

(3) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

期 別 項 目	第 2 期 特定期間 (自 平成 17 年 6 月 1 1 日 至 平成 17 年 12 月 1 2 日)	第 3 期 特定期間 (自 平成 17 年 12 月 1 3 日 至 平成 18 年 6 月 1 2 日)
1 運用資産の評価基準 及び評価方法	(1) 投資信託受益証券 基準価額で評価しております。 (2) 親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価 しております。 時価評価にあたっては、親投資信 託受益証券の基準価額に基づいて 評価しております。	(1) 投資信託受益証券 同左 (2) 親投資信託受益証券 同左
2 費用・収益の計上基準	(1) 受取配当金 原則として、投資信託受益証券の 収益分配金落ち日において、その金 額が確定しているものについては 当該金額を計上、未だ確定してい ない場合は入金日基準で計上して おります。 (2) 有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。	(1) 受取配当金 同左 (2) 有価証券売買等損益 同左
3 表示	-	平成 18 年 4 月 20 日付内閣府 令第 49 号による投資信託財産計 算規則の改正により、表示方法が 以下のとおり変更されております。 (1) 貸借対照表 純資産の部は、従来の元本及び 剰余金の区分から、元本等及び評 価・換算差額等の区分となりました。 ただし、評価・換算差額等の 区分は記載すべき事項がないた め、記載を省略しております。 (2) 損益及び剰余金計算書 経常損益の部、営業損益の部の 表示は廃止されました。また、 営業損益、経常損益及び当期純損 益は、当期から営業損益金額、経 常損益金額及び当期純損益金額と してしております。
4 その他	当ファンドの特定期間は期末が 休日のため、平成 17 年 6 月 1 1 日 から平成 17 年 12 月 1 2 日まで となっております。	当ファンドの前特定期間の期末 が休日のため、当特定期間は、平 成 17 年 12 月 1 3 日からとな っており、また、当特定期間の期 末が休日のため、平成 18 年 6 月 1 2 日までとなっております。

．その他

1．委託会社の概況

資本金

平成18年7月末日現在 11億円

会社の沿革

昭和55年12月19日 第一投信株式会社設立
同年12月26日「証券投資信託法」（当時）に基づく免許取得
平成9年12月1日 社名を長期信用投信株式会社に変更
平成11年2月25日 大同生命保険相互会社（現：大同生命保険株式会社）の傘下に入る
平成11年4月1日 社名を大同ライフ投信株式会社に変更
平成14年1月24日 投資顧問業者の登録
平成14年6月11日 投資一任契約に係る業務の認可
平成14年7月1日 ティ・アンド・ディ太陽大同投資顧問株式会社と合併、「ティ・アンド・ディ・アセットマネジメント株式会社」に商号変更
平成18年8月28日 「T&Dアセットマネジメント株式会社」に商号変更

大株主の状況

平成18年7月末日現在

株主名	住所	所有株数	所有比率
太陽生命保険株式会社	東京都中央区日本橋二丁目11番2号	503,800株	46.54%
大同生命保険株式会社	大阪府大阪市西区江戸堀一丁目2番1号	386,000株	35.66%
株式会社大同マネジメントサービス	東京都中央区日本橋三丁目2番9号	153,000株	14.13%
ティ・アンド・ディ太陽大同リース株式会社	東京都港区浜松町一丁目9番10号	35,200株	3.25%

2．内国投資信託受益証券事務の概要

名義書換についての手続、取扱場所等

受益証券は原則として無記名式ですが、無記名式の受益証券から記名式への変更または記名式の受益証券から無記名式への変更および受益証券の名義書換手続は、委託者の定める手続により行うことができます。なお、「自動継続投資コース」を選択した場合には、「自動継続投資契約」に基づいて投資者が取得した受益証券は大券をもって混蔵保管されるため、委託者は当該投資者の請求に基づく記名式の受益証券への変更を行いません。

名義書換手続は委託者にて行うものとし、受益者から請求があるときは、販売会社はこれを委託者に取り次ぎます。

名義書換手数料は徴しません。

（取扱場所）

T & Dアセットマネジメント株式会社

東京都港区海岸一丁目2番3号

受益者名簿の閉鎖の時期

当ファンドの毎計算期間の末日の翌日から15日間名義書換を停止し、受益者名簿を閉鎖します。

受益者に対する特典
該当事項はありません。

内国投資信託受益証券の譲渡制限の内容
無記名式受益証券の譲渡制限はありません。ただし、記名式の受益証券の譲渡は、委託者の定める手続による名義書換によらなければ、委託者および受託者に対抗することができません。

受益証券の再発行

- a. 無記名式の受益証券を喪失した受益者が、委託者の定める手続によって公示催告による除権判決の謄本を添え、再交付を請求したときは、委託者は、無記名式の受益証券を再交付します。
- b. 記名式の受益証券を喪失した受益者が、委託者の定める手続によって再交付を請求したときは、委託者は、記名式の受益証券を再交付します。
- c. 受益証券を毀損または汚損した受益者が、受益証券を添え、委託者の定める手続により再交付を請求したときは、委託者は、受益証券を再交付します。ただし、真偽を鑑別しがたいときは、a. およびb. の規定を準用します。
- d. 受益証券を再交付するときは、委託者は、受益者に対して実費を請求することができます。

(注)

当ファンドの受益権は、平成19年1月4日より、振替受益権となる予定であり、委託者は、この信託の受益権を取り扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。

なお、受益者は、委託者がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

受益権の譲渡

受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。

前項の申請のある場合には、上記の振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。

上記の振替について、委託者は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託者が必要と認めるときまたはやむをえない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託者および受託者に対抗することができません。

受益権の再分割

委託者は、受益権の再分割を行いません。ただし、社債、株式等の振替に関する法律が施行された場合には、受託者と協議のうえ、同法に定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

償還金

償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前

に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とします。)に支払います。

質権口記載又は記録の受益権の取り扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付け、一部解約金および償還金の支払い等については、約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取り扱われます。

3. ファンドの詳細情報の項目

下記詳細情報については有価証券届出書「第三部 ファンドの詳細情報」または投資信託説明書（請求目論見書）に記載されております。

第1 ファンドの沿革

第2 手続等

- 1 申込（販売）手続等
- 2 換金（解約）手続等

第3 管理及び運営

- 1 管理資産等の概要
 - (1)資産の評価
 - (2)保管
 - (3)信託期間
 - (4)計算期間
 - (5)その他
- 2 受益者の権利等

第4 ファンドの経理状況

- 1 財務諸表
 - (1)貸借対照表
 - (2)損益及び剰余金計算書
 - (3)注記表
 - (4)附属明細表
- 2 ファンドの現況
純資産額計算書

第5 設定及び解約の実績

追加型証券投資信託 世界物価連動国債ファンド
約 款

運用の基本方針

約款第 23 条の規定に基づき、委託者の定める運用の基本方針は次のとおりとします。

1. 基本方針

この投資信託は、安定した収益の確保と投資信託財産の着実な成長をめざして運用を行います。

2. 運用方法

(1) 投資対象

投資信託証券を主要投資対象とします。

(2) 投資態度

主として、ケイマン籍の円建ての外国投資信託であるグローバルインフレ連動国債ファンドおよび国内の証券投資信託である T & D マネープールマザーファンドの受益証券に投資を行います。

グローバルインフレ連動国債ファンドの受益証券の組入比率は、原則として高位を保ちます。なお、投資対象とする各受益証券の組入比率には制限を設けません。

資金動向や市況動向等によっては、上記のような運用が行われない場合があります。

(3) 投資制限

株式への投資は行いません。

投資信託証券への投資割合には制限を設けません。

有価証券先物取引等の派生商品取引の指図は行いません。

外貨建資産への直接投資は行いません。

3. 収益分配方針

3 ヶ月に 1 回 (3、6、9、12 月の 10 日とします。ただし、10 日が休業日の場合は翌営業日とします。) 決算を行い、原則として以下の方針により分配を行います。

(1) 分配対象額

経費控除後の配当等収益および売買益 (評価益を含みます。) 等の全額とします。

(2) 分配対象額についての分配方針

収益分配金額は、分配対象額の範囲内で、委託者が基準価額水準、市場環境等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないことがあります。

(3) 留保益の運用方針

収益分配に充てず、投資信託財産に留保した利益については、運用の基本方針にしたがって運用を行います。

追加型証券投資信託〔世界物価連動国債ファンド〕約款

(信託の種類、委託者および受託者)

第 1 条 この信託は、証券投資信託であり、T & D アセットマネジメント株式会社を委託者とし、三菱UFJ 信託銀行株式会社を受託者とします。

(信託事務の委託)

第 2 条 受託者は、信託法第 26 条第 1 項に基づき、信託事務の処理の一部について、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律第 1 条第 1 項の規定による信託業務の兼営の認可を受けた一の金融機関と信託契約を締結し、これを委託することができます。

(信託の目的および金額)

第 3 条 委託者は、金 1,002,890,000 円を受益者のために利殖の目的をもって信託し、受託者はこれを引き受けます。

(信託金の限度額)

第 4 条 委託者は、受託者と合意のうえ、金 5,000 億円を限度として信託金を追加することができます。追加信託が行われたときは、受託者はその引き受けを証する書面を委託者に交付します。委託者は、受託者と合意のうえ、第 1 項の限度額を変更することができます。

(信託期間)

第 5 条 この信託の期間は、投資信託契約締結日から第 42 条第 1 項ないし第 3 項、第 43 条第 1 項、第 44 条第 1 項または第 46 条第 2 項の規定による信託終了の日までとします。

(受益証券の取得申込みの勧誘の種類)

第 6 条 この信託に係る受益証券の取得申込みの勧誘は、証券取引法第 2 条第 3 項第 1 号に掲げる場合に該当し、投資信託及び投資法人に関する法律第 2 条第 13 項で定める公募により行われます。

(当初の受益者)

第 7 条 この投資信託契約締結当初および追加信託当初の受益者は、委託者の指定する受益証券取得申込者とし、第 8 条により分割された受益権は、その取得申込口数に応じて、取得申込者に帰属します。

(受益権の分割および再分割)

第 8 条 委託者は、第 3 条の規定による受益権については、1,002,890,000 口に、追加信託によって生じた受益権については、これを追加信託のつど第 9 条第 1 項の追加口数にそれぞれ均等に分割します。委託者は、受託者と協議のうえ、一定日現在の受益権を均等に再分割できます。

(追加信託の価額および口数、基準価額の計算方法)

第 9 条 追加信託金は、追加信託を行う日の前営業日の基準価額に、当該追加信託に係る受益権の口数を乗じた額とします。

この約款において基準価額とは、投資信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券を除きます。）を法令および社団法人投資信託協会規則に従って時価評価して得た投資信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（以下「純資産総額」といいます。）を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。

(信託日時の異なる受益権の内容)

第 10 条 この信託の受益権は、信託の日時を異にすることにより差異を生じることはありません。

(受益証券の発行)

第 11 条 委託者は、第 8 条の規定により分割された受益権を表示する収益分配金交付票付の無記名式の受益証券を発行します。

(受益証券の発行についての受託者の認証)

第 12 条 委託者は、前条の規定により受益証券を発行するときは、その発行する受益証券がこの投資信託約款に適合する旨の受託者の認証を受けなければなりません。

前項の認証は、受託者の代表取締役がその旨を受益証券に記載し、記名捺印することによって行います。

(受益証券の申込単位及び価額)

第 13 条 委託者は、第 11 条の規定により発行される受益証券の取得申込者に対し、委託者が定める単位をもって取得の申込みに応じることができるものとします。ただし、第 39 条第 3 項に規定する収益分配金の再投資に係る受益証券の取得申込者に限り、1 口の整数倍をもって取得の申込みに応じることができるものとします。

委託者の指定する証券会社（証券取引法第 2 条第 9 項に規定する証券会社をいい、外国証券業者に関する法律第 2 条第 2 号に規定する外国証券会社を含みます。以下同じ。）および登録金融機関（証券取引法第 65 条の 2 第 3 項に規定する登録金融機関をいいます。以下同じ。）は、第 11 条の規定により発行された受益証券を、その取得申込者に対し、委託者の指定する証券会社および登録金融機関が委託者の承認を得てそれぞれ定める単位をもって取得の申込みに応じることができるものとします。ただし、委託者の指定する証券会社および登録金融機関と別に定める自動けいぞく投資約款（別の名称で同様の権利義務関係を規定する約款を含みます。）による契約（以下「別に定める契約」といいます。）を結んだ取得申込者に限り、1 口の整数倍をもって取得の申込みに応じることができるものとします。

前 2 項の規定にかかわらず、ニューヨーク、ロンドン、メルボルンもしくはケイマンの銀行または証券取引所の休業日においては、追加信託の申込みを受付けないものとします。ただし、第 39 条第 2 項お

よび第3項に規定する収益分配金の再投資に係る場合を除きます。

第1項および第2項の場合の受益証券の価額は、取得申込日の翌営業日の基準価額に、第5項に規定する手数料ならびに当該手数料に係る消費税および地方消費税（以下「消費税等」といいます。）に相当する金額を加算した価額とします。ただし、この投資信託契約締結日前の取得申込みに係る受益証券の価額は1口につき1円に、手数料および当該手数料に係る消費税等に相当する金額を加算した価額とします。

前項の手数料の額は、委託者または委託者の指定する証券会社および登録金融機関がそれぞれ別に定めることとします。

前2項の規定にかかわらず、受益者が第39条第3項の規定または別に定める契約に基づいて収益分配金を再投資する場合の受益証券の価額は、原則として、第33条に規定する各計算期間終了日の基準価額とします。

前各項の規定にかかわらず、証券取引所における取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、委託者の判断により、受益証券の取得申込みの受付を停止することおよび既に受付けた取得申込みを取り消すことができます。

（受益証券の種類）

第14条 委託者が発行する受益証券は、1万口券、5万口券、10万口券、50万口券、100万口券、500万口券、1,000万口券および5,000万口券の8種類とします。

別に定める契約および保護預り契約に基づいて委託者の指定する証券会社または登録金融機関が保管する受益証券もしくは保護預り契約に基づいて保護預りを行う会社が保管する委託者の自らの募集に係る受益証券の種類は、前項に定めるもののほか、1口の整数倍の口数を表示した受益証券とすることができます。

（受益証券の記名式、無記名式への変更ならびに名義書換手続）

第15条 委託者は、受益者が委託者の定める手続によって請求したときは、無記名式の受益証券と引換えに記名式の受益証券を、または記名式の受益証券と引換えに無記名式の受益証券を交付します。

記名式の受益証券の所持人は、委託者の定める手続によって名義書換を委託者に請求することができます。

前項の規定による名義書換の手続は、第33条に規定する毎計算期間の末日の翌日から15日間停止します。

（記名式の受益証券譲渡の対抗要件）

第16条 記名式の受益証券の譲渡は、前条の規定による名義書換によらなければ、委託者および受託者に対抗することができません。

（無記名式の受益証券の再交付）

第17条 委託者は、無記名式の受益証券を喪失した受益者が、委託者の定める手続によって公示催告による除権判決の謄本を添え、再交付を請求したときは、無記名式の受益証券を再交付します。

（記名式の受益証券の再交付）

第18条 委託者は、記名式の受益証券を喪失した受益者が、委託者の定める手続によって再交付を請求したときは、記名式の受益証券を再交付します。

（受益証券を毀損した場合等の再交付）

第19条 委託者は、受益証券を毀損または汚損した受益者が、当該受益証券を添え、委託者の定める手続により再交付を請求したときは、受益証券を再交付します。ただし、真偽を鑑別しがたいときは、前2条の規定を準用します。

（受益証券の再交付の費用）

第20条 委託者は、受益証券を再交付するときは、受益者に対して実費を請求することができます。

（投資の対象とする資産の種類）

第21条 この信託において投資の対象とする資産（本邦通貨表示のものに限ります。）の種類は、次に掲げるものとします。

1. 次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。）

イ. 有価証券

ロ. 金銭債権（イ. および次号に掲げるものに該当するものを除きます。）

ハ. 約束手形（証券取引法第2条第1項第8号に掲げるものを除きます。）

ニ. 金銭（信託財産を主としてイ. からハ. までに掲げる資産に対する投資として運用することを目的とする場合に限り、）を信託する信託の受益権（イ. に掲げるものに該当するものを除きます。）

2. 次に掲げる特定資産以外の資産

イ. 為替手形

（運用の指図範囲）

第22条 委託者は、信託金を、主としてケイマン籍の円建ての外国投資信託であるグローバルインフレ連動国債ファンドおよび国内の証券投資信託であるT&Dマネープールマザーファンドの受益証券（証券取引法第2条第1項第7号で定めるものをいい、以下「投資信託証券」といいます。）ならびに次の有価証券（本邦通貨表示のものに限ります。）に投資することを指図します。

1. 国債証券、地方債証券、特別の法律により法人の発行する債券および社債券（新株引受権証券と社

債券とが一体となった新株引受権付社債券の新株引受権証券を除きます。)

2. コマーシャル・ペーパー

3. 外国または外国法人の発行する証券または証書で、前号の証券の性質を有するもの

なお、第1号の証券を以下「公社債」といい、公社債に係る運用の指図は、短期社債等（社債等の振替に関する法律第66条第1号に規定する短期社債、保険業法第61条の10第1項に規定する短期社債、資産の流動化に関する法律第2条第8項に規定する特定短期社債、商工組合中央金庫法第33条の2に規定する短期商工債、信用金庫法第54条の4第1項に規定する短期債、農林中央金庫法第62条の2第1項に規定する短期農林債および一般振替機関の監督に関する命令第38条第2項に規定する短期外債をいいます。）への投資ならびに現先取引および債券貸借取引に限り行うことができます。

委託者は、信託金を、前項に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品により運用することを指図することができます。

1. 預金
2. 指定金銭信託
3. コール・ローン
4. 手形割引市場において売買される手形

第1項の規定にかかわらず、この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託者が運用上必要と認めるときには、委託者は、信託金を、前項第1号から第4号までに掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

(運用の基本方針)

第23条 委託者は、投資信託財産の運用にあたっては、別に定める運用の基本方針にしたがって、その指図を行います。

(信託業務の委託)

第24条 受託者は、委託者と協議のうえ、投資信託財産に属する資産の保管および処分ならびにこれに付随する業務の全部または一部について、金融機関、証券会社、外国の法令に準拠して外国において有価証券の保管を業として営むものおよびこれらの子会社等で有価証券の保管を業として営む者に委託することができます。

受託者は、前項のうち信託業法第22条第1項に定める信託業務の委託をするときは、以下に掲げる基準のすべてに適合するものを委託先として選定します。

1. 委託先の信用力に照らし、継続的に委託業務の遂行に懸念がないこと
2. 委託先の委託業務に係る実績等に照らし、委託業務を確実に処理する能力があると認められること
3. 投資信託財産の保管等を委託する場合においては、当該財産の分別管理を行う体制が整備されていること
4. 内部管理に関する業務を適正に遂行するための体制が整備されていること

受託者は、前項に定める委託先の選定にあたっては、当該委託先が前項各号に掲げる基準に適合していることを確認するものとします。

(有価証券の保管)

第25条 受託者は、投資信託財産に属する有価証券を、法令等に基づき、保管振替機関等に預託し保管させることができます。

受託者は、投資信託財産に属する投資信託証券を、当該信託にかかる受益証券の保護預り契約等に基づいて、当該契約の相手方に預託し保管させることができます。

(混蔵寄託)

第26条 金融機関または証券会社から、売買代金および償還金等について円貨で約定し円貨で決済する取引により取得した外国において発行されたコマーシャル・ペーパーは、当該金融機関または証券会社が保管契約を締結した保管機関に当該金融機関または証券会社の名義で混蔵寄託できるものとします。

(投資信託財産の表示および記載の省略)

第27条 投資信託財産に属する有価証券については、委託者または受託者が必要と認める場合のほか、信託の表示および記載をしません。

(一部解約の請求および有価証券売却等の指図)

第28条 委託者は、投資信託財産に属する投資信託証券に係る投資信託契約の一部解約の請求および投資信託財産に属する有価証券の売却等の指図ができます。

(再投資の指図)

第29条 委託者は、前条の規定による一部解約金、売却代金、有価証券に係る償還金等、有価証券等に係る利子等およびその他の収入金を再投資することの指図ができます。

(資金の借入れ)

第30条 委託者は、投資信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性を図るため、一部解約に伴う支払資金の手当て(一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。)を目的として、または再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金の借入れ(コール市場を通じる場合を含みます。)の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。

一部解約に伴う支払資金の手当てに係る借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から投資信託財産で保有する有価証券の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から投資信託財

産で保有する金融商品の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払日から投資信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券の売却代金、金融商品の解約代金および有価証券等の償還金の合計額を限度とします。ただし、資金の借入額は、借入れ指図を行う日における投資信託財産の純資産総額の10%を超えないこととします。

収益分配金の再投資に係る借入期間は、信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。

借入金の利息は投資信託財産中より支弁します。

(損益の帰属)

第 31 条 委託者の指図に基づく行為により投資信託財産に生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。

(受託者による資金の立替え)

第 32 条 投資信託財産に属する有価証券について、借替がある場合で、委託者の申し出があるときは、受託者は資金の立替えをすることができます。

投資信託財産に属する有価証券に係る償還金等、有価証券等に係る利子等およびその他の未収入金で、信託終了日までにその金額を見積りうるものがあるときは、受託者がこれを立替えて投資信託財産に繰り入れることができます。

前2項の立替金の決済および利息については、受託者と委託者との協議により、そのつど別にこれを定めます。

(信託の計算期間)

第 33 条 この信託の計算期間は、毎年3月11日から6月10日まで、6月11日から9月10日まで、9月11日から12月10日まで、および12月11日から翌年3月10日までとします。ただし、初回の計算期間は平成17年2月28日から平成17年6月10日までとします。

前項にかかわらず、前項の原則により各計算期間終了日に該当する日(以下「該当日」といいます。)が休業日のとき、各計算期間終了日は、該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。ただし、最終計算期間の終了日は、第5条に定める信託期間の終了日とします。

(投資信託財産に関する報告)

第 34 条 受託者は、毎計算期末に損益計算を行い、投資信託財産に関する報告書を作成して、これを委託者に提出します。

受託者は、信託終了のときに最終計算を行い、投資信託財産に関する報告書を作成して、これを委託者に提出します。

(投資信託事務の諸費用)

第 35 条 投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託者の立替えた立替金の利息(以下「諸経費」といいます。)は、受益者の負担とし、投資信託財産中から支弁します。

投資信託財産の財務諸表に係る監査報酬(消費税等を含みます。)は、第33条に規定する計算期間を通じて毎日、投資信託財産の純資産総額に一定の率を乗じて得た額とし、毎計算期末または信託終了のとき投資信託財産中から支弁します。

(信託報酬等の総額および支弁の方法)

第 36 条 委託者および受託者の信託報酬の総額は、第33条に規定する計算期間を通じて毎日、投資信託財産の純資産総額に年10,000分の90の率を乗じて得た額とします。

前項の信託報酬は、毎計算期末または信託終了のとき投資信託財産中から支弁するものとし、委託者と受託者との間の配分は別に定めます。

第1項の信託報酬に係る消費税等に相当する金額を、信託報酬支弁のときに投資信託財産中から支弁します。

(収益の分配方法)

第 37 条 投資信託財産から生じる毎計算期末における利益は、次の方法により処理します。

1. 投資信託財産に属する配当等収益(配当金、利子、貸付有価証券に係る品貸料およびこれらに類する収益から支払利息を控除した額をいいます。以下同じ。)は、諸経費、投資信託財産に係る会計監査費用(消費税等を含みます。)、信託報酬および当該信託報酬に係る消費税等に相当する金額を控除した後、その残額を受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配金にあてるため、その一部を分配準備積立金として積み立てることができます。
2. 売買損益に評価損益を加減して得た利益金額(以下「売買益」といいます。)は、諸経費、投資信託財産に係る会計監査費用(消費税等を含みます。)、信託報酬および当該信託報酬に係る消費税等に相当する金額を控除し、繰越欠損金のあるときは、その全額を売買益をもって補てんした後、受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配にあてるため、分配準備積立金として積み立てることができます。

毎計算期末において、投資信託財産につき生じた損失は、次期に繰越します。

(収益分配金、償還金および一部解約金の委託者への交付と支払いに関する受託者の免責)

第 38 条 受託者は、収益分配金については毎計算期間終了日の翌営業日に、償還金(信託終了時における投資信託財産の純資産総額を受益権口数で除した額をいいます。以下同じ。)については第39条第4項に規定する支払開始日の前日までに、一部解約金については第39条第5項に規定する支払日までに、その全

額を委託者に交付します。

受託者は、前項の規定により委託者に収益分配金、償還金および一部解約金を交付した後は、受益者に対する支払いにつき、その責に任じません。

(収益分配金、償還金および一部解約金の支払い)

第 39 条 収益分配金は、毎計算期間終了後 1 ヶ月以内の委託者の指定する日から収益分配金交付票と引換えに受益者に支払います。

前項の規定にかかわらず、別に定める契約に基づいて収益分配金を再投資する受益者に対しては、委託者は、原則として毎計算期間終了日の翌営業日に、収益分配金を委託者の指定する証券会社および登録金融機関に交付します。この場合、委託者の指定する証券会社および登録金融機関は、受益者に対し遅滞なく収益分配金の再投資に係る受益証券の売付を行います。

委託者は、委託者の自らの募集に係る受益証券に帰属する収益分配金(受益者が自己の有する受益証券の全部もしくは一部について、委託者に対し、この信託の収益分配金の再投資に係る受益証券の取得申込みをしないことをあらかじめ申し出た場合において、委託者が当該申し出を受けた受益証券に帰属する収益分配金を除きます。)をこの信託の受益証券の取得申込金として、各受益者毎に当該収益分配金の再投資に係る受益証券の取得の申込みに応じたものとし、

償還金は、信託終了日後 1 ヶ月以内の委託者の指定する日から受益証券と引換えに受益者に支払います。

一部解約金は、受益者の請求を受けた日から起算して、原則として、5 営業日目から受益者に支払います。ただし、海外の休日や解約に伴う外国投資信託の売却状況等によっては、上記の原則による支払い開始日が遅延する場合があります。

前各項(第 2 項および第 3 項を除きます。)に規定する収益分配金、償還金および一部解約金の支払いは、委託者の指定する証券会社および登録金融機関の営業所等において行うものとします。ただし、委託者の自らの募集に係る受益証券に帰属する収益分配金、償還金および一部解約金の支払いは、委託者において行うものとします。

収益分配金、償還金および一部解約金に係る収益調整金は、原則として、各受益者毎の信託時の受益証券の価額等に応じて計算されるものとします。なお、本項に規定する「収益調整金」は、所得税法施行令第 27 条の規定によるものとし、各受益者毎の信託時の受益証券の価額と元本との差額をいい、原則として、追加信託のつど当該口数により加重平均され、収益分配のつど調整されるものとします。また、本項に規定する「各受益者毎の信託時の受益証券の価額等」とは、原則として、各受益者毎の信託時の受益証券の価額をいい、追加信託のつど当該口数により加重平均され、収益分配のつど調整されるものとします。

記名式の受益証券を有する受益者は、あらかじめその印鑑を届出するものとし、第 1 項の場合は収益分配金交付票に、第 4 項および第 5 項の場合には受益証券に、記名し届出印を押捺するものとします。

委託者は、前項の規定により押捺された印影を届出印と照合し、相違ないものと認めて収益分配金および償還金もしくは一部解約金の支払いをしたときは、印鑑の盗用その他の事情があっても、そのために生じた損害についてその責を負わないものとします。

(収益分配金および償還金の時効)

第 40 条 受益者が、収益分配金について第 39 条第 1 項に規定する支払開始日から 5 年間その支払いを請求しないとき、ならびに信託終了による償還金について第 39 条第 4 項に規定する支払開始日から 10 年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、委託者が受託者から交付を受けた金銭は、委託者に帰属します。

(投資信託契約の一部解約)

第 41 条 受益者は、自己の有する受益証券につき、委託者に対し、委託者自らが定める単位もしくは委託者の指定する証券会社および登録金融機関が委託者の承認を得てそれぞれ定める単位をもって、一部解約の実行を請求することができます。ただし、ニューヨーク、ロンドン、メルボルンもしくはケイマンの銀行または証券取引所の休業日においては、一部解約の実行の請求を受け付けないものとします。

委託者は、前項の一部解約の実行の請求を受けた場合には、この投資信託契約の一部を解約します。

前項の一部解約の価額は、一部解約の実行の請求日の翌営業日の基準価額から当該基準価額に 0.2% の率を乗じて得た額を信託財産留保額として控除した価額とします。

受益者が第 1 項の一部解約の実行の請求をするときは、委託者または委託者の指定する証券会社および登録金融機関に対し、受益証券をもって行うものとします。

委託者は、証券取引所における取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、第 1 項による一部解約の実行の請求の受付を中止することおよびすでに受付けた一部解約の実行の請求の受付を取り消すことができます。

前項により、一部解約の実行の請求の受付が中止された場合には、受益者は当該受付の中止以前に行った一部解約の実行の請求を撤回できます。ただし、受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該証券の一部解約の価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行の請求を受けたものとして、第 3 項の規定に準じて計算された価額とします。

(投資信託契約の解約)

第 42 条 委託者は、信託期間中において、この投資信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この投資信託契約を解約し、

信託を終了させることができます。この場合において、委託者は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

委託者は、投資信託契約の一部を解約することにより、受益権の総口数が10億口を下回ることとなった場合には、受託者と合意のうえ、この投資信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託者は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

委託者は、この信託が投資対象とする投資信託証券に係る外国投資信託がその信託を終了することとなる場合は、受託者と合意のうえ、この投資信託契約を解約し、信託を終了させるものとします。この場合において、委託者は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

委託者は、前3項の事項について、あらかじめ、解約しようとする旨を公告し、かつ、その旨を記載した書面をこの投資信託契約に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この投資信託契約に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

前項の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託者に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。

前項の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、第1項および第2項の投資信託契約の解約をしません。

委託者は、この投資信託契約の解約をしないこととしたときは、解約しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

第5項から前項までの規定は、第3項の規定に基づいてこの投資信託契約を解約する場合には適用しません。また、投資信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、第5項の一定の期間が一月を下らずにその公告および書面の交付を行うことが困難な場合も同じとします。

(投資信託契約に関する監督官庁の命令)

第43条 委託者は、監督官庁よりこの投資信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、投資信託契約を解約し信託を終了させます。

委託者は、監督官庁の命令に基づいてこの投資信託約款を変更しようとするときは、第47条の規定にしたがいます。

(委託者の認可取消等に伴う取扱い)

第44条 委託者が監督官庁より認可の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託者は、この投資信託契約を解約し、信託を終了させます。

前項の規定にかかわらず、監督官庁がこの投資信託契約に関する委託者の業務を他の投資信託委託業者に引き継ぐことを命じたときは、この信託は、第47条第4項に該当する場合を除き、当該投資信託委託業者と受託者との間において存続します。

(委託者の事業の譲渡および承継に伴う取扱い)

第45条 委託者は、事業の全部又は一部を譲渡することがあり、これに伴い、この投資信託契約に関する事業を譲渡することがあります。

委託者は、分割により事業の全部又は一部を承継させることがあり、これに伴い、この投資信託契約に関する事業を承継させることがあります。

(受託者の辞任に伴う取扱い)

第46条 受託者は、委託者の承諾を受けてその任務を辞任することができます。この場合、委託者は、第47条の規定にしたがい、新受託者を選任します。

委託者が新受託者を選任できないときは、委託者はこの投資信託契約を解約し、信託を終了させます。

(投資信託約款の変更)

第47条 委託者は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この投資信託約款を変更することができるものとし、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。

委託者は、前項の変更事項のうち、その内容が重大なものについて、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの投資信託約款に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この投資信託約款に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

前項の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託者に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。

前項の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、第1項の投資信託約款の変更をしません。

委託者は、当該投資信託約款の変更をしないこととしたときは、変更しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、すべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

(反対者の買取請求権)

第48条 第42条に規定する投資信託契約の解約または前条に規定する投資信託約款の変更を行う場合において、第42条第5項または前条第3項の一定の期間内に委託者に対して異議を述べた受益者は、受託者に対し、自己の有する受益証券を、投資信託財産をもって買取るべき旨を請求することができます。

(公告)

第 49 条 委託者が受益者に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。

(投資信託約款に関する疑義の取扱い)

第 50 条 この投資信託約款の解釈について疑義を生じたときは、委託者と受託者との協議により定めます。

(付則)

第 1 条 この信託の受益権は、平成 19 年 1 月 4 日より、社債等の振替に関する法律(政令で定める日以降「社債、株式等の振替に関する法律」となった場合は読み替えるものとし、「社債、株式等の振替に関する法律」を含め「社振法」といいます。以下同じ。)の規定の適用を受けることとし、同日以降に追加信託される受益権の帰属は、委託者があらかじめこの投資信託の受益権を取り扱うことについて同意した一の振替機関(社振法第 2 条に規定する「振替機関」をいい、以下「振替機関」といいます。)及び当該振替機関の下位の口座管理機関(社振法第 2 条に規定する「口座管理機関」をいいます。)の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります(以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。)。当該振替受益権は、受益証券とみなされ、この投資信託約款の適用を受けるものとし、委託者は、この信託の受益権を取り扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。

また、約款本文の規定にかかわらず、平成 19 年 1 月 4 日以降、委託者は、受益権の再分割を行いません。ただし、社債、株式等の振替に関する法律が施行された場合には、受託者と協議のうえ、同法に定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

平成 19 年 1 月 4 日前に信託された受益権に係る受益証券を保有する受益者は、自己の有する受益証券につき、委託者に振替受入簿に記載または記録を申請するよう請求することができます。

委託者は、前項の振替受入簿に記載または記録の申請の請求を受け付けた場合には、当該請求に基づき当該受益証券に係る受益権を振替受入簿に記載または記録を申請します。この場合において、委託者は、委託者の指定する証券会社および登録金融機関ならびに保護預り会社または委託者の指定する口座管理機関に当該申請の手続きを委任することができます。

受益者が第 2 項の振替受入簿に記載または記録の申請の請求をするときは、委託者または委託者の指定する証券会社および登録金融機関に対し、受益証券をもって行うものとします。なお、振替受入簿に記載または記録された受益権にかかる受益証券(当該記載または記録以降に到来する計算期間の末日にかかる収益分配金交付票を含みます。)は無効となり、当該記載または記録による振替受益権は、受益証券とみなされ、この投資信託約款の適用を受けるものとします。ただし、一旦、振替受入簿に記載または記録された受益権については、この信託の受益権を取り扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、受益者は受益証券の発行を請求しないものとします。

委託者は、委託者が受益者を代理してこの信託の受益権を振替受入簿に記載または記録を申請することができる旨の投資信託約款変更をしようとする場合は、その変更の内容が重大なものとして約款本文の投資信託約款変更の規定にしたがいます。ただし、この場合において、振替受入簿の記載または記録を申請することについて委託者に代理権を付与することについて同意をしている受益者へは、変更しようとする旨およびその内容を記載した書面の交付を原則として行いません。

委託者が、前項の投資信託約款変更を行った場合、原則としてこの信託の平成 18 年 12 月 29 日現在の全ての受益権(受益権につき、既に投資信託契約の一部解約が行われたもので、当該一部解約にかかる一部解約金の支払開始日が平成 19 年 1 月 4 日以降となるものを含みます。)を受益者を代理して平成 19 年 1 月 4 日に振替受入簿に記載または記録するよう申請します。ただし、保護預りではない受益証券に係る受益権については、信託期間中において委託者が受益証券を確認した後当該申請を行うものとします。

委託者が第 5 項の投資信託約款変更を行った場合、平成 19 年 1 月 4 日以降の投資信託契約の一部解約に係る一部解約の実行の請求を受益者がするときは、委託者または委託者の指定する証券会社および登録金融機関に対し、振替受益権をもって行うものとします。ただし、平成 19 年 1 月 4 日以降に一部解約金が受益者に支払われることとなる一部解約の実行の請求で、平成 19 年 1 月 4 日前に行われる当該請求については、振替受益権となるのが確実な受益証券をもって行うものとします。

委託者が第 5 項の投資信託約款変更を行った場合においても、平成 19 年 1 月 4 日以降約款本文に規定する時効前の収益分配金にかかる収益分配金交付票は、なおその効力を有するものとし、当該収益分配交付票と引き換えに受益者に支払います。

上記各条項によりこの投資信託契約を締結します。

投資信託契約締結日 平成 17 年 2 月 28 日

委託者 ティ・アンド・ディ・アセットマネジメント株式会社
(現 T&Dアセットマネジメント株式会社)

受託者 ユーエフジェイ信託銀行株式会社
(現 三菱UFJ信託銀行株式会社)

投資信託約款（平成 19 年 1 月 4 日適用予定）の変更内容について

平成 18 年 12 月 29 日現在存在する受益証券を含むファンドの受益証券を原則としてすべて振替受益権とするため、委託者は、平成 19 年 1 月 4 日適用予定で重大な約款変更を行う予定です。下記の表は、この場合の投資信託約款の変更内容（予定）について記載しております。

なお、重大な約款変更の内容について予めお知らせすることを目的としておりますので、単純な参照条文の変更（読み替え）は割愛している場合があります。

下線部_____は変更部分を示します。

(重大な約款変更後の約款の内容)	(平成 18 年 9 月 12 日現在の約款の内容)
<p>(受益権の取得申込みの勧誘の種類) 第 6 条 この信託に係る受益権の取得申込みの勧誘は、証券取引法第 2 条第 3 項第 1 号に掲げる場合に該当し、投資信託及び投資法人に関する法律第 2 条第 13 項で定める公募により行われます。</p> <p>(当初の受益者) 第 7 条 この投資信託契約締結当初および追加信託当初の受益者は、委託者の指定する受益権取得申込者とし、第 8 条により分割された受益権は、その取得申込口数に応じて、取得申込者に帰属します。</p> <p>(受益権の分割および再分割) 第 8 条 (省略) <u>委託者は、受益権の再分割を行いません。ただし、社債、株式等の振替に関する法律が施行された場合には、受託者と協議のうえ、同法に定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。</u></p> <p>(受益権の帰属と受益証券の不発行) 第 11 条 この信託の受益権は、平成 19 年 1 月 4 日より、<u>社債等の振替に関する法律(政令で定める日以降「社債、株式等の振替に関する法律」となった場合は読み替えるものとし、「社債、株式等の振替に関する法律」を含め「社振法」といいます。以下同じ。) の規定の適用を受けることとし、同日以降に追加信託される受益権の帰属は、委託者があらかじめこの投資信託の受益権を取り扱うことについて同意した一の振替機関(社振法第 2 条に規定する「振替機関」をいい、以下「振替機関」といいます。) 及び当該振替機関の下位の口座管理機関(社振法第 2 条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。) の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります(以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。)</u> <u>委託者は、この信託の受益権を取り扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、振替受益権を表示する受益証券を発行しません。</u> <u>なお、受益者は、委託者がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。</u></p>	<p>(受益証券の取得申込みの勧誘の種類) 第 6 条 この信託に係る受益証券の取得申込みの勧誘は、証券取引法第 2 条第 3 項第 1 号に掲げる場合に該当し、投資信託及び投資法人に関する法律第 2 条第 13 項で定める公募により行われます。</p> <p>(当初の受益者) 第 7 条 この投資信託契約締結当初および追加信託当初の受益者は、委託者の指定する受益証券取得申込者とし、第 8 条により分割された受益権は、その取得申込口数に応じて、取得申込者に帰属します。</p> <p>(受益権の分割および再分割) 第 8 条 (省略) <u>委託者は、受託者と協議のうえ、一定日現在の受益権を均等に再分割できます。</u></p> <p>(受益証券の発行) 第 11 条 <u>委託者は、第 8 条の規定により分割された受益権を表示する収益分配金交付票付の無記名式の受益証券を発行します。</u></p>

委託者は、第 8 条の規定により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行うものとします。振替機関等は、委託者から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。

委託者は、受益者を代理してこの信託の受益権を振替受入簿に記載または記録を申請することができるものとし、原則としてこの信託の平成 18 年 12 月 29 日現在の全ての受益権（受益権につき、既に投資信託契約の一部解約が行われたもので、当該一部解約にかかる一部解約金の支払開始日が平成 19 年 1 月 4 日以降となるものを含みます。）を受益者を代理して平成 19 年 1 月 4 日に振替受入簿に記載または記録するよう申請します。ただし、保護預りではない受益証券に係る受益権については、信託期間中において委託者が受益証券を確認した後当該申請を行うものとします。振替受入簿に記載または記録された受益権にかかる受益証券（当該記載または記録以降に到来する計算期間の末日にかかる収益分配金交付票を含みます。）は無効となり、当該記載または記録により振替受益権となります。また、委託者は、受益者を代理してこの信託の受益権を振替受入簿に記載または記録を申請する場合において、委託者の指定する証券会社（証券取引法第 2 条第 9 項に規定する証券会社をいい、外国証券業者に関する法律第 2 条第 2 号に規定する外国証券会社を含みます。以下同じ。）および登録金融機関（証券取引法第 65 条の 2 第 3 項に規定する登録金融機関をいいます。以下同じ。）ならびに保護預り会社または第 39 条の 2 に規定する委託者の指定する口座管理機関に当該申請の手続きを委任することができます。

（受益権の設定に係る受託者の通知）

第 12 条 受託者は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権に係る信託を設定した旨の通知を行います。

（受益権の申込単位および価額）

第 13 条 委託者は、第 8 条第 1 項の規定により分割される受益権をその取得申込者に対し、委託者が定める単位をもって取得の申込みに応じることができるものとします。ただし、第 39 条第 3 項に規定する収益分配金の再投資に係る受益権の取得申込者に限り、1 口の整数倍をもって取得の申込みに応じることができるものとします。

委託者の指定する証券会社および登録金融機関は、第 8 条第 1 項の規定により分割される受益権を、その取得申込者に対し、委託者の指定する証券会社および登録金融機関が委託者の承認を得てそれぞれ定める単位をもって取得の申込みに応じることができるものとします。ただし、委託者の指定する証券会社および登録金融機関と別に定める自動けいぞく投資約款（別の名称で同様の権利義務関係を規定する約款を含みます。）による契約（以下「別に定める契約」といいます。）を結んだ取得申込者に限り、1 口の整数倍をもって取得の申込みに応じることができるものとします。

第 1 項および第 2 項の取得申込者は委託者または委託者の指定する証券会社および登録金融機関に、取得申込と同時にまたは予め、自己のために開設されたこの信

（受益証券の発行についての受託者の認証）

第 12 条 委託者は、前条の規定により受益証券を発行するときは、その発行する受益証券がこの投資信託約款に適合する旨の受託者の認証を受けなければなりません。

前項の認証は、受託者の代表取締役がその旨を受益証券に記載し記名捺印することによって行います。

（受益証券の申込単位および価額）

第 13 条 委託者は、第 11 条の規定により発行される受益証券の取得申込者に対し、委託者が定める単位をもって取得の申込みに応じることができるものとします。ただし、第 39 条第 3 項に規定する収益分配金の再投資に係る受益証券の取得申込者に限り、1 口の整数倍をもって取得の申込みに応じることができるものとします。

委託者の指定する証券会社（証券取引法第 2 条第 9 項に規定する証券会社をいい、外国証券業者に関する法律第 2 条第 2 号に規定する外国証券会社を含みます。以下同じ。）および登録金融機関は、（証券取引法第 65 条の 2 第 3 項に規定する登録金融機関をいいます。以下同じ。）は、第 11 条の規定により発行された受益証券を、その取得申込者に対し、委託者の指定する証券会社および登録金融機関が委託者の承認を得てそれぞれ定める単位をもって取得の申込みに応じることができるものとします。ただし、委託者の指定する証券会社および登録金融機関と別に定める自動けいぞく投資約款（別の名称で同様の権利義務関係を規定する約款を含みます。）による契約（以下「別に定める契約」といいます。）を結んだ取得申込者に限り、1 口の整数倍をもって取得の申込みに応じることができるものとします。

< 新設 >

託の受益権の振替を行うための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録が行われます。なお、委託者（第 39 条の 2 の委託者が指定する口座管理機関を含みます。）または委託者の指定する証券会社および登録金融機関は、当該取得申込の代金（第 5 項の受益権の価額に当該取得申込の口数を乗じて得た額をいいます。）の支払いと引き換えに、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録を行うことができます。

— 第 1 項および第 2 項の規定にかかわらず、ニューヨーク、ロンドン、メルボルンもしくはケイマンの銀行または証券取引所の休業日においては、追加信託の申込みを受付けないものとします。ただし、第 39 条第 2 項および第 3 項に規定する収益分配金の再投資に係る場合を除きます。

— 第 1 項および第 2 項の場合の受益権の価額は、取得申込日の翌営業日の基準価額に、第 6 項に規定する手数料ならびに当該手数料に係る消費税および地方消費税（以下「消費税等」といいます。）に相当する金額を加算した価額とします。ただし、この投資信託契約締結日前の取得申込みに係る受益証券の価額は 1 口につき 1 円に、手数料および当該手数料に係る消費税等に相当する金額を加算した価額とします。

（省略）

— 前 2 項の規定にかかわらず、受益者が第 39 条第 3 項の規定または別に定める契約に基づいて収益分配金を再投資する場合の受益権の価額は、原則として、第 33 条に規定する各計算期間終了日の基準価額とします。

— 前各項の規定にかかわらず、証券取引所における取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、委託者の判断により、受益権の取得申込みの受付を停止することおよび既に受付けた取得申込みを取り消すことができます。

第 14 条 < 削除 >

（受益権の譲渡に係る記載または記録）

第 15 条 受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。

— 前項の申請のある場合には、前項の振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、前項の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。

— 委託者は、第 1 項に規定する振替について、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託者が必要と認めるときまたはやむをえない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

— 前 2 項の規定にかかわらず、ニューヨーク、ロンドン、メルボルンもしくはケイマンの銀行または証券取引所の休業日においては、追加信託の申込みを受付けないものとします。ただし、第 39 条第 2 項および第 3 項に規定する収益分配金の再投資に係る場合を除きます。

— 第 1 項および第 2 項の場合の受益証券の価額は、取得申込日の翌営業日の基準価額に、第 5 項に規定する手数料ならびに当該手数料に係る消費税および地方消費税（以下「消費税等」といいます。）に相当する金額を加算した価額とします。ただし、この投資信託契約締結日前の取得申込みに係る受益証券の価額は 1 口につき 1 円に、手数料および当該手数料に係る消費税等に相当する金額を加算した価額とします。

（省略）

— 前 2 項の規定にかかわらず、受益者が第 39 条第 3 項の規定または別に定める契約に基づいて収益分配金を再投資する場合の受益証券の価額は、原則として、第 33 条に規定する各計算期間終了日の基準価額とします。

— 前各項の規定にかかわらず、証券取引所における取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、委託者の判断により、受益証券の取得申込みの受付を停止することおよび既に受付けた取得申込みを取り消すことができます。

（受益証券の種類）

第 14 条 委託者が発行する受益証券は、1 万口券、5 万口券、10 万口券、50 万口券、100 万口券、500 万口券、1,000 万口券および 5,000 万口券の 8 種類とします。

— 別に定める契約および保護預り契約に基づいて委託者の指定する証券会社または登録金融機関が保管する受益証券もしくは保護預り契約に基づいて保護預りを行う会社が保管する委託者の自らの募集に係る受益証券の種類は、前項に定めるもののほか、1 口の整数倍の口数を表示した受益証券とすることができます。

（受益証券の記名式、無記名式への変更ならびに名義書換手続）

第 15 条 委託者は、受益者が委託者の定める手続によって請求したときは、無記名式の受益証券と引換えに記名式の受益証券を、または記名式の受益証券と引換えに無記名式の受益証券を交付します。

— 記名式の受益証券の所持人は、委託者の定める手続によって名義書換を委託者に請求することができます。

— 前項の規定による名義書換の手続は、第 33 条に規定する毎計算期間の末日の翌日から 15 日間停止しします。

<p>(受益権の譲渡の対抗要件)</p> <p>第16条 <u>受益権の譲渡は、前条の規定による振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託者および受託者に対抗することができません。</u></p> <p>第17条 <削除></p> <p>第18条 <削除></p> <p>第19条 <削除></p> <p>第20条 <削除></p> <p>(収益分配金、償還金および一部解約金の払い込みと支払いに関する受託者の免責)</p> <p>第38条 <u>受託者は、収益分配金については毎計算期間終了日の翌営業日に、償還金(信託終了時における投資信託財産の純資産総額を受益権口数で除した額をいいます。以下同じ。)については第39条第4項に規定する支払開始日の前日までに、一部解約金については第39条第5項に規定する支払日までに、その全額を委託者の指定する預金口座等に払い込みます。</u> <u>受託者は、前項の規定により委託者の指定する預金口座等に収益分配金、償還金および一部解約金を払い込んだ後は、受益者に対する支払いにつき、その責に任じません。</u></p> <p>(収益分配金、償還金および一部解約金の支払い)</p> <p>第39条 <u>収益分配金は、毎計算期間終了日後1ヵ月以内の委託者の指定する日から、毎計算期間の末日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(当該収益分配金にかかる計算期間の末日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる計算期間の末日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため委託者または委託者の指定する証券会社および登録金融機関の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とします。)に支払います。なお、平成19年1月4日以降においても、第40条に規定する時効前の収益分配金にかかる収益分配金交付票は、なおその効力を有するものとし、当該収益分配金交付票と引き換えに受益者に支払います。</u> <u>前項の規定にかかわらず、別に定める契約に基づいて収益分配金を再投資する受益者に対しては、受託者が委託者の指定する預金口座等に払い込むことにより、原則として、毎計算期間終了日の翌営業日に、収益分配金が委託者の指定する証券会社および登録金融機関に交付されます。この場合、委託者の指定する証券会社および登録金融機関は、受益者に対し遅滞なく収益分配金の再投資にかかる受益権の売付を行います。当該売付により増加した受益権は、第11条第3項の規定にしたがい、振替口座簿に記載または記録されます。</u> <u>委託者は、委託者の自らの募集に係る受益権に帰属する収益分配金(受益者が自己に帰属する受益権の全部もしくは一部について、委託者に対し、この信託の収益分配金の再投資に係る受益権の取得申込みをしないことをあらかじめ申し出た場合において、委託者が当該申し</u></p>	<p>(記名式の受益証券譲渡の対抗要件)</p> <p>第16条 <u>記名式の受益証券の譲渡は、前条の規定による名義書換によらなければ、委託者および受託者に対抗することができません。</u></p> <p>(無記名式の受益証券の再交付)</p> <p>第17条 <u>委託者は、無記名式の受益証券を喪失した受益者が、委託者の定める手続によって公示催告による除権判決の謄本を添え、再交付を請求したときは、無記名式の受益証券を再交付します。</u></p> <p>(記名式の受益証券の再交付)</p> <p>第18条 <u>委託者は、記名式の受益証券を喪失した受益者が、委託者の定める手続によって再交付を請求したときは、記名式の受益証券を再交付します。</u></p> <p>(受益証券を毀損した場合等の再交付)</p> <p>第19条 <u>委託者は、受益証券を毀損または汚損した受益者が、当該受益証券を添え、委託者の定める手続により再交付を請求したときは、受益証券を再交付します。ただし、真偽を鑑別しがたいときは、前2条の規定を準用します。</u></p> <p>(受益証券の再交付の費用)</p> <p>第20条 <u>委託者は、受益証券を再交付するときは、受益者に対して実費を請求することができます。</u></p> <p>(収益分配金、償還金および一部解約金の委託者への交付と支払いに関する受託者の免責)</p> <p>第38条 <u>受託者は、収益分配金については毎計算期間終了日の翌営業日に、償還金(信託終了時における投資信託財産の純資産総額を受益権口数で除した額をいいます。以下同じ。)については第39条第4項に規定する支払開始日の前日までに、一部解約金については第39条第5項に規定する支払日までに、その全額を委託者に交付します。</u> <u>受託者は、前項の規定により委託者に収益分配金、償還金および一部解約金を交付した後は、受益者に対する支払いにつき、その責に任じません。</u></p> <p>(収益分配金、償還金および一部解約金の支払い)</p> <p>第39条 <u>収益分配金は、毎計算期間終了後1ヵ月以内の委託者の指定する日から収益分配金交付票と引換えに受益者に支払います。</u> <u>前項の規定にかかわらず、別に定める契約に基づいて収益分配金を再投資する受益者に対しては、委託者は、原則として毎計算期間終了日の翌営業日に、収益分配金を委託者の指定する証券会社および登録金融機関に交付します。この場合、委託者の指定する証券会社および登録金融機関は、受益者に対し遅滞なく収益分配金の再投資に係る受益証券の売付を行います。</u> <u>委託者は、委託者の自らの募集に係る受益証券に帰属する収益分配金(受益者が自己の有する受益証券の全部もしくは一部について、委託者に対し、この信託の収益分配金の再投資に係る受益証券の取得申込みをしないことをあらかじめ申し出た場合において、委託者が当</u></p>
---	--

出を受付けた受益権に帰属する収益分配金を除きます。)をこの信託の受益権の取得申込金として、各受益者毎に当該収益分配金の再投資に係る受益権の取得の申込みに応じたものとします。

償還金は、信託終了日後1ヵ月以内の委託者の指定する日から、信託終了日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(信託終了日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該信託終了日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため委託者または委託者の指定する証券会社および登録金融機関の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として)に支払います。なお、当該受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して委託者がこの信託の償還をするのと引き換えに、当該償還に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。また、受益証券を保有している受益者に対しては、償還金は、信託終了日後1ヵ月以内の委託者の指定する日から受益証券と引き換えに当該受益者に支払います。

一部解約金は、第41条第1項の受益者の請求を受付けた日から起算して、原則として、5営業日目から受益者に支払います。ただし、海外の休日や解約に伴う外国投資信託の売却状況等によっては、上記の原則による支払い開始日が遅延する場合があります。

前各項(第2項および第3項を除きます。)に規定する収益分配金、償還金および一部解約金の支払いは、委託者の指定する証券会社および登録金融機関の営業所等において行うものとします。ただし、委託者の自らの募集に係る受益権に帰属する収益分配金、償還金および一部解約金の支払いは、委託者において行うものとします。

収益分配金、償還金および一部解約金にかかる収益調整金は、原則として、各受益者毎の信託時の受益権の価額等に応じて計算されるものとします。なお、本項に規定する「収益調整金」は、所得税法施行令第27条の規定によるものとし、各受益者毎の信託時の受益権の価額と元本との差額をいい、原則として、追加信託のつど当該口数により加重平均され、収益分配のつど調整されるものとします。また、本項に規定する「各受益者毎の信託時の受益権の価額等」とは、原則として、各受益者毎の信託時の受益権の価額をいい、追加信託のつど当該口数により加重平均され、収益分配のつど調整されるものとします。

<削除>

<削除>

(委託者の自らの募集に係る受益権の口座管理機関)

第39条の2 委託者は、委託者の自らの募集に係る受益権について、口座管理機関を指定し、振替口座簿への記載または登録等に関する業務を委任することができます。

(収益分配金および償還金の時効)

第40条 受益者が、収益分配金について第39条第1項に規定する支払開始日から5年間その支払いを請求しないとき、ならびに信託終了による償還金について第39条第4項に規定する支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託者から交付

該申し出を受付けた受益証券に帰属する収益分配金を除きます。)をこの信託の受益証券の取得申込金として、各受益者毎に当該収益分配金の再投資に係る受益証券の取得の申込みに応じたものとします。

償還金は、信託終了日後1ヵ月以内の委託者の指定する日から受益証券と引き換えに受益者に支払います。

一部解約金は、受益者の請求を受付けた日から起算して、原則として、5営業日目から受益者に支払います。ただし、海外の休日や解約に伴う外国投資信託の売却状況等によっては、上記の原則による支払い開始日が遅延する場合があります。

前各項(第2項および第3項を除きます。)に規定する収益分配金、償還金および一部解約金の支払いは、委託者の指定する証券会社および登録金融機関の営業所等において行うものとします。ただし、委託者の自らの募集に係る受益証券に帰属する収益分配金、償還金および一部解約金の支払いは、委託者において行うものとします。

収益分配金、償還金および一部解約金に係る収益調整金は、原則として、各受益者毎の信託時の受益証券の価額等に応じて計算されるものとします。なお、本項に規定する「収益調整金」は、所得税法施行令第27条の規定によるものとし、各受益者毎の信託時の受益証券の価額と元本との差額をいい、原則として、追加信託のつど当該口数により加重平均され、収益分配のつど調整されるものとします。また、本項に規定する「各受益者毎の信託時の受益証券の価額等」とは、原則として、各受益者毎の信託時の受益証券の価額をいい、追加信託のつど当該口数により加重平均され、収益分配のつど調整されるものとします。

記名式の受益証券を有する受益者は、あらかじめその印鑑を届出するものとし、第1項の場合は収益分配金交付票に、第4項および第5項の場合には受益証券に、記名し届出印を押捺するものとします。

委託者は、前項の規定により押捺された印影を届出印と照合し、相違ないものと認めて収益分配金および償還金もしくは一部解約金の支払いをしたときは、印鑑の盗用その他の事情があっても、そのために生じた損害についてその責を負わないものとします。

<新設>

(収益分配金および償還金の時効)

第40条 受益者が、収益分配金について第39条第1項に規定する支払開始日から5年間その支払いを請求しないとき、ならびに信託終了による償還金について第39条第4項に規定する支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、委託者が受託者

を受けた金銭は、委託者に帰属します。
(投資信託契約の一部解約)

第 41 条 受益者は、自己に帰属する受益権につき、委託者に対し、委託者自らが定める単位もしくは委託者の指定する証券会社および登録金融機関が委託者の承認を得てそれぞれ定める単位をもって、一部解約の実行を請求することができます。ただし、ニューヨーク、ロンドン、メルボルンもしくはケイマンの銀行または証券取引所の休業日においては、一部解約の実行の請求を受けないものとします。

委託者は、前項の一部解約の実行の請求を受けた場合には、この投資信託契約の一部を解約します。なお、前項の一部解約の実行の請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求に係るこの投資信託契約の一部解約を委託者が行うのと引き換えに、当該一部解約に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

(省略)

平成 19 年 1 月 4 日以降の投資信託契約の一部解約に係る一部解約の実行の請求を受益者がするときは、委託者または委託者の指定する証券会社および登録金融機関に対し、振替受益権をもって行うものとします。ただし、平成 19 年 1 月 4 日以降に一部解約金が受益者に支払われることとなる一部解約の実行の請求で、平成 19 年 1 月 4 日前に行われる当該請求については、振替受益権となることが確実な受益証券をもって行うものとします。

(省略)

前項により、一部解約の実行の請求の受付が中止された場合には、受益者は当該受付の中止以前に行った一部解約の実行の請求を撤回できます。ただし、受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該受益権の一部解約の価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行の請求を受けたものとして、第 3 項の規定に準じて計算された価額とします。

(質権口記載又は記録の受益権の取り扱い)

第 41 条の 2 振替機関等の振替口座簿の質権口に記録または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受け付け、一部解約金および償還金の支払い等については、この約款によるほか、民法その他の法令等にしがって取り扱われます。

(反対者の買取請求権)

第 48 条 第 42 条に規定する投資信託契約の解約または前条に規定する投資信託約款の変更を行う場合において、第 42 条第 5 項または前条第 3 項の一定の期間内に委託者に対して異議を述べた受益者は、受託者に対し、自己に帰属する受益権を、投資信託財産をもって買取すべき旨を請求することができます。

(付則)

(添付投資信託約款付則第 1 条を削除し、以下の内容に置き換えます。)

第 1 条 平成 18 年 12 月 29 日現在の投資信託約款第 11 条、第 12 条、第 14 条(受益証券の種類)から第 20 条(受益証券の再交付の費用)の規定および受益権と読み替えられた受益証券に関する規定は、委託者がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合には、なおその効力を有するものとします。

から交付を受けた金銭は、委託者に帰属します。
(投資信託契約の一部解約)

第 41 条 受益者は、自己の有する受益証券につき、委託者に対し、委託者自らが定める単位もしくは委託者の指定する証券会社および登録金融機関が委託者の承認を得てそれぞれ定める単位をもって、一部解約の実行を請求することができます。ただし、ニューヨーク、ロンドン、メルボルンもしくはケイマンの銀行または証券取引所の休業日においては、一部解約の実行の請求を受けないものとします。

委託者は、前項の一部解約の実行の請求を受けた場合には、この投資信託契約の一部を解約します。

(省略)

受益者が第 1 項の一部解約の実行の請求をするときは、委託者または委託者の指定する証券会社および登録金融機関に対し、受益証券をもって行うものとします。

(省略)

前項により、一部解約の実行の請求の受付が中止された場合には、受益者は当該受付の中止以前に行った一部解約の実行の請求を撤回できます。ただし、受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該証券の一部解約の価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行の請求を受けたものとして、第 3 項の規定に準じて計算された価額とします。

<新設>

(反対者の買取請求権)

第 48 条 第 42 条に規定する投資信託契約の解約または前条に規定する投資信託約款の変更を行う場合において、第 42 条第 5 項または前条第 3 項の一定の期間内に委託者に対して異議を述べた受益者は、受託者に対し、自己の有する受益証券を、投資信託財産をもって買取すべき旨を請求することができます。

(付則)

第 1 条 (添付投資信託約款付則第 1 条をご参照ください。)

ファンドに関する用語	
用語	解説
委託者 ・ 受託者 ・ 受益者	委託者は投信会社のことであり、主な業務は、ファンドを設定し、その投資信託財産の運用指図・目論見書や運用報告書の作成、基準価額の計算を行います。受託者は受託銀行のことであり、主な業務は、投資信託財産の保管・管理を行います。投資信託財産は受託銀行自身の固有財産と分別して管理されています。受益者は受益権を有する投資家のことであり、受益権には収益分配金請求権・償還金請求権・解約請求権などがあります。 (本用語集においては、「お客様」と記載いたします。)
一部解約	ファンドを途中換金する場合、お客様が販売会社を通じて投信会社に対し解約を請求する方法です。
運用報告書	投資信託法に基づく、お客様へファンドの運用内容を報告するための書類です。投信会社が作成し、販売会社より、原則、決算期末毎にお客様に交付されます。該当期間の運用状況、今後の運用方針、運用実績等について記載されています。
EDINET	Electronic Disclosure Investors' NETwork の略です。お客様は EDINET を利用して、インターネットを通じて、有価証券取引法で開示が定められているファンドの有価証券届出書、有価証券報告書、半期報告書等を閲覧できます。
監査報酬	投資信託財産の財務諸表については、監査が義務づけられています。このファンド監査に必要な費用であり、その費用はファンドから支払われます。
基準価額 ・ 解約価額	基準価額とは純資産総額を受益権総口数で割った「1口当たりの純資産額」です。解約価額とは解約時の税引前の価額で、信託財産留保額の定めがある場合、基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額となります。
クローズド期間	効果的で計画的な運用を行うため、一定期間（または償還まで）原則として解約できない期間を設けているファンドがあります。この解約できない期間をクローズド期間といいます。
個別元本	お客様が、実際に購入したときの元本のことであり、お客様によってその額は異なります。同一のファンドを複数回購入した場合には、取得の都度、元本の変更（移動平均による再計算）をします。ただし、同一ファンドであっても、複数の販売会社で購入し取得価額の通算が実務的に困難な場合には、各々別個に個別元本を把握します。
自動継続投資コース (一般コース)	分配型投資信託で、税引き後の分配金を無手数料で自動的に全額再投資するコースです。 一方、分配金をその都度受け取るコースを一般コースといいます。
受益証券	ファンドの利益を受ける権利(受益権)を形にしたもので、証券取引法上の有価証券です。原則として、無記名式ですが、記名式にすることもできます。 平成19年1月4日より投資信託振替制度に移行され、原則として、受益証券は発行されません。
純資産総額	ファンドに組み入れた有価証券の時価等の資産総額から、運用にかかる未払費用等の負債総額を差し引いたものです。
償還 ・ 償還乗換え	ファンドの信託期間が終了し、投資信託財産を清算してお客様に金銭を返還することです。この償還された金銭(償還金)で、他のファンドを購入することを償還乗換えといいます。償還乗換えを利用すると、販売手数料が優遇される場合があります。
信託財産留保額	信託期間の途中で解約をする場合等に、基準価額から控除され投資信託財産中に留保される一定の金額のことです。
信託期間	ファンドが設定されてから償還されるまでの期間のことです。その期限に達するとファンドの運用が終了し、お客様が保有する口数に応じて投資信託財産が配分されます。

用語	解説
信託報酬	<p>ファンドの運用・管理業務の対価として、お客様が投資信託財産から間接的に支払う経費のことです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 投信会社のファンド運用に対する報酬 2. 受託銀行のファンド管理・保管に対する報酬 3. 販売会社の収益分配金や償還金の支払等の代行業務に対する報酬 <p>などが、含まれます。</p> <p>信託報酬の配分比率はファンドの商品性格や、運用の難易度などにより異なり、配分比率は目論見書や運用報告書の費用の項目に記載されることになっていきます。また、ファンドによっては実績報酬制を採用しているものもあります。実績報酬制とは、運用成果に応じて基本報酬に実績報酬を増減する制度です。</p>
追加型 ・ 単位型	<p>追加型投資信託は、ファンド設定後も購入ができるファンドです。</p> <p>単位型投資信託は、ファンド設定時に集められた資金をもとに運用を行い、追加で購入することができないファンドです。</p>
ファミリー ファンド方式 ・ マザーファンド ベビーファンド	<p>個々のお客様が購入するファンド（ベビーファンド）の資金を、一括して特定のファンド（マザーファンド）へ投資し、株式や債券などによる実質的な運用はマザーファンドで行う方式です。</p> <p>これによって各ベビーファンドは、その資金の規模にかかわらず同一の運用を行うことが可能となるなど、運用・管理面での効率化が図れます。</p>
(収益)分配金	<p>運用によって得られた収益等から信託報酬等の経費を控除し、投信会社が基準価額水準や市況などを勘案して決定する分配金のことです。</p> <p>分配金をお支払いした時は、個別元本と分配金支払い後の基準価額とを比較して、利益が生じている場合はその額は「普通分配金」（課税扱い）となり、元本の払戻しに相当する部分は「特別分配金」（非課税）となります。</p>
申込手数料	<p>投資信託を購入される際にお客様が販売会社に支払う手数料です。</p>
目論見書、投資 信託説明書（交 付または請求 目論見書）	<p>証券取引法に基づく、ファンドの商品説明のための書類で、商品概要、運用方針、リスク、費用等、お客様にとって重要な事項が記載されています。投信会社が作成し、お客様がファンドの購入を申込み際には、販売会社よりあらかじめ、または同時にお渡しします。「目論見書」は法令上の用語ですが、投資信託協会が定めるガイドラインにより、「投資信託説明書」の別称を使用することができるものとされています。平成16年12月1日施行の改正証券取引法においては、販売会社より必ず交付しなければならない「投資信託説明書（交付目論見書）」と、約定までにお客様から請求があれば交付しなければならない「投資信託説明書（請求目論見書）」に分かれましたが、上記ガイドラインにより、両者を一体として作成、お渡しすることもできるものとされています。</p>
有価証券 届出書	<p>投資信託の募集を行う場合、他の有価証券の募集の場合と同様に、証券取引法の定めにより、予め（関東）財務局長に提出しなければならない書類のことです。原則として、有価証券届出書に記載されていない事項は目論見書には記載できません。</p>
有価証券 報告書	<p>ファンドの決算日（計算期間が半年未満の場合には半年毎）から3ヵ月以内に、証券取引法の定めにより、（関東）財務局長に提出しなければならないファンドの決算書のことです。</p>

運用に関する用語	
用語	解説
アキュム ・ アモチ	債券の取得価額と償還価額の差額を、償還までの残存日数で日割り按分して、その金額を日々計上していく会計処理方法です。(償却原価法ということもあります) 投資信託協会のルールでは「償還までの残存期間が1年未満の債券」及びMMFにおいては「満期まで保有することを目的」として組み入れた場合には上記の方法により債券価格を評価できます。 (アキュムはアキュムレーション、アモチはアモチゼーションの略称です。)
アクティブ運用 ・ パッシブ運用	市場リターン(日経 225 や TOPIX などの騰落率)を上回ることを目的として、行う運用です。 これに対して、インデックスファンドのように運用成果が市場リターンと連動することを目的とした運用を、パッシブ運用といいます。
アセット・アロケーション	資産(アセット)の配分割合(アロケーション)を決定することです。お客様の投資資金を株式や債券などの資産にどのように配分するかを決定することで、最適な資産配分によりポートフォリオのリスク低減を図ります。
格付	格付は、債券などの元金・金利の支払についての確実性(安全性)の度合いを民間の格付機関が発行体の経営内容や財務内容をもとに評価したものです。
デュレーション	金利の変化に対する債券価格の感応度をあらわす数値です。この数値が大きいほど金利変動に対する債券価格の変動率は大きくなります。 債券運用においては将来の金利変動を予測し、その予測に基づいてデュレーションを調整することがあります。
ヘッジ	ある資産の価格変動リスクを派生商品などを活用して低減させる投資方法です。例えば、現物取引(買いポジション)に対して先物取引などで反対のポジション(売りポジション)を組むことで将来の価格下落を低減させることができます。
ベンチマーク ・ トラッキング ・エラー	運用の目標となる市場指標のことです。例えば国内株式投信の場合は、TOPIXや日経 225 などがベンチマークとなります。 ファンドの運用成績は様々な要因でベンチマークと乖離しますが、この乖離の度合いをトラッキングエラーと呼び、インデックスファンドの場合はトラッキングエラーが小さいほど、当初の運用目的に適ったファンドであると言えます。
ポートフォリオ	ファンドに組入れている有価証券全体を指します。 もともとは「紙バサミ」のことですが、有価証券を紙バサミで保管していたことからきています。
マクロ ・ セミマクロ	マクロとは本来ある一つのシステム全体を分析・把握し、説明することを指し、マクロ経済とはある国の一定期間における経済全体の行動を分析することです。それに対してミクロは、ある一つのシステムを構成する最少単位である特定の部門を分析・把握し、説明することを指し、ミクロ経済とは家計や企業の個々の行動を分析することです。 またセミマクロとはそれぞれの間位置し、経済を個々の産業レベルから分析・把握し説明することです。
ユニバース	ユニバースは英語の universe = 宇宙の意味ですが、ファンドが投資対象とする銘柄群全体をユニバースと呼んでいます。実際に投資する銘柄は、ユニバースの中から選定します。

世界物価連動国債ファンド

愛称:

物価の優等生

追加型証券投資信託 / ファンド・オブ・ファンズ

1. 本文書は証券取引法第13条の規定に基づく目論見書のうち、同法第15条第3項の規定に基づき投資家がファンドを取得する時までに投資家から請求があった場合に交付を行う目論見書です。
2. この投資信託説明書（請求目論見書）により行う「世界物価連動国債ファンド」の受益証券の募集については、委託者は、証券取引法（昭和23年法第25号）第5条の規定により有価証券届出書を平成18年3月10日に関東財務局長に提出しており、平成18年3月11日にその届出の効力が生じております。また、同法第7条の規定により有価証券届出書の訂正届出書を平成18年4月28日、平成18年8月11日、平成18年8月29日、平成18年9月8日および平成18年9月12日に関東財務局長に提出しております。

発行者名： T & Dアセットマネジメント株式会社

代表者の役職氏名： 代表取締役社長 桂 幹洋

本店の所在の場所： 東京都港区海岸一丁目2番3号

届出の対象とした募集

募集内国投資信託受益証券に係るファンドの名称： 世界物価連動国債ファンド

募集内国投資信託受益証券の金額： 継続募集額
5,000億円を上限とします。

有価証券届出書の写しを縦覧に供する場所： 該当事項はありません。

投資リスク

「世界物価連動国債ファンド」は、主として値動きのある投資信託の受益証券に投資しますので、基準価額は変動します。また、為替の変動により損失を被ることがあります。したがって、投資元本が保証されているものではありません。また、収益や投資利回り等も未確定の商品です。投資信託財産に生じた利益および損失は、全て投資家の皆様に帰属します。

投資信託説明書（請求目論見書） 目 次

	頁
第1 ファンドの沿革.....	1
第2 手 続 等.....	1
1. 申込（販売）手続等.....	1
2. 換金（解約）手続等.....	2
第3 管 理 及 び 運 営.....	3
1 資 産 管 理 等 の 概 要.....	3
(1) 資 産 の 評 価.....	3
(2) 保 管.....	4
(3) 信 託 期 間.....	4
(4) 計 算 期 間.....	4
(5) そ の 他.....	4
2. 受 益 者 の 権 利 等.....	7
第4 ファンドの経理状況.....	8
1. 財 務 諸 表	11
(1) 貸 借 対 照 表	11
(2) 損益及び剰余金計算書.....	12
(3) 注 記 表	13
(4) 附 属 明 細 表	15
2. ファンドの現況	22
純資産額計算書.....	22
第5 設定及び解約の実績	22

第1【ファンドの沿革】

平成17年2月28日 投資信託契約締結、当ファンドの設定、運用開始

第2【手続等】

1【申込（販売）手続等】

当ファンドの受益証券の取得申込者は、販売会社において取得の申込を行うものとします。取得の申込は、申込期間におけるニューヨーク、ロンドン、メルボルンもしくはケイマンの銀行または証券取引所の休業日を除く毎営業日に販売会社にて受付けます。受付のできない日につきましては、販売会社ないしは委託者までお問い合わせください。

申込の受付は、原則として営業日の午後3時（本邦証券取引所が半休日の場合は午前11時）までとし、当該受付時間を過ぎた場合は翌営業日の受付となります。ただし、受付時間は販売会社によって異なることもあります。また、証券取引所における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、受付時間が変更になることもありますのでご注意ください。詳しくは販売会社までお問い合わせください。

申込方法には、収益の分配時に収益分配金を受け取る「一般コース」と、収益分配金が税引き後、無手数料で再投資される「自動継続投資コース」があります。申込単位および取扱いコースは販売会社により異なりますので、販売会社ないしは委託者までお問い合わせください。

「自動継続投資コース」を選択された場合には、販売会社との間で「自動継続投資契約」を締結していただきます。

*これと異なる名称で同一の権利義務関係を規定した契約を含むものとします。

受益証券のお買付価額（発行価格）は取得申込日の翌営業日の基準価額とします。お買付価額に申込口数を乗じて得た金額が申込金額となります。

証券取引所における取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、受益証券の取得申込の受付を中止することおよび既に受付けた取得申込を取消することがあります。

申込手数料につきましては、投資信託説明書（交付目論見書）「」申込手続等の概要（4）申込手数料」における記載をご参照ください。

取得申込者は、販売会社との間で保護預りに関する契約を締結したうえで、受益証券を保護預りとすることができます。無記名式の受益証券は、それを保有している方が受益者となりますので、盗難や紛失などの事故を防ぐため、保護預りのご利用をお勧めいたします。なお、「自動継続投資コース」をご利用の場合、受益証券は保護預りとさせていただきます。

（注）ファンドの受益権は、平成19年1月4日より、投資信託振替制度（「振替制度」と称する場合があります。）に移行する予定であり、受益証券は発行されず、受益権の帰属は、振替機関及び当該振替機関の下位の口座管理機関（社債等の振替に関する法律（政令で定める日以降「社債、株式等の振替に関する法律」となった場合は読み替えるものとし、「社債、株式等の振替に関する法律」を含め「社振法」といいます。以下同じ。）第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。）の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります（以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。）。したがって、保護預りの形態はなくなります。

取得申込者は、申込代金（申込金額に申込手数料（税込）を加算した額）を払込期日までにお申込の販売会社に支払うものとします。

当ファンドの受益権は、平成19年1月4日より振替制度に移行する予定であり、取得申込者は販売会社に、取得申込と同時にまたは予め、自己のために開設された当ファンドの受益権の振替を行うための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録が行われます。なお、販売会社（委託者の指定する口座管理機関を含みます。）は、当該取得申込の代金の支払いと引き換えに、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録を行うことができます。委託者は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行うものとします。振替機関等は、委託者から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。受託者は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権に係る信託を設定した旨の通知を行います。

2【換金（解約）手続等】

受益者は、自己の有する受益証券につき、委託者に販売会社が定める単位（販売会社ないしは委託者（後述の「第3 管理及び運営 1 資産管理等の概要 (1)資産の評価」に記載する問い合わせ先）までお問い合わせください。）をもって一部解約の実行を請求することができます。一部解約の実行の請求の受付は、営業日の午後3時（本邦証券取引所が半休日の場合は午前11時）までとし、当該受付時間を過ぎた場合は翌営業日の受付となります。ただし、受付時間は販売会社によって異なることもあります。また、証券取引所における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、受付時間が変更になることもありますのでご注意ください。なお、ニューヨーク、ロンドン、メルボルンもしくはケイマンの銀行または証券取引所の休業日においては、一部解約の実行の請求を受付けないものとします。受付のできない日につきましては、販売会社ないしは委託者までお問い合わせください。

委託者は、一部解約の実行の請求を受付けた場合には、この投資信託契約の一部を解約します。

一部解約の価額は、一部解約の実行の請求日の翌営業日の基準価額から当該基準価額に0.2%の率を乗じて得た額を信託財産留保額^{*}として控除した価額（解約価額）とします。

*「信託財産留保額」とは、償還時まで投資を続ける投資家との公平性の確保やファンド残高の安定的な推移を図るため、クローズド期間の有無に関係なく、信託期間満了前の解約に対し解約者から徴収する一定の金額をいい、投資信託財産に繰り入れられます。

受益者が一部解約の実行の請求をするときは、販売会社に対し、受益証券をもって行うものとします。

一部解約の1口当たりの受取金額は、解約価額から源泉徴収税額を差し引いた金額となります。

委託者は、証券取引所における取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、一部解約の実行の請求の受付を中止することおよびすでに受付けた一部解約の実行の請求の受付を取消することができます。なお、一部解約の実行の請求の受付が中止された場合には、受益者は当該受付の中止以前に行った一部解約の実行の請求を撤回できます。ただし、受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該証券の一部解約の価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行の請求を受付けたものとして、の規定に準じて計算された価額とします。

一部解約金は、受益者の請求を受付けた日から起算して、原則として、5営業日目から受益者に支払います。ただし、大口（概ね1億口以上）の解約請求をされた場合または他の受益者の方の解約請求も含めて同日の解約請求の累計が一定限度を超える場合もしくは海外の休日や解約に伴う外国投資信託の売却状況等によっては、上記の原則による支払い開始日が遅延する場合があります。その場合の支払い開始日等詳しくはお申込の販売会社にお問い合わせ下さい。

解約価額につきましては、委託者または販売会社にお問い合わせください。

販売会社により、買取請求の取扱いを行う場合がありますが、詳しくは販売会社にお問い合わせください。

当ファンドの受益権は、平成19年1月4日より振替制度に移行する予定であり、換金の請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求に係るこの投資信託契約の一部解約を委託者が行うのと引き換えに、当該一部解約に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

平成19年1月4日以降の換金に係る換金の請求を受益者がするときは、振替受益権をもって行うものとします。ただし、平成19年1月4日以降に換金代金が受益者に支払われることとなる換金の請求で、平成19年1月4日前行われる当該請求については、振替受益権となることが確実な受益証券をもって行うものとします。

平成18年12月29日時点での保護預りをご利用の方の受益証券は、原則として一括して全て振替受益権へ移行します。受益証券をお手許で保有されている方で、平成19年1月4日以降も引き続き保有された場合は、換金のお申し込みに際して、個別に振替受益権とするための所要の手続きが必要であり、この手続きには時間を要しますので、ご注意ください。

第3【管理及び運営】

1【資産管理等の概要】

(1)【資産の評価】

基準価額とは投資信託財産に属する資産を法令および社団法人投資信託協会規則にしたがって時価評価して得た投資信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（以下「純資産総額」といいます。以下同じ。）を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。

当ファンドの主な投資対象の評価方法は以下のとおりです。

- 外国投資信託受益証券：原則として以下のいずれかから入手した価額で評価します。
- ・日本証券業協会発表の店頭売買参考統計値（平均値）
 - ・証券会社、銀行等の提示する価額（売気配相場を除く。）
 - ・価格情報会社の提供する価額

マザーファンド受益証券：原則として当ファンドの基準価額計算日の基準価額で評価します。

基準価額は委託者の営業日において日々算出され、委託者または販売会社にお問い合わせいただければ、お知らせいたします。また、基準価額（1万口当たり）は原則として翌日の日本経済新聞朝刊に〔T&Dアセット〕の「世界物価」の略号にて掲載されます。委託者へのお問い合わせ先は、下記の通りです。

T & Dアセットマネジメント株式会社
マーケティング部 0120 - 151425 (フリーダイヤル)
(受付時間は営業日の午前9時～午後5時(証券取引所の半日立会日は午前9時～正午))
インターネットホームページ <http://www.tdasset.co.jp/>

(2) 【保管】

取得申込者は、販売会社との間で保護預りに関する契約を締結したうえで、受益証券を保護預りとすることができます。保護預りの場合、受益証券は混蔵保管されます。無記名式の受益証券は、それを保有している方が受益者となりますので、盗難や紛失などの事故を防ぐため、保護預りのご利用をお勧めいたします。なお、「自動継続投資コース」をご利用の場合、受益証券は保護預りとさせていただきます。

当ファンドの受益権は、平成19年1月4日より、振替制度に移行する予定であり、受益権の帰属は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まり、受益証券を発行しませんので、受益証券の保管に関する該当事項はなくなります。

(3) 【信託期間】

当ファンドの信託期間は原則として無期限ですが、後述の「(5) その他 信託の終了」の規定により信託を終了させる場合があります。

(4) 【計算期間】

当ファンドの計算期間は毎年3月11日から6月10日まで、6月11日から9月10日まで、9月11日から12月10日まで、12月11日から翌年3月10日までとします。各計算期間終了日に該当する日(以下「該当日」といいます。)が休業日のとき、各計算期間終了日は、該当日の翌日以降の最初の営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。

(5) 【その他】

信託の終了

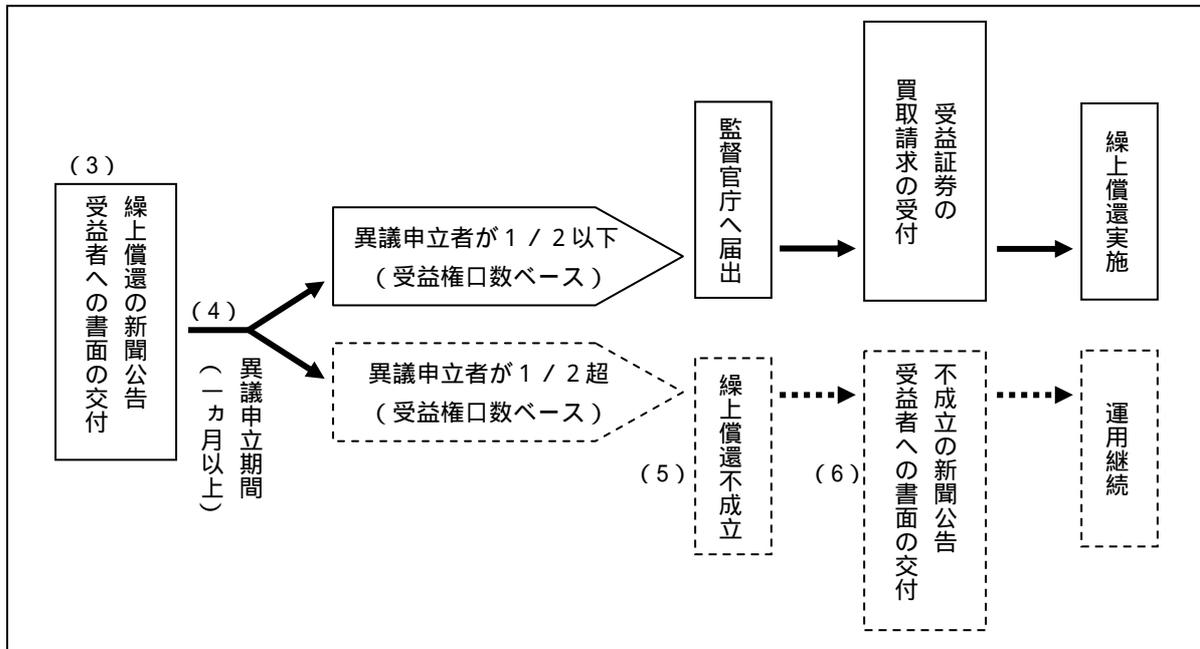
a. ファンドの繰上償還

- (1) 委託者は、信託期間中において、この投資信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めたととき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この投資信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託者は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。
- (2) 委託者は、投資信託契約の一部を解約することにより、受益権の総口数が10億口を下回ることとなった場合には、受託者と合意のうえ、この投資信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託者は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。
- (3) 委託者は、この信託が投資対象とする投資信託証券に係る外国投資信託がその信託を終了することとなる場合は、受託者と合意のうえ、この投資信託契約を解約し、信託を終了させるものとします。この場合において、委託者は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。
- (4) 委託者は、(1)、(2)、(3)の事項について、あらかじめ、解約しようとする旨を公告し、かつ、その旨を記載した書面をこの投資信託契約に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この投資信託契約に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として公告を行いません。
- (5) (4)の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託者に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。
- (6) (5)の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、(1)、(2)の投資信託契約の解約をしません。
- (7) 委託者は、この投資信託契約の解約をしないこととしたときは、解約しない旨およびその理

由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

- (8)(5)から(7)までの規定は、(3)の規定に基づいてこの投資信託契約を解約する場合には適用しません。また、投資信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、(5)の一定の期間が一月を下らずにその公告および書面の交付を行うことが困難な場合も同じとします。
- b. 委託者は、監督官庁よりこの投資信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、投資信託契約を解約し信託を終了させます。
 - c. 委託者が監督官庁より認可の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託者は、この投資信託契約を解約し、信託を終了させます。なお、当ファンドは、監督官庁が、この投資信託契約に関する委託者の業務を他の投資信託委託業者に引き継ぐことを命じたときは、この信託は、後述の「投資信託約款の変更(4)」に該当する場合を除き、当該投資信託委託業者と受託者との間において存続します。
 - d. 受託者が辞任する場合、委託者は、後述の「投資信託約款の変更」の規定にしたがい、新受託者を選任します。委託者が新受託者を選任できないときは、委託者はこの投資信託契約を解約し、信託を終了させます。

[繰上償還を行う場合の手続きの流れ]

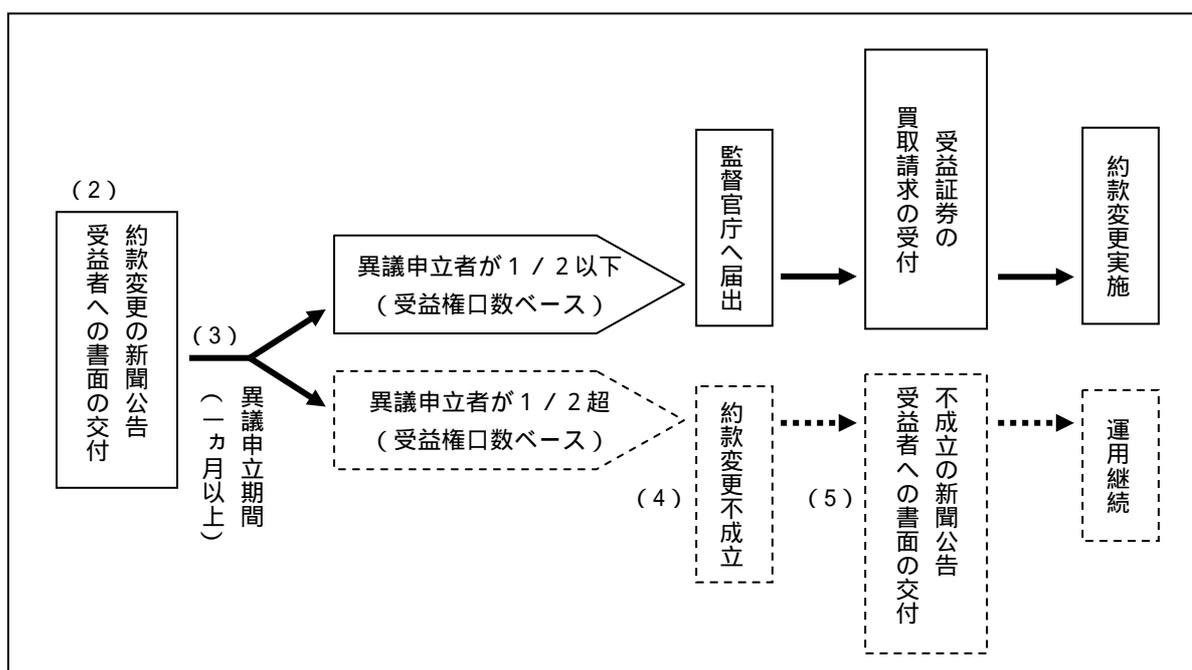


投資信託約款の変更

- (1) 委託者は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この投資信託約款を変更することができるものとし、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。
- (2) 委託者は、(1)の変更事項のうち、その内容が重大なものについて、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの投資信託約款に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この投資信託約款に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
- (3) (2)の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託者に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。
- (4) (3)の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、(1)の投資信託約款の変更をしません。

- (5) 委託者は、当該投資信託約款の変更をしないこととしたときは、変更しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
- (6) 委託者は、監督官庁の命令に基づいてこの投資信託約款を変更しようとするときは、前述の規定にしたがいます。
- (7) 委託者は、委託者が受益者を代理してこの信託の受益権を振替受入簿に記載または記録を申請することができる旨の投資信託約款変更をしようとする場合は、その変更の内容が重大なものとして前述の規定にしたがいます。ただし、この場合において、振替受入簿の記載または記録を申請することについて委託者に代理権を付与することについて同意をしている受益者へは、上記(2)の書面の交付を原則として行いません。

[投資信託約款の重大な変更を行う場合の手続きの流れ]



関係法人との契約の更改等に関する手続、変更した場合の開示方法

- (1) 委託者が販売会社と締結している「証券投資信託受益証券の募集・販売の取引等に関する契約」の有効期間は、契約締結日以降特定の日から1年間ですが、契約満了日の3カ月前までに委託者および販売会社から別段の意思表示のないときは、自動的に1年間延長され、その後も同様とします。
- (2) (1)の契約または投資信託約款を変更した場合には、有価証券報告書等においてその内容を開示します。

公告

委託者が受益者に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。

運用に係る報告等開示方法

委託者は「証券取引法」の規定に基づき有価証券報告書および臨時報告書を提出します。また、「投資信託財産の計算に関する規則」の規定に基づき、毎年6月の計算期間終了日の翌日から12月の計算期間終了日までの期間および毎年12月の計算期間終了日の翌日から翌年6月の計算期間終了日までの期間を対象として運用報告書を作成し、かつ知られたる受益者に交付します。

2【受益者の権利等】

受益者の有する主な権利は以下の通りです。なお、受益者は、その所有する受益証券の口数に応じて、均等に当ファンドの受益権を保有します。

収益分配金の請求権

受益者は、当ファンドの収益分配金を所有する受益証券の口数に応じて受領する権利を有します。

収益分配金は、原則として毎計算期間終了日から起算して5営業日目（予定）から収益分配金交付票と引き換えに受益者に支払われます。収益分配金の支払いは、販売会社の営業所等に行うものとします。

上記に関わらず「自動継続投資コース」を選択した受益者に対しては、委託者は、原則として毎計算期間終了日の翌営業日に収益分配金を販売会社に支払います。この場合、販売会社は、受益者に対し遅滞なく収益分配金の再投資にかかる受益証券の売付を行います。また、委託者が販売会社である場合には、委託者は、委託者の自らの募集にかかる受益証券に帰属する収益分配金をこの信託の受益証券の取得申込金として、各受益者毎に当該収益分配金の再投資にかかる受益証券の取得の申込に応じたものとします。

ただし、受益者が、収益分配金について支払開始日から5年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、委託者が受託者から交付を受けた金銭は、委託者に帰属します。

(注) 当ファンドの受益権は、平成19年1月4日より振替制度に移行する予定であり、その場合の分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる計算期間の末日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者としてします。）に、原則として決算日から起算して5営業日目（予定）からお支払いします。なお、平成19年1月4日以降においても、時効前の収益分配金にかかる収益分配金交付票は、なおその効力を有するものとし、その収益分配金交付票と引き換えに受益者にお支払いします。「自動継続投資コース」をお申込みの場合は、分配金は税引き後無手数料で再投資されますが、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

償還金の請求権

受益者は、当ファンドの償還金を所有する受益証券の口数に応じて受領する権利を有します。

償還金は、原則として信託終了日から起算して5営業日目（予定）から受益証券と引き換えに受益者に支払います。償還金の支払いは、販売会社の営業所等において行います。

ただし、受益者が、信託終了による償還金について支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、委託者が受託者から交付を受けた金銭は、委託者に帰属します。

一部解約（換金）請求権

受益者は、受益証券の一部解約を販売会社を通じて委託者に請求することができます。権利行使の方法等については、前述の「第2 手続等 2 換金（解約）手続等」をご参照ください。

反対者の買取請求権

前述の「1 資産管理等の概要（5）その他 信託の終了」に規定する投資信託契約の解約または前述の「1 資産管理等の概要（5）その他 投資信託約款の変更」に規定する投資信託約款の変更のうち、その内容が重大な変更を行う場合において、一定の期間内に委託者に対して異議を述べた受益者は、受託者に対し、自己の有する受益証券を、投資信託財産をもって買取すべき旨を請求することができます。

帳簿閲覧権

受益者は、委託者に対し、その営業時間内に当ファンドの投資信託財産に関する帳簿書類の閲覧または謄写を請求することができます。

第4【ファンドの経理状況】

1. 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）ならびに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）（以下「投資信託財産計算規則」という。）に基づいて作成しております。
なお、投資信託財産計算規則は、平成18年4月20日付内閣府令第49号により改正されておりますが、第2期特定期間（平成17年6月11日から平成17年12月12日まで）については改正前の投資信託財産計算規則に基づいて作成しており、第3期特定期間（平成17年12月13日から平成18年6月12日まで）については改正後の投資信託財産計算規則に基づいて作成しております。
また、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
2. 当ファンドの計算期間は6ヵ月未満であるため、財務諸表は6ヵ月毎に作成しております。
3. 当ファンドは、証券取引法第193条の2の規定に基づき、第2期特定期間（平成17年6月11日から平成17年12月12日まで）および第3期特定期間（平成17年12月13日から平成18年6月12日まで）の財務諸表について、新日本監査法人による監査を受けております。その監査報告書は、該当する財務諸表の直前に添付しております。

独立監査人の監査報告書

平成 18 年 2 月 3 日

ティ・アンド・ディ・アセットマネジメント株式会社
取締役会 御 中

新日本監査法人

代表社員
業務執行社員

公認会計士

湯本 堅司 

代表社員
業務執行社員

公認会計士

原 科 立 郎 

代表社員
業務執行社員

公認会計士

英 公 一 

当監査法人は、証券取引法第 193 条の 2 の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている「世界物価連動国債ファンド」の平成 17 年 6 月 11 日から平成 17 年 12 月 12 日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、「世界物価連動国債ファンド」の平成 17 年 12 月 12 日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

ティ・アンド・ディ・アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

独立監査人の監査報告書

平成 18 年 8 月 4 日

ティ・アンド・ディ・アセットマネジメント株式会社
取 締 役 会 御 中

新日本監査法人

代 表 社 員
業 務 執 行 社 員

公 認 会 計 士

沼田 徹 

代 表 社 員
業 務 執 行 社 員

公 認 会 計 士

大山 修 

代 表 社 員
業 務 執 行 社 員

公 認 会 計 士

英 么 一 

当監査法人は、証券取引法第 193 条の 2 の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている「世界物価連動国債ファンド」の平成 17 年 12 月 13 日から平成 18 年 6 月 12 日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、「世界物価連動国債ファンド」の平成 18 年 6 月 12 日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

ティ・アンド・ディ・アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

1【財務諸表】

(1)【貸借対照表】

(単位：円)

科 目	期 別	第2期 特定期間 (平成17年12月12日現在)	第3期 特定期間 (平成18年6月12日現在)
		金 額	金 額
資産の部			
流動資産			
コール・ローン		490,143,243	241,114,798
投資信託受益証券		3,397,395,897	5,135,127,269
親投資信託受益証券		40,000,000	120,012,000
流動資産合計		3,927,539,140	5,496,254,067
資産合計		3,927,539,140	5,496,254,067
負債の部			
流動負債			
未払金		149,999,992	-
未払収益分配金		86,436,668	53,904,501
未払解約金		2,842,431	7,809,198
未払受託者報酬		283,707	565,723
未払委託者報酬		6,100,110	12,163,538
その他未払費用		56,654	113,052
流動負債合計		245,719,562	74,556,012
負債合計		245,719,562	74,556,012
純資産の部			
元本等			
元本			
元本		3,457,466,749	5,390,450,170
剰余金			
期末剰余金		224,352,829	31,247,885
(分配準備積立金)		(101,019,186)	(-)
純資産合計		3,681,819,578	5,421,698,055
負債・純資産合計		3,927,539,140	5,496,254,067

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位 : 円)

科 目	期 別	第 2 期 特定期間 (自 平成 1 7 年 6 月 1 1 日 至 平成 1 7 年 1 2 月 1 2 日)	第 3 期 特定期間 (自 平成 1 7 年 1 2 月 1 3 日 至 平成 1 8 年 6 月 1 2 日)
		金 額	金 額
営業収益			
受取配当金		25,348,650	22,642,607
受取利息		710	3,701
有価証券売買等損益		205,932,634	152,255,528
営業収益合計		231,281,994	129,609,220
営業費用			
受託者報酬		502,856	1,020,058
委託者報酬		10,812,312	21,932,044
その他費用		100,389	203,835
営業費用合計		11,415,557	23,155,937
営業利益 (損失) 金額		219,866,437	152,765,157
経常利益 (損失) 金額		219,866,437	152,765,157
当期純利益 (純損失) 金額		219,866,437	152,765,157
一部解約に伴う当期純利益 (純損失) 金額分配額		5,074,883	2,622,997
期首剰余金		22,302,645	224,352,829
剰余金増加額 (当期追加信託に伴う剰余 金増加額)		119,302,339	85,866,071
剰余金減少額 (当期一部解約に伴う剰余 金減少額)		(119,302,339)	(85,866,071)
剰余金減少額		12,330,189	8,902,770
分配金		(12,330,189)	(8,902,770)
期末剰余金		119,713,520	119,926,085
		224,352,829	31,247,885

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

期 別 項 目	第 2 期 特定期間 (自 平成 17 年 6 月 1 1 日 至 平成 17 年 12 月 1 2 日)	第 3 期 特定期間 (自 平成 17 年 12 月 1 3 日 至 平成 18 年 6 月 1 2 日)
1 運用資産の評価基準 及び評価方法	(1) 投資信託受益証券 基準価額で評価しております。 (2) 親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価 しております。 時価評価にあたっては、親投資 信託受益証券の基準価額に基づ いて評価しております。	(1) 投資信託受益証券 同左 (2) 親投資信託受益証券 同左
2 費用・収益の計上基準	(1) 受取配当金 原則として、投資信託受益証券の 収益分配金落ち日において、その 金額が確定しているものについ ては当該金額を計上、未だ確定し ていない場合は入金日基準で計上 しております。 (2) 有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。	(1) 受取配当金 同左 (2) 有価証券売買等損益 同左
3 表示	-	平成 18 年 4 月 20 日付内閣府令 第 49 号による投資信託財産計算規 則の改正により、表示方法が以下 のとおり変更されております。 (1) 貸借対照表 純資産の部は、従来の元本及び剰 余金の区分から、元本等及び評価・ 換算差額等の区分となりました。た だし、評価・換算差額等の区分は記 載すべき事項がないため、記載を省 略しております。 (2) 損益及び剰余金計算書 経常損益の部、営業損益の部の 表示は廃止されました。また、営 業損益、経常損益及び当期純損益 は、当期から営業損益金額、経常 損益金額及び当期純損益金額とし ております。
4 その他	当ファンドの特定期間は期末が 休日のため、平成 17 年 6 月 1 1 日から平成 17 年 12 月 1 2 日ま でとなっております。	当ファンドの前特定期間の期末が 休日のため、当特定期間は、平成 17 年 12 月 1 3 日からとなってお り、また、当特定期間の期末が休日 のため、平成 18 年 6 月 1 2 日ま でとなっております。

(貸借対照表に関する注記)

第2期 特定期間 (平成17年12月12日現在)		第3期 特定期間 (平成18年6月12日現在)	
-		1 特定期間の末日における受益権の総数 5,390,450,170口	
1 特定期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 1.0649円 (1万口当たり純資産額 10,649円)		2 特定期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 1.0058円 (1万口当たり純資産額 10,058円)	

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

項 目	期 別	第2期 特定期間 (自平成17年6月11日 至平成17年12月12日)	第3期 特定期間 (自平成17年12月13日 至平成18年6月12日)
1 分配金の計算過程		平成17年6月11日から平成17年9月12日までの計算期間末における分配対象金額107,229,959円(1万口当たり483円)のうち、33,276,852円(1万口当たり150円)を分配金額としております。 平成17年9月13日から平成17年12月12日までの計算期間末における分配対象金額310,789,497円(1万口当たり898円)のうち、86,436,668円(1万口当たり250円)を分配金額としております。	平成17年12月13日から平成18年3月10日までの計算期間末における分配対象金額194,766,174円(1万口当たり413円)のうち、66,021,584円(1万口当たり140円)を分配金額としております。 平成18年3月11日から平成18年6月12日までの計算期間末における分配対象金額187,738,320円(1万口当たり348円)のうち、53,904,501円(1万口当たり100円)を分配金額としております。
2 受託会社との取引高		(1) 営業取引 受託者報酬 502,856円 (2) 営業取引以外の取引 - 円	(1) 営業取引 受託者報酬 1,020,058円 (2) 営業取引以外の取引 - 円

(その他の注記)

1 元本の移動

項 目	期 別	第2期 特定期間 (自平成17年6月11日 至平成17年12月12日)	第3期 特定期間 (自平成17年12月13日 至平成18年6月12日)
期首元本額		1,783,368,251 円	3,457,466,749 円
期中追加設定元本額		2,385,715,608 円	2,178,720,399 円
期中一部解約元本額		711,617,110 円	245,736,978 円

2 売買目的有価証券の貸借対照表計上額等

第2期特定期間(自平成17年6月11日 至平成17年12月12日)

売買目的有価証券の貸借対照表計上額及び当特定期間の損益に含まれた評価差額

種類	貸借対照表計上額	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額
投資信託受益証券	3,397,395,897 円	142,688,746 円
親投資信託受益証券	40,000,000 円	0 円
合計	3,437,395,897 円	142,688,746 円

第3期特定期間(自平成17年12月13日 至平成18年6月12日)

売買目的有価証券の貸借対照表計上額及び当特定期間の損益に含まれた評価差額

種類	貸借対照表計上額	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額
投資信託受益証券	5,135,127,269 円	45,220,457 円
親投資信託受益証券	120,012,000 円	12,000 円
合計	5,255,139,269 円	45,208,457 円

3 デリバティブ取引関係

第2期特定期間(自平成17年6月11日 至平成17年12月12日)

該当事項はありません。

第3期特定期間(自平成17年12月13日 至平成18年6月12日)

該当事項はありません。

(4) 【附属明細表】

有価証券明細表

a. 株式

該当事項はありません。

b. 株式以外の有価証券

(平成18年6月12日現在)

種類	銘柄	券面総額	評価額(円)	備考
投資信託受益証券	グローバルインフレ連動国債ファンド	476,504.04	5,135,127,269	
合計		476,504.04	5,135,127,269	

(注) 投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

(平成18年6月12日現在)

種類	銘柄	券面総額	評価額(円)	備考
親投資信託受益証券	T&Dマネープールマザーファンド	120,000,000	120,012,000	
合計		120,000,000	120,012,000	

(注) 親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

有価証券先物取引等及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

(参考)「グローバルインフレ連動国債ファンド」の概要

以下の財務情報および組入資産の明細は「グローバルインフレ連動国債ファンド」の管理会社である B B H (ブラウン・ブラザーズ・ハリマン) から入手した情報を元に委託会社が作成したものです。

(1) 損益計算書 (2005年12月1日 ~ 2006年5月31日)

(円)

投資収益	
収入	
利息およびその他収入 (源泉税740,164円控除後)	73,805,134
収入合計	73,805,134
費用	
投資顧問料	9,470,152
保管報酬	7,208,449
監査報酬	1,013,537
信託報酬およびその他費用	858,597
費用合計	18,550,735
投資純利益	55,254,399
実現および未実現損益	
投資および外国為替取引に係る実現純利益	56,363,901
投資および外国為替取引に係る未実現評価損	(293,788,874)
実現および未実現損失	(237,424,973)
運用による純資産減少額	(182,170,574)

(2)組入資産の明細(2006年5月31日)

銘柄	額面	評価額
オーストラリア	(オーストラリアドル)	(円)
Australia Index Linked 5.643% DUE 08/20/10	300,000	37,426,555
Australian Government Bond 5.520% DUE 08/20/15	620,000	80,280,560
Australian Government Bond 5.091% DUE 08/20/20	570,000	71,808,682
オーストラリア計		189,515,797
カナダ	(カナダドル)	(円)
Canada Government 4.25% DUE 12/01/21	1,662,328	225,114,093
Canada Government 4.25% DUE 12/01/26	1,618,218	231,692,260
Canada Government 4.00% DUE 12/01/31	1,854,871	272,651,111
Canada Government 3.00% DUE 12/01/36	952,656	123,359,779
カナダ計		852,817,243
ドイツ	(ユーロ)	(円)
Deutscheland I /L Bond 1.50% DUE 04/15/16	1,513,759	211,593,988
ドイツ計		211,593,988
フランス	(ユーロ)	(円)
France Government Bond O.A.T. 3.00% DUE 07/25/09	3,909,571	590,506,577
France Government Bond O.A.T. 1.60% DUE 07/25/11	2,067,259	298,101,378
France Government Bond O.A.T. 3.00% DUE 07/25/12	4,378,681	684,627,983
France Government Bond O.A.T. 2.50% DUE 07/25/13	3,790,270	577,071,858
France Government Bond O.A.T. 1.60% DUE 07/25/15	2,059,292	293,127,181
France Government Bond O.A.T. 1.00% DUE 07/25/17	1,553,819	205,066,374
France Government Bond O.A.T. 2.25% DUE 07/25/20	2,164,882	325,521,325
France Government Bond O.A.T. 3.40% DUE 07/25/29	2,028,185	367,087,683
France Government Bond O.A.T. 3.15% DUE 07/25/32	2,043,662	363,208,577
French Treasury Note 1.25% DUE 07/25/10	812,304	116,479,066
フランス計		3,820,798,002
イタリア	(ユーロ)	(円)
Italy Buoni Poliennali Del Tesoro 1.65% DUE 09/15/08	3,734,688	543,494,469
Italy Buoni Poliennali Del Tesoro 0.95% DUE 09/15/10	3,620,995	508,819,348
Italy Buoni Poliennali Del Tesoro 2.15% DUE 09/15/14	3,889,948	571,018,168
Italy Buoni Poliennali Del Tesoro 2.35% DUE 09/15/35	2,249,155	322,873,605
イタリア計		1,946,205,590

銘柄	額面	評価額
スウェーデン	(スウェーデンクローナ)	(円)
Swedish Government Bond 4.617% DUE 12/01/08	6,410,000	122,805,881
Swedish Government Bond 1.009% DUE 04/01/12	3,065,000	46,016,574
Swedish Government Bond DUE 04/01/14	4,750,000	73,512,195
Swedish Government Bond 3.865% DUE 12/01/15	14,550,000	283,932,739
Swedish Government Bond 4.617% DUE 12/01/20	9,170,000	205,460,127
Swedish Government Bond 3.865% DUE 12/01/28	9,675,000	209,123,761
スウェーデン計		940,851,277
イギリス	(イギリスポンド)	(円)
U.K. Treasury Stock 6.190% DUE 05/20/09	800,000	419,566,077
U.K. Treasury Stock 6.500% DUE 08/23/11	1,265,000	710,916,442
U.K. Treasury Stock 5.440% DUE 08/16/13	2,032,000	972,637,377
U.K. Treasury Stock 5.930% DUE 07/26/16	1,510,000	810,843,038
U.K. Treasury Stock 1.248% DUE 11/22/17	1,205,000	246,009,765
U.K. Treasury Stock 5.852% DUE 04/16/20	1,237,000	677,014,903
U.K. Treasury Stock 4.955% DUE 07/17/24	2,188,000	1,062,088,918
U.K. Treasury Stock 1.261% DUE 11/22/27	300,000	62,666,798
U.K. Treasury Stock 5.911% DUE 07/22/30	1,464,000	694,032,176
U.K. Treasury Stock 2.230% DUE 01/26/35	974,000	271,011,968
U.K. Treasury Stock 1.258% DUE 11/22/55	1,036,000	235,013,982
イギリス計		6,161,801,444
アメリカ	(アメリカドル)	(円)
U.S. Treasury Bonds Tips 3.625% DUE 01/15/08	5,033,491	578,676,945
U.S. Treasury Bonds Tips 3.875% DUE 01/15/09	4,726,965	553,580,147
U.S. Treasury Bonds Tips 4.250% DUE 01/15/10	3,265,763	392,239,559
U.S. Treasury Bonds Tips 0.875% DUE 04/15/10	7,329,887	779,510,540
U.S. Treasury Bonds Tips 3.500% DUE 01/15/11	3,139,725	370,914,302
U.S. Treasury Bonds Tips 2.375% DUE 04/15/11	2,959,463	332,485,099
U.S. Treasury Bonds Tips 3.375% DUE 01/15/12	2,278,571	269,719,742
U.S. Treasury Bonds Tips 3.000% DUE 07/15/12	5,989,530	696,693,072
U.S. Treasury Bonds Tips 1.875% DUE 07/15/13	5,651,381	612,416,095
U.S. Treasury Bonds Tips 2.000% DUE 01/15/14	5,249,809	571,520,270
U.S. Treasury Bonds Tips 2.000% DUE 07/15/14	4,801,664	521,891,645
U.S. Treasury Bonds Tips 1.625% DUE 01/15/15	4,957,701	521,482,267
U.S. Treasury Bonds Tips 1.875% DUE 07/15/15	4,524,816	484,568,340
U.S. Treasury Bonds Tips 2.000% DUE 01/15/16	5,597,030	603,486,765
U.S. Treasury Bonds Tips 2.375% DUE 01/15/25	7,048,801	776,565,878
U.S. Treasury Bonds Tips 2.000% DUE 01/15/26	3,875,641	401,944,632
U.S. Treasury Bonds Tips 3.625% DUE 04/15/28	5,151,284	692,042,353
U.S. Treasury Bonds Tips 3.875% DUE 04/15/29	6,064,746	849,340,810
U.S. Treasury Bonds Tips 3.375% DUE 04/15/32	1,193,168	159,839,981
アメリカ計		10,168,918,442
合計		24,292,501,783

(参考) T & Dマネープールマザーファンド
 以下に記載した情報は監査の対象外であります。

当ファンドは「T & Dマネープールマザーファンド」の受益証券を投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」はすべて同マザーファンドの受益証券です。
 尚、当ファンドの特定期間末日における同マザーファンドの状況は次の通りです。

(1) 貸借対照表

(単位：円)

科 目	対象年月日	(平成17年12月12日現在)	(平成18年6月12日現在)
		金 額	金 額
資産の部			
流動資産			
コール・ローン		10,000,677	60,009,857
国債証券		29,999,673	59,997,912
流動資産合計		40,000,350	120,007,769
資産合計		40,000,350	120,007,769
負債の部			
負債合計		-	-
純資産の部			
元本等			
元本			
元本		40,000,000	120,000,000
剰余金			
期末剰余金		350	7,769
純資産合計		40,000,350	120,007,769
負債・純資産合計		40,000,350	120,007,769

(2) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	対象期間 (自平成17年6月11日 至平成17年12月12日)	(自平成17年12月13日 至平成18年6月12日)
1 運用資産の評価基準 及び評価方法	<p>国債証券 原則として時価で評価しております。</p> <p>時価評価にあたっては、原則として、市場価額のあるものについてはその終値(終値のないものについてはそれに準ずる価額)、証券取引所に上場されていないものについては、以下のいずれかから入手した価額で評価しております。</p> <p>日本証券業協会発表の公社債店頭 売買参考統計値(平均値)値段 証券会社、銀行等の提示する価額 (ただし、売気配相場は使用しない)</p> <p>価額情報会社の提供する価額</p> <p>なお、買付にかかる約定日から1 年以内で償還を迎える公社債等(償 還日の前年応答日が到来したものを 含む。)で価格変動性が限定的であり、償却原価法による評価方法が合理的かつ受益者の利害を害しないと投資信託委託業者が判断した場合には、当該方式によって評価しております。</p>	同左
2 費用・収益の計上基準	-	有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。
3 表示	-	<p>平成18年4月20日付内閣府令 第49号による投資信託財産計算規則 の改正により、表示方法が以下の とおり変更されております。</p> <p>(1) 貸借対照表</p> <p>純資産の部は、従来の元本及び 剰余金の区分から、元本等及び評 価・換算差額等の区分となりました。 ただし、評価・換算差額等の 区分は記載すべき事項がないた め、記載を省略しております。</p>

(貸借対照表に関する注記)

(平成17年12月12日現在)	(平成18年6月12日現在)
-	1 計算期間の末日における受益権の総数 120,000,000 口
1 計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 1.0000円 (1万口当たり純資産額 10,000円)	2 計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 1.0001円 (1万口当たり純資産額 10,001円)

(その他の注記)

1 元本の移動

項目	対象年月日 (平成17年12月12日現在)	(平成18年6月12日現在)
期首元本額	40,000,000 円	40,000,000 円
期中追加設定元本額	0 円	80,000,000 円
期中一部解約元本額	0 円	0 円
期末元本額	40,000,000 円	120,000,000 円
元本の内訳*		
世界物価連動国債ファンド	40,000,000 円	120,000,000 円
合計	40,000,000 円	120,000,000 円

* 当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

2 売買目的有価証券の貸借対照表計上額等

(自平成17年6月11日 至平成17年12月12日)

売買目的有価証券の貸借対照表計上額及び当計算期間の損益に含まれた評価差額

種類	貸借対照表計上額	当計算期間の損益に含まれた評価差額
国債証券	29,999,673 円	0 円
合計	29,999,673 円	0 円

(自平成17年12月13日 至平成18年6月12日)

売買目的有価証券の貸借対照表計上額及び当計算期間の損益に含まれた評価差額

種類	貸借対照表計上額	当計算期間の損益に含まれた評価差額
国債証券	59,997,912 円	0 円
合計	59,997,912 円	0 円

3 デリバティブ取引関係

(自平成17年6月11日 至平成17年12月12日)

該当事項はありません。

(自平成17年12月13日 至平成18年6月12日)

該当事項はありません。

(3) 附属明細表

有価証券明細表

a. 株式

該当事項はありません。

b. 株式以外の有価証券

(平成18年6月12日現在)

種類	銘柄	額面総額(円)	評価額(円)	備考
国債証券	385 政府短期国債	60,000,000	59,997,912	
	合計	60,000,000	59,997,912	

有価証券先物取引等及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

2【ファンドの現況】

世界物価連動国債ファンド

【純資産額計算書】

	平成18年7月31日
資産総額	5,589,729,011円
負債総額	20,354,805円
純資産総額(-)	5,569,374,206円
発行済数量	5,398,562,956口
1単位当たり純資産額(/)	1.0316円

(参考) T & Dマネープールマザーファンド

純資産額計算書

	平成18年7月31日
資産総額	120,027,000円
負債総額	0円
純資産総額(-)	120,027,000円
発行済数量	120,000,000口
1単位当たり純資産額(/)	1.0002円

第5【設定及び解約の実績】

各特定期間の設定及び解約の実績は次のとおりです。

	設定口数	解約口数
第1期 特定期間 (平成17年2月28日 ~ 平成17年6月10日)	1,788,968,251	5,600,000
第2期 特定期間 (平成17年6月11日 ~ 平成17年12月12日)	2,385,715,608	711,617,110
第3期 特定期間 (平成17年12月13日 ~ 平成18年6月12日)	2,178,720,399	245,736,978

(注) 1 第1期特定期間の設定口数には、当初申込期間中の設定口数を含みます。

2 設定口数および解約口数は、全て本邦内におけるものです。

T&D T&Dアセットマネジメント
T&D 株式会社